



本当は、あなたも感じているはずだ！！



### Check it out♪

- 負け戦のパターン (1)
- 負け戦のパターン (2)
- 負け戦からの脱却
- 生贄の人数についての考察
- 還元率に敏感になってみる
- 出玉の上限や下限についての考察
- 強台のハマリ&弱台のハマリ
- 負けなくてよいときに負ける癖を修正しよう

一月刊

# Chaos Break

under the real chaos



- パチンコに翻弄をされる者たち  
完全現場主義を貫けるか  
パチンコ攻略業界に新しい風を (1) ~ (17)
- (1) 「完全確率と還元率」
  - (2) 「ホルコン魔法力の段階」
  - (3) 「人間の平均値を求めて」
  - (4) 「けりがり七者と貪りの欲」
  - (5) 「山根のボスと自尊心」
  - (6) 「パチンコ・オリンピック？」
  - (7) 「人生の訓練、直球と変化球」
  - (8) 「普通に考えて、イホを見破ろう」
  - (9) 「健全化を邪魔立てするもの」
  - (10) 「暴露話の裏にあるもの」
  - (11) 「呪いとサイコパス」
  - (12) 「未熟な魂・・・されど、性善説」
  - (13) 「何もロー事件から学んだこと」
  - (14) 「イメとム子と個人主義」
  - (15) 「敷かれたレールと分岐点」
  - (16) 「負け戦と落着思考」
  - (17) 「権一点、問無限」
- フォースを受け継いでいく者たち

- Q. パチンコをするにあたって、一番、大事なことは何ですか？  
Q. カオスがホルコン攻略にこだわる理由を教えてください。  
Q. コウさんは、怠け者なのか、マジメな人なのかよくわかりませんが、  
Q. コウさんが、特定の宗教団体などに肩入れをする理由は何ですか？  
Q. カオスブレイクが目指すものを教えてください。

著作権について

本テキストは著作権法で法の基に保護されている著作物です。本テキストの著作権は、「ホルコンマスターコウ/林光太郎」に帰属します。①本テキストを授与者各位が非独占的に使用する権利を承諾します。②著作権者の許可を得ずに、本テキストの内容の転載や引用、複製販売などを禁じます。又、印刷物としての再配布、電子記憶装置 (CD・DVD・ビデオ・USBメモリ等) による、複製販売や第三者への転売行為を固く禁じます。③授与者各位が上記規約に違反した場合には事前通告を要せず、規約違反の責務負担に同意したものとみなします。つまり、法的措置の対象とさせていただきますのでご了承ください。

コウです。

みなさん、こんにちはw

月刊カオスブレイクの一周年となりました。



そして、この写真はあまり関係がないのですが・・・

今年になって、カボチャの調理方法を覚えました。

こんなに固い野菜はイジメかよと考えていたのですがね。

普通に煮たら、やわらかくなるではないですか。

何でも、思い込んだまま放置をしないで、

挑戦をしてみるものですね。

うちよ〜って気分でしたん ㊄㊄㊄

ホルコンマスターコウ

コウです。いつもありがとうございます。

月日が経つのも早いもので、カオスブレイクの設立より、いつの間にか7年目が過ぎ去ろうとしています。今になって思えば、紆余曲折をしながらでも、「正しい方向性」や「正しさそのもの」を探り歩くような道のりではありましたが、そんなカオスブレイクであっても、やはり、それなりに運がよかったほうだと考えています。ありがたいことです。

私、思うのですよ。

世の中に、パチンコが上手な人たちは、たくさんあります。ただ、そうした人たちでも、不特定多数のみなさんを相手にして、「正しい考え方」や「正しい技術論」を「正しく伝達」ということは、至難の業であろうと考えるわけです。

それは、表現ひとつを取ってもそうですね。

同じ表現であっても、10人のみなさんがあれば、それだけの受け止められ方をされる可能性があります。例えば、「パチンコは甘くないのですよ。」という表現があっても、パチンコのどこが甘くないのか、どのようなときに甘くないのか、誰に対して甘くないのか・・・そうした事細かな説明がなければ、大抵の場合、みなさんの中を素通りするだけの表現になってしまいます。

私が文章を書く理由が、そこにあります。

カオスブレイクには、ホルコン攻略業界、最大級の情報量があると思います。それがみなさんにとって的を獲た内容であるのかについては、発展途上の最中かもしれません。しかし、不特定多数のみなさんを対象とした正しい考え方や技術論の伝達を考えたときに、「普遍性」や「再現性」が弱い内容であれば意味を成しませんし、それらを追求するときに、どうしても参考事例やサンプルが大量に必要となるのです。

結局、似たようなパチンコの腕前があるような人たちでも、その視線が、「内」に向くか、「外」に向くかの割合の違いによって、その人たちの存在価値が、いつしか、大きく変わってくるのだとも思うのです。「小聖は山に住み、大聖は町に住む」・・・そんな諺もあります。

さて、月刊カオスブレイク、今月号は、一周年記念ということで一般公開（無料）を考えています。配布方法については未定ですが、一般公開用の内容ということで、「パチンコに対する正しい考え方の追及」ということを念頭に、この月刊誌を書いていきます。

ですから、いつものカオスブレイクの技術的な内容については割愛をさせて頂きまして、一般のパチンコユーザーのみなさんと、カオスの愉快的な仲間のみなさんとに、そう、できるだけ共通をするような内容を考えてみます。

ただ、一般公開（無料）ということと、ここは、カオス・ワールドでございますので、私の主観の産物のような内容が99%を占めるでしょうから、不愉快的な表現や、危険な表現、パチンコに関係のないどうでもよさそうな話を書くとは思いますが、一切の苦情は受け付ません（笑）

それでは、みなさんが、お暇なときにでも読まれて下さい。



**新しい時代が、はじまっています。**

**古き固定概念や先入観と決別をする時代であるということです。**

**めぐるましく変転をする、この世の中で、**

**みなさんは、何を見つめ、何を考え、何を望みますか。**

**そう、あなたにしか、掴めないことがある。**

**そう、あなたにしか、手に入れることができないものがある。**

**そう、あなたにしか、愛せない者がいます。**

**素直になることです。**

**しかし、その素直さの中に、自分の欲を混ぜてはなりません。**

**自分のエゴを混ぜてはなりません。**

**自分のニセモノの知識を混ぜてはなりません。**

**ただ、ひたすらに、素直になることです。**

**素直になればこそ、運命の扉も、開闢をして行くのです。**

**そう、あなたには、できるはずなのです。**



「月刊カオスブレイク」の一周年記念という名目で今月号の特集に入ります。正直なところ、自分でもよう頑張ってきたなと思います。パチンコの攻略技術を考えるときに、本質的な間違いや錯覚があることは覚悟をして取り組んできたわけですが、そこにどれだけの「普遍性」や「再現性」を盛り込むことができるか・・・この感覚が常に付き纏っています。

平均的にホールA店では通用をする技術でも、ホールB店では通用をしない、そうした現実があったときに、それを技術と呼べるかという観点があり、或いは、同じ教科書やテキストを学ぶみなさんがあったときに、その結果がまるで天国と地獄に分かれることもあるわけです。

まともなパチンコホールに通うのなら普通に勝てるでしょう、というのがカオスブレイクのスタンスではあるのですが、みなさんが住まれる地域性におけるホール環境の要素と、考え方や何らかの癖を含む個人的な要素が交錯しますので、カオスのみなさんがすべて同じ結果になるわけでないことが、長年の私の悩みの種でもありますし、ある意味で、進歩や発展の種でもあります。

結局、カオスブレイクの技術論の根っ子にあるものは、「失敗の集大成」なのです。

私自身が失敗を繰り返してきたこと、カオスのみなさんが失敗を繰り返してこられたこと、それらをひとつひとつ丁寧に積み重ねてきたということです。「このようなやり方をしたら失敗をした」「このような予想は通用しなかった」「このような取り組み方では勝てなかった」「このような考え方では自爆をするだけだった」・・・

そうです。あまりにも多くの失敗や敗北を経験してきたからこそ、その失敗や敗北を避ける方向で新しく道をつくってきたわけです。これもひとつの「消去法」なのです。いや、これこそが、「消去法の本質」なのかもしれません。失敗や敗北をする方向を避けているということです。同じ失敗や敗北をしなければ、失敗や敗北をした数や件数に比例をして、正しい方向へと近付きます。

ですから、同じ失敗や敗北のパターンさえ繰り返さなければ、パチンコにおける技術は向上をするしかないのです。それは、人生全般や私生活、仕事においても同じです。同じ失敗や敗北を繰り返さなければ、人間は向上をしていくしか道がないのですね。成功をする方向にしか扉が開かなくなるのです。

「このようなやり方をしたら失敗をした」「このような予想は通用しなかった」「このような取り組み方では勝てなかった」「このような考え方では自爆をするだけだった」・・・

これが、みなさんの財産になるのです。それらが間違った方法だとわかったのであれば、それを止めればよいのです。選択をしなければよいのです。同じ過ちを何度も繰り返さないことです。

## 負け戦のパターン（1）

一周年記念ということで、どのようなテーマにするかの模索をしながら書いておりましたが、ここ一年間を振り返り、カオスのみなさん全般に言えることとして、平氣的な攻撃力は上がっておられるが、防御力がまだまだ弱い・・・ という感じでしょうか。

みなさんのお話を聞くときに、私は、「当てた台数」と「カマをされた台数」を聞きます。

この2項目で、大抵の状況がわかります。他に必要があれば、その日、ピークでは勝っていた時期があったか、数百円すらも勝っている時期がなかったのか、そうしたことを聞きます。このような会話を数回でも繰り返しますと、その人の実力がわかります。

例えば、カオスのみなさんを基準にしての話ですが、3回くらいそのパチンコホールに通われて、結果的には負けることになったとしても、ピークで勝っているような時期が1回もなかったという状況があったときに、そのホールはうんこホールの可能性が出てきます。1日だけの内容では判断も鈍りますけどね。3回も連続で手も足も出ないような状況であれば、ホール環境の問題が大きいかと思うのです。

当地のようなオゲゲの鬼太郎のようなホールでも、3日くらいを範囲としたときに、ピークでは数千発くらいプラスになるところが普通ですから、それよりも希望が薄いホールであればどうにもならんように思うのです。もちろん、予想外の偶発的な連チャンなどでプラス収支になったようなケースしかないのであれば考えものですが、いつも言いますように、3台くらい当てたときにどうなるか・・・ というモノサシですね。これが大切です。

そう、カマにしてもそうです。悔しい思いをして眺めていたカマ台が、すべて単発だったとか、何だよそれって思うことがあります。どうせカマをされたのなら、もう少し伸びればよいのについて思うことが多すぎるホール環境であれば、それこそ最低です。

ぶっちゃけの話ですが、カマがないホールより、カマがあるホールのほうが遥かにマシです。ついでですので、段階的に説明をしましょう。

### 参考事例) カマ被害における段階的な還元率の分析

- (1) 次のお客さんなどにすぐにカマをされて30,000発とか出される
- (2) 2～3時間後にカマをされて、そこそこ出される
- (3) カマどころか、その日は当たりもしない

みなさんのホールではいかがでしょうか。自分が止めたすべての台がそうなるわけではないでしょうが、だいたいの偏りがあるはずで、当地の魔界ホールなどでは、圧倒的に(3)が多いし、その次に(2)ですね。(1)ってケースはほとんどありません。

このように考えたときに、カマをされたとしても、数万発でも出ているホール環境のほうが、遥かにマシであるし、希望があるということです。「カマの悲劇」に悩めるみなさんがあったときに、それは希望でもあるのだ、という感覚を持って頂きたいです。

そうしたことで、これが、負け戦のパターンのひとつの答えです。

はい、それがどう答えになるのかという話ですか。そうですね。カマをされても悔しくもないようなパチンコホールは最低であるということなのです。射幸心も煽っていないわけです。ある意味で、良心的なホールかもしれません。

ただ、普通に考えて、通う価値はありません。カマをされて泣きたくなるほどに悔しい気持ちになれるホールのほうが研究をする価値もありますし、今後の希望もある、ということです。ですから、カマをされても気にもならないようなホール環境や、そうしたシマの状況があったときに、そこで自分が戦っているつもりになっていることじたいを修正する必要があります。

みなさん、もう薄々は気が付かれていますね。「こんな状況で戦ったところで勝てるはずがない・・・」「これから2～3台くらい当てたところで伸びることはないだろうし、粘れば粘るほどに深みにハマる・・・」「ほぼ間違いなく、さっさと帰ったほうがよい・・・」

パチンコホールでの嫌な予感というものは、別に靈感が鈍い人でもよく当たります。

しかも、パチンコでは、一発逆転ホームランを狙えば狙うほどに、深い地獄へ堕ちていきます。間違いがないでしょうね。その日一日は、何とか助かることもあるかもしれません。起死回生の逆転劇があることは認めますし、粘り勝ちということがあることも知っています。

そうですね。パチンコがチョコレートのように甘い世界であれば、そうした取り組み方もありだろうと思いますが、普通のお客さんを見ている限りでは、どこのパチンコホールも甘くはないと思いますし、結局、勝っているときに帰れないタイプの人や、閉店近くのガラガラ状態になるまで打たないと気がすまないタイプの方は、どのような技術や方法を駆使しても、パチンコで勝てるようになることはありえないと思うのです。

パチンコホールに行ったときに、どこかで止めて帰らなければならないのですが、その境界線をどこにするのかは、人それぞれですし、ある意味で、人の勝手です。そして、このテーマについてはあまり深く研究をする人が少ないですね。

「コウさん、パチンコはどのようなタイミングで帰るべきですか？」

正直なところ、このような質問を受けたことがありません。私、不思議に思います。もしかしくなくても、パチンコから帰るタイミングというものは、パチンコを攻略する上で、一番目か二番目に大切なことのように考えるからです。勝っているときに帰れないタイプの方は、100%負けが確定します。当たり前のことですね。

それでは、矛先を変えまして、一般のお客さんの心理を考えましょう。一般のお客さんは、何で負けるのでしょうか。普通に考えて、負けて帰ることが多いからです。勝って帰ることよりも、負けて帰ることのほうが多いから、結果的に負けるのです。

言葉を変えれば、勝っているときはあるが、それからもっと勝ちたいなどの欲求が先行をして、それで帰れなかったことが原因になって、結局は負けてしまった、というパチンコライフの悪循環に陥っているかのようです。一時的には勝っているときもあると思います。しかし、帰れないので負けてしまう・・・パチンコホールは、このようなパターンの繰り返しで、カモや生贄となるお客さんの大量生産に成功をしているのだと思います。

そして、そうした一般のお客さんたちが負ける最大の原因は、どのくらいの勝ちで帰ったらよいかの「目安がない」ということです。

## 負け戦のパターン（2）

さて、負け戦のパターン（2）に入ります。負け戦のパターン（1）では、勝てそうにない予感がある状況で戦うことの不毛さやリスクを考えてみましたが、今回は、その延長線上といいますか、遡ったところにある原因について考えます。

『そうした一般のお客さんたちが負ける最大の原因は、どのくらいの勝ちで帰ったらよいかの「目安がない」ということです。』

ここがポイントになります。例えば、みなさん、いくらくらい勝ったらパチンコから帰ることができますか。納得ができますか。

私がこのような質問をしたときに、「はい、20,000円でも勝てたら満足です。」「私は10,000円でよいです。」「僕は5,000円でも勝てれば帰ります。」・・・このような返答があるかもしれません。

別に冷たい表現でもなく、普通で思うのですが、このような返答があることじたい、パチンコで勝てるようにはならないと思うわけです。なぜなら、物事の出発点が自己中心的な考え方だからです。自分を中心に、世の中やパチンコホールが周っているわけではありません。

例えば、どこかのホールのシマで、最高に出た台が3箱くらいで、それをすべて換金したときに15,000円くらいかもしれません。そこで、「はい、20,000円でも勝てたら満足です。」という人が頑張っていたときに、その人は満足をしないうけですね。そう、まだまだ帰れない方向にその人の心理が働くかもしれません。

その人の都合や要望はわかりますが、どんなに頑張っても20,000円すら勝てる人がいないような状況であれば、その人はいつまでも帰ることができなくて自爆をするでしょう。このように、自分で決めたルールや要望、願望のようなものでしょうか。「〇〇が〇〇であれば、満足をしてパチンコから帰ることができる」という考え方は、極めて危険かもしれません。

昔、私の知人にもいました。・・・あと1箱、増えたら帰ります。その人は、口癖のようによく言っていましたね。

たしかに、それから追加で1箱くらい増えることもありました。しかし、長い目で見たときに、それで増やして帰ることができた回数と、そこから減らして泣きかぶって帰った回数とを比較したときに、説明をするまでもなく「損」をしていました。それどころか、一時的には勝っていたのにいつのまにか暴走をしてしまって、結局は負けるはめになったというケースのほうが多かったかもしれません。

次に当たる台について、絶大な自信があるので狙うことと、あと1箱でも増えたら自分が満足をするからと狙っているのでは、別次元の話になります。まったく違う話です。後者は技術でも何でもありません。ただの欲望か遊びです。

そうしたことで、自分だけの都合や欲望、或いは、遊び気分で「満足ライン」を引いてしまますと、長い目で見たときに、どうしてもそれらが足を引っ張り、結果的に、「損」をしたり負けが込んだりしますので、このような考え方の癖がある人は修正をするべきなのですね。その修正をしない限りは、同じことを何度も何度も繰り返して、自暴自棄になったりウツになったりすることもあります。パチンコで廃人になった人は多いのです。

さて、余談が多くて先に進みませんね。

『そうした一般のお客さんたちが負ける最大の原因は、どのくらいの勝ちで帰ったらよいのかの「目安がない」ということです。』

3回目になります。先ほど、「満足ライン」という表現をしましたが、それも主観的な表現であって、本来は、「その状況に適合をした引くべきライン」という表現がよいかと思えます。「引くべき」ということです。それは、「帰ってもよい。」とか、「んじゃ、そろそろ帰りましょうか？」とかの世界ではないのですね。

プロでなくても、「パチンコで負けたくないなら帰るべきライン」ということです。

その「目安」がないか、弱いので、一般のお客さんはパチンコで負けますし、カオスのみなさんでも負けることがある、という話なのです。

何度も書いてしまいましたが、「自分の満足の世界」ではないのです。「最終的に勝つためには帰らなければならないライン」です。どれだけこの線引きができるか・・・ どれだけ正確に引くことができるか・・・ どれだけ守れるか・・・ これが実力なのです。

例えば、どんなにカオスの技術をマスターしている人がいたとしてもですよ・・・ 勝っているときに帰れないのであれば、それは初心者と変わりません。私もそうです。10台くらい当てても負けているときがありますけど、そんなときに初めてパチンコをしに来たようなお客さんが、まぐれでも単発などを引いて、それで即止めをして勝って帰っているのを見たときに、パチンコの実力とはどこにあるのかと考えることがあります。

私は、初めてパチンコをしに来たようなお客さんより下手くそなのかと悩みますよ。

しかし、そこで毎度のように悩んでいてもしょうがないですから、「パチンコを当てる技術」と、「勝って帰る技術」の両方を鍛えようと努力をするわけです。そのために、自己中心的な考え方や発想ではない、「一定の目安」を設定する必要がある、ということを考えるのです。

参考事例) 平均出玉から引くべきラインを読み取る (1)

Aグループ				Bグループ				Eグループ				Fグループ			
2									1						8
シマA 通路															
		4			5							1			
Dグループ				Cグループ				Hグループ				Gグループ			

それでは、参考事例です。ホール現場の写真も使ったほうが見栄えがよさそうなのですが、めんどくさいので図のみでお願いします。そして、以前にも似たような話をした気もしますが、今回はできるだけ丁寧に説明ができるように努力をします。

ポイントは2項目です。「平均出玉」と、「平均初当たり投資金額」です。まずは、「平均出玉」からです。いつも台番号を書いている枠に仮想の出玉を記載します。単位は1,000発です。例えば、「2」と記載しているときには、2,000発ということです。

そして、5,000発未満を薄い緑色（■）で配色し、5,000発以上をピンク色（■）で配色します。当たりがなく、「出玉=0発の台」や「マイナス出玉」の台は着色していません。

さて、単純に分析をしましょう。例えば、まともとも言いようがないかもしれませんが、とりあえず出玉があった台が6台になりますね。その6台の出玉を合計します。2,000発+1,000発+8,000発+4,000発+5,000発+1,000発=21,000発です。

その21,000発を6台分で割ります。21,000発÷6台=3,500発ですね。これが、まともにも当たっていて出玉がある台の平均値になります。

そうです。この出玉が、このシマにおける「パチンコで負けたくないなら帰らなければならないライン」の答えのひとつになります。つまり、このシマで3,500発まで出玉を確保できたのなら帰るべきです。或いは、そのシマの状況が変わるまで待機をするか、他のシマへ行くべきですね。

短絡的な物事での平均値は弱いこともありますが、長い目で考えたときに、平均値は「最強のモノサシ」になります。私は、世の中のすべての事象は平均値に帰結をすると考えますので、みなさんも、それを信じられたほうがよいかと思います。

参考事例) 平均出玉から引くべきラインを読み取る (2)

Aグループ				Bグループ				Eグループ				Fグループ			
1									1						5
シマA 通路															
		1			1								1		
Dグループ				Cグループ				Hグループ				Gグループ			

それでは、同じポジションですが、出玉の様相を変更します。

同じように分析をしましょう。合計は、1,000発+1,000発+5,000発+1,000発+1,000発+1,000発=10,000発です。

その10,000発を6台分で割ります。10,000発÷6台=約1,666発ですね。これが、まともにも当たっていて出玉がある台の平均値になります。

ここがポイントですね。約1,666発・・・普通に考えてですよ。手堅く負けたくないパチンコを考えたときに、「パチンコで負けたくないなら帰らなければならないライン」が約1,666発であるならば、それは避けるほうが利口ですね。

当地の魔界ホールにおいて、現実にはこのような状況のシマや時間帯があります。平均値を意識して、守って、私が勝てるラインが約1,666発という状況です。仮に、持ち玉の1000発や2000発で当てることができたとしても、増えるのは、1,000発前後でしょう。しかし、それは見事に的中すればの話であって、下手をしたら全損という結末もありえます。

「参考事例) 平均出玉から引くべきラインを読み取る (1)」のケースでは、3,500発までの希望がありましたが、今回は、約1,666発ということで、約半分の希望しかありません。これは、私にとっても負け戦になることがやや確定をしている、ということです。

次に、「平均初当たり投資金額」の要素を考えます。これは個人差がある話ですから微妙ではありますが、先ほどの『仮に、持ち玉の100発や200発で当てることができたとしても、増えるのは、1,000発前後でしょう。』という話をしましたが、そのときの目安になります。

仮に、どの台かを当て、本当に1,000発くらいしか増えない状況だとしても、座って数回転で当てることができればプラスになります。それが貸し玉4円ホールの等価交換などであれば狙う価値もありますね。

しかし、現実には、毎回のように座って数回転で当てることは不可能に近いのです。ときには、その台が当たるにしても1,000~2,000発くらい必要になることもありますし、まったく予想がはずれて当たりもしないこともあります。当たることもあるが当たらないこともあるということでは、普通のお客さんと変わりません。

ですから、ここにも平均値という考え方を導入して、前述からの「平均出玉」に対しての期待値と比較参照をする必要が出てくるのですね。単純に、例えば、「平均出玉」が約1,666発という状況を察したときに、自分の実力であるところの「平均初当たり投資金額」が約2,000発であれば、それからどのように戦おうと、平均値としては、ほぼ間違いなく負けることになります。

1台を当てるのに、約2,000発が必要な人がいて、それで当たったところで約1,666発が関の山であれば、勝てる要素はありません。そうですね・・・普通のお客さんには、この感覚がありません。シマを眺めたときに、そのお客さんの感覚から、何となく出ていると感じるか、普通か、出ていないと感じるか、この3種類かもしれません。

そして、「出玉の平均値」まで考察をするお客さんは少ないと思いますけど、仮にそうしたお客さんがいたとしても、今回の内容のような、「自分の実力」との比較参照まではしていないように思います。自分は何千発くらいあれば当たりを取れるだろうか、そして、この状況で当てることができたとしても、どのくらいのプラスになるのだろうか、という期待値や平均値です。

そう、アバウトだということですね。別に極端な表現でもないでしょうが、このように、普通のお客さんは、「勝てるためのモノサシ」を持たないで戦っているわけです。

『そうした一般のお客さんたちが負ける最大の原因は、どのくらいの勝ちで帰ったらよいかの「目安がない」ということです。』

4回も同じ文章を転載しました。この「目安」が、「勝てるためのモノサシ」であり、「パチンコで負けたくないなら帰らなければならないライン」ということですね。

例えば、それは、目的地がわからないままに新幹線や飛行機に乗っているようなものです。ご本人は旅行でもしているような気分かもしれませんが、どこに行けばよいかもわからず、どこで降りたらよいかもわからない状況のようなものです。それを第三者が見たときに、その状況は、何者かに誘拐か拉致をされたようにしか思えないかもしれません。

同じことが一般のお客さんたちの財布の中で起こっていますね。1,000円札や10,000円札が、まるで誘拐や拉致をされているかのように行方不明になっていきます。どこまで粘ったらよいかわからない、どこで帰ったらよいかわからない・・・こんなことを毎度のように繰り返しているわけです。

普通に考えて、新幹線や飛行機などは、目的地がわからなければ出発ができないのです。

パチンコやスロットも同じように、もちろん、他のギャンブルもそうでしょうが、一定の目的や引き際という「何らかの目安」を持たなければ、それに飲まれて相手側が意図をするようなカモや生贄になってしまうという、恐ろしい世界だと思うのです。

さて、続きがあります。「平均初当たり投資金額」の要素についての内容でしたが、この話も大きく2項目に分けて分析をする必要があります。

(A) 自分の平均実力をモノサシにする

(B) 他のお客さんが当たっている状況をモノサシにする

この2項目です。

参考事例) 空き台が当たるサイクルから狙うべきかを考える (1)

Aグループ				Bグループ				Eグループ				Fグループ			
10									10						70
シマA 通路															
		10			50								90		
Dグループ				Cグループ				Hグループ				Gグループ			

それで、いつも台番号を書いている枠に仮想の初当たり回転数を記載します。例えば、「10」と記載しているときには、空き台であった台が、10回転くらいで当たったということです。50回転以内で当たった台については薄い緑色(■)で着色し、50回転以上かかって当たった台については紫色(■)で着色しました。50回転となりますと、けっこうきついですからね。座ってすぐに当たったという状況ではないですね。

さて、(A)について、カオスブレイクでは、自分の「平均初当たり投資金額」という概念を大切にしているわけですが、ようは、「平均換金金額」と並んで、自分の実力を計るモノサシになりますね。ただ、この概念や平均値そのものが、自分が通っているホール環境に強度な依存をしているという事実があると思うのです。

単純に、私が他のパチンコホールに通えば、その平均値は変わります。ホール環境によって、自分の平均値が変わるということです。そう考えたときに、自分の実力だと思っていたものは何であったのかという疑問が出ないわけでもないですが、結局、今、通っているホール環境に対しての自分の実力や平均値であるだけの話であって、本質ではないということです。

それだけ、ホール環境によって、みなさんの感覚や自己評価も変わるということですね。ですから、まともなホールに通えば、自分が上達をしたかプロにでもなったような気分になり、オゲゲの魔界ホールに通えば、ノイローゼになるくらいに自信を失くすということもあります。

そうしたことを前提として、(B)については、極めてフラットに、シマの状況を分析する必要がありますと思うのです。そう、とりあえず、自分の実力を無視して、自己評価をしている自分の実力ですね。それを無視して、シマの状況を考察するような感覚です。自分の実力と、今、シマで起こっている状況や、他のお客さんが当たっているような状況とを、完全に切り離すような感覚で観察をすることが大切です。

参考事例) 空き台が当たるサイクルから狙うべきかを考える (2)

Aグループ				Bグループ				Eグループ				Fグループ			
60								80							80
シマA 通路															
		70				50								90	
Dグループ				Cグループ				Hグループ				Gグループ			

それでは、「参考事例) 空き台が当たるサイクルから狙うべきかを考える (1) & (2)」について、同時進行で説明をします。

ちょっと前のページになりましたので見えにくいかと思いますが、このふたつの事例には、共通をすることと、反発をすることがあります。共通をすることは簡単ですね。同じポジションの台がいつかは当たった、ということです。

そして、反発をすることは、空き台であった台が、「簡単に当たる台がある状況」と、「簡単には当たる台がない状況」である、ということです。ここが致命的な相違点になります。この違いがあるがゆえに、カオスのみなさんでも自爆をされることが多いわけです。

今回は、事例用ということで、100回転以下の回転数で当たったという想定ですから、まだ何とか絞り込みができた、粘って当てることのできるような気持ちにもなりますけどね。実際には、当たるにしても、200回転や300回転、下手をしたら、ベースグループなどではその台しか当たらないのに、500~600回転まで打たなければ当たらないというような状況もあります。

このふたつの事例は、そこまで深刻な状況についての処方箋ではありませんのでよいのですが、「参考事例) 空き台が当たるサイクルから狙うべきかを考える (2)」については、単純に考えたときにでも、500円や1,000円で当たる台がない、という状況に変わりませんので、そうしたときにどう考えるかという話です。

例えば、平均的な回転率が、15回転/1,000円くらいでよいです。それを60回転まで回すには4,000円くらいですかね。ここで、3,000円あれば1台は当てることのできるような実力がある人がいたとしても、そんなことに無関係のように、3,000円までで当たる台など1台もなかった・・・というケースだということです。

ここがポイントですね。「自分の実力と、今、シマで起こっている状況や、他のお客さんが当たっているような状況とを、完全に切り離すような感覚で観察をすることが大切です。」・・・

自分の実力が及ばない状況があるならば、そのシマの状況に順応や妥協をするか、自分の手には負えないと辞退をするべきなのです。ただ、自分の実力が通用をしないのであれば、すんなりと順応をすることも難しいでしょうし、妥協をしたところで勝てる保障もありません。ですから、基本的には、「参考事例) 空き台が当たるサイクルから狙うべきかを考える (2)」のような状況であれば、避けることが得策であり、本当はそうしなければならないものだと思うのです。

その「モノサシ」になる件数が、3件くらいです。お客さんが3人くらい新規などで座って、すぐにも当たる台がないような場合は、かなり厳しい状況だと想定したほうがよいです。

## 負け戦からの脱却

それではまとめに入ります。今回の内容は単純なことなのですが、単純がゆえに蔑ろにされがちといえますか、みなさんもあまり気にされないようなケースが多いでしょうから、それが原因でケアレスミスに繋がるような話だと思うのです。

ぶっちゃけ、自分で認識ができる範囲でも、きちんと境界線を引いたり、引き際を守ったりするだけで、かなりの損害が減ると思うのですよ。いつも言いますように、自信がないのに打っているから金が減るのであって、自信がなければ打たなきゃよいのです。それができるかどうか、みなさんの実力として定着をしてくるのです。

「当てる技術」を極められることは大いに結構です。しかし、パチンコで負けている割合が多くて悩めるみなさんがあったときや、実力の伸び悩みで頭を抱えられるみなさんがあったときには、「勝てる技術」や「身を守る技術」を優先して極めて頂きたいのです。そのために、自己分析や状況分析のレベルを上げる必要がありますね。

今日は負け戦だとわかっていて、それでも戦っておられるみなさんが、必ずあります。笑い話にもなりませんけど、常連のおじさんで、「今日は出していないよ」って言いながら、いつまでもパチンコをしている風景があります。出していないとわかっているのであれば、帰ればよいのです。

「出でない出でない」と文句を言いながら、それでも居続けるお客さんがあったときに、本当に、依存症などの病気か、Mっ気が強いのだと思います。そんなにイジメられたいのであれば、SMクラブにでも通ったほうが、まだ金が残るでしょう。

### 負け戦のパターン（1）についてのまとめ

『「こんな状況で戦ったところで勝てるはずがない・・・」「これから2～3台くらい当てたところで伸びることはないだろうし、粘れば粘るほどに深みにハマる・・・」「ほぼ間違いなく、さっさと帰ったほうがよい・・・」』

みなさんもお心当たりがあるはずですね。必ず、経験をされていると思います。このような状況で、帰ることができるかということが、「勝てる技術」や「身を守る技術」に繋がります。逆に考えたときに、このような状況でのみ、「勝てる技術」や「身を守る技術」が鍛えられるのですよ。

カオスでも、当てることは上手だが、身を守ることは素人に近い人がいます。そう、「勝てる技術」や「身を守る技術」を鍛えていないのです。レベルアップをしていないのです。何かの戦があったときに、剣や槍は持っていくが、盾を持って行かないようなものです。盾を持っている人とそうでない人とを比べたときに、どうしても盾を持っている人のほうが長生きをしそうです。生存率が高くなりそうですね。

『そして、そうした一般のお客さんたちが負ける最大の原因は、どのくらいの勝ちで帰ったらよいのかの「目安がない」ということです。』

表現は悪いでしょうけど、一般のお客さんたちもそこまでアホではないでしょうから、いくらなんでも勝てそうにない状況であれば、止めたり帰ったりになるかと思えます。ただ、そこに戦術的な考え方や行動は弱いと思います。結局、一定の状況判断に基付いて、その後の行動を変えねばならないのですが、パチンコをする動機や目的が主観的な発想であることが多いですから、最初から最後まで自分の都合や気分で終始をしているように思えますね。

パチンコホールは、自分の都合や希望を叶えてくれる相談所などではありませんからね。大抵のケースでは、射幸心を煽られ、金を奪われて終わります。基本的には、みなさんを助けてくれるボランティア団体でも、夢を叶えてくれるサンタクロースでもないわけです。

ですから、自分に甘い人、自分の都合や気分を優先しやすい人、自分、自分、自分・・・

このように、自分の何かを優先しようとする傾向性が強い人から、まるで崖から落ちるように、パチンコ地獄に転落をしているのが現状だと思うわけです。パチンコホールには、100%、客観的な事実があります。それを単純に2分割しますと、「お客さんに勝たせる気持ちがある状況」か、そうではなく、「お客さんに勝たせる気持ちがない状況」かですね。

そこに「自分の実力の要素」が絡んできますので、やや複雑にもなるのですが、複雑な問題は細分化をしながら対応をしたらよいだけの話でしょうから、今回の内容のように、段階的にでも、「一定の目安」を基準に「自己分析」や「状況分析」をしながら、「勝てる状況なのか？」の判断をしていくわけです。

それが、「平均出玉」や「平均初当たり投資金額」の要素に繋がっていくのです。

負け戦のパターン（2）についてのまとめ

次に、（2）に入ります。まとめですね。

『このように、自分で決めたルールや要望、願望のようなものでしょうか。「〇〇が〇〇であれば、満足をしてパチンコから帰ることができる」という考え方は、極めて危険かもしれません。』

自分で書いていて、そうだと思います。この「満足」という表現そのものが、自分の都合の産物ですからね。いつも自分の都合が優先をされると思ったら大間違いで、仏教の言葉を引用するならば、自我が強ければ強いほどに、周囲との協調性や調和性が弱くなりますから、結果的に、孤立をしたり弾き出されたりすることが多くなるというようなニュアンスでしょうか。

ようは、自分の父親や母親に、「小遣いをくれ！」と言っているようなものであって、家族などであれば、そうした都合も通るかもしれませんが、その相手がパチンコホールになったときに、「俺を勝たせろ！」って言っているようなものでしょうからね。

いや、本当にあるのですよ。

「何で連チャンしないんだ！！！」って思うみなさんがありませんか。私もありますので自分で耳が痛いところがありますが。ただ、本当は、この心境も、その気持ちの根っ子を掘り起こしたら「自分の都合」でしかないのです。

このメカニズムといいますか、真相はわかりますよね。「自分が連チャンをしない台に座っておいで文句を言っている」だけです。もちろん、還元率が犯罪スケールで低すぎるようなパチンコホールであれば、やがて客離れが進行をして潰れていくこともあるかと思えますから、そうしたお客さんからの苦情なりクレームなりが多発をしてもしょうがないと思えますけどね。

ただ、どこのパチンコホールに通うかは、その人の自由でしょうから、オゲゲのうんこホールには通わなければよいだけの話であって、自分で選んだことに対して対象のパチンコホールが文句を言われるのも気の毒な気がしないでもないです。

『何度も書いてしまいましたが、「自分の満足の世界」ではないのです。「最終的に勝つためには帰らなければならないライン」です。どれだけこの線引きができるか・・・ どれだけ正確に引くことができるか・・・ どれだけ守れるか・・・ これが実力なのです。』

ここも大切な文章になるでしょう。プロでなくても、「パチンコで負けたくないなら帰らなければならないライン」ということでした。極端な話、一日のパチンコで50万円など勝つことは不可能に近いですね。しかし、それが10万円くらいであれば、希望があるホールもあるわけです。ところが、ホール環境によっては、2万円すら勝てそうにない状況もありえます。

そこで自分の満足指数を基準にしてしまつては、間違いなく「勝てるパチンコの計画」が立たなくなります。ですから、例えば、ホールA店では5万円くらいまでを狙えるが、ホールB店では1万円までを射程範囲としないことには、とてもでないが計画も立たないし、途中で何かが狂ってくる・・・ということになります。

そうであれば、自分を中心とした都合や要望、願望や希望を一蹴するべきです。あくまでも、そのホール環境に応じた目標設定なり収支計画なりを立てなければなりませんし、同じホールでも、曜日や時間帯によって、その目標設定の変更をしなければなりません。

みなさんの心の中には、必ずに近いくらい、「今日は15,000円くらい勝ちたいな」などの要望があると思います。目標を設定することが悪いことではないのですが、どうしても、自分の都合や要望、願望や希望が先行してしまつて、ホール現場の状況を見無視してそのままの状態が最後まで続くと、やはり何かが狂ってくるのですね。

例えば、「最初は15,000円くらい勝てたら帰ろうと思って来てみたが、どうやら今日は無理そう。3,000円でも勝てたらさっさと帰ったほうがよいだろう。」・・・このようにホール現場の状況を見ながら計画の変更をしなければならないこともあります。その目安となるのが、「平均出玉」と、「平均初当たり投資金額」ということでした。

『ここがポイントですね。約1,666発・・・普通に考えてですよ。手堅く負けないパチンコを考えたときに、「パチンコで負けたくないなら帰らなければならないライン」が約1,666発であるならば、それは避けるほうが利口ですね。』

現実にある話なのですが、本当に引きますよね。結局、他のお客さんたちが嘆いているような状況では、簡単に当たる台も少ないということですから、仮に、魔法使いのように連続で当たるところで玉が増えないのが目に見えています。私の場合は、ブログのネタになりますし、何かの研究材料や当てる練習になるので挑戦をすることが多いのですが、他のみなさんであれば避けたほうがよいと思うのです。

パチンコはこんなにも汚いものなのだろうか、うんざりするくらいに経験をしてきましたが、私たちの想像を遥かに超えるくらいの回収劇場も実在をしていると思うのです。日本は平和ボケの国ですからね。全国的な暴動事件や、ホール関係者への傷害事件などが立て続けに起こらない限りは、パチンコホールの還元率は下がる一方のような気がします。

そもそも、法的にパチンコホールは遊技場ですから、お客さんに金を還元する必要性はないのですね。しかし、お客さんもアホではありませんので、その還元率の比率が「10対0」などであれば、そのホールに通わなくなります。お客さんが来なければ商売が成り立ちません。ですから、「9対1」や「8対2」くらいの比率でしょうがなく還元をしているというのが現実だと思います。稀に、還元率80%くらいのホールがあるという噂も聞きますけどね。実際にはわかりません。

『さて、続きがあります。「平均初当たり投資金額」の要素についての内容でしたが、この話も大きく2項目に分けて分析をする必要があります。』

(1) 自分の平均実力をモノサシにする

(2) 他のお客さんが当たっている状況をモノサシにする

それでは、次のテーマですね。

空き台がどのくらいの金額で当たるのかということについて、2種類のモノサシが必要だということでした。例えば、魔術師のように数回転で当てることを極意とするような実力がある人がいたとしても、シマそのものに、数回転で当たるような台が1台もないケースがありますからね。

魔術師もビックリで、泣きながら10台くらいカニ歩きをしているかもしれません。このように、どれだけ当てることに自信がある人がいたとしても、その人が強制的に当たりを発生させることはできませんので、結局、サクッと当たる台を狙うことになるのですが、シマの状況によっては、そんなに簡単に当たる台がないこともあるのです。

連チャンをしている台はあるが、空き台にまったくチャンスがなかった・・・ ありえます。

『極めてフラットに、シマの状況を分析する必要があると思うのです。そう、とりあえず、自分の実力を無視して、自己評価をしている自分の実力ですね。それを無視して、シマの状況を考察するような感覚です。』

これが正解ですね。ちなみに、私の感覚なのですが、全般的に、「自分の実力を意識する割合＝2割」くらいで、「シマの状況を意識する割合＝8割」くらいだと思います。この割合が変化をすることもあるのですが、やはり、他のお客さんが総勢で悩んでいるような風景があったときに、これはやばいのではないかと寒気がすることが多いですから、自信過剰になることは少ないですね。

そう、一定のシマの状況があったときに、その流れに沿いたいと考えるのですが、稀に、自分の実力ではその流れに乗れないと感じることはあります。そうしたときに、今の自分の実力では無理なのだろうと自己分析をすることになります。例えば、MAX機種でありますけど、1/40台や2/40台の正解とかですね。

最初は、真剣に3台くらいに絞り込んで狙えば当たるだろうと考えるわけです。しかし、そのときの状況によっては反応もしないことがあります。実際には手遅れになってしましますが、そうしたときには、シマの状況の分析が弱かったということを知ります。

甘デジくらいでしたらね、自分が3台くらいリストアップをすればどれか当たるよねって意識が先行をしますけど、あまりにもシマの状況が悪すぎるときには、その3台でも当たらないことがあります。ですから、他のお客さんが悶絶をしているような風景があったときには、さすがの私も慎重にシマの分析といいますか、勝てる可能性を考えます。当たるかどうかではなくてですね。その状況で勝てるかどうか、というモノサシを基準にします。

結局、「伸び率の要素」も含んで、他のお客さんたちがですよ、適当に座っても当たっているような風景であれば、私たちにも希望があるということですね。それは限られた時間帯かもしれませんが、それだけ「当たりの在庫」があるわけで、そうした状況の違いに敏感になることが大切だと思います。自分の実力と、シマの状況を切り離してフラットに見てみる、この習慣は必要です。

『その「モノサシ」になる件数が、3件くらいです。お客さんが3人くらい新規などで座って、すぐにでも当たる台がないような場合は、かなり厳しい状況だと想定したほうがよいです。』

まとめ話の続きですが、この話は、私のパチンコ人生で、毎回のように実感をしていることです。前述をしましたように、シマ内の空き台で簡単に当たるような台が少ないか、ほとんどないケースですね。これは遊戯台のスペックによっても変わりますが、普通、甘デジくらいであれば、シマに1～2台くらいはすぐにでも当たるような台があります。

それがMAX機種などになりますと、本当に、今、当たっている台以外の空き台が当たらないケースがあって、それらの空き台の一部が当たるにしても2時間後とか、3時間後とかになることもあるわけです。

それで、いつか当たるならまだしも、その日には当たりもしないという想像を絶するような回収の現場もありえるのが恐ろしいのですが、そうした状況の先読みをするために、他のお客さんの動向を見ておく必要があるのですね。

冷酷なようですけど、本当に、人柱のようなものです。

この話は私の偏見かもしれませんが、最もわかりやすい事例があります。そう、初めてそのホールに来たようなお客さんが1～3人くらいいたときに、その人たちがまったく当たらないケースですね。完全に近いくらいの回収現場になっている可能性が大ですので、そうしたときには、そのシマから退散をするようにしています。

餌付けをする必要もないか、それができないくらいに回収をしている気配ですね。

普通、初めて来店したようなお客さんがあったときに、当たらなくてもよさそうな台でも平気で生き返って当たったり、連チャンをはじめたりしますからね。パチンコホールの七不思議ではありませんけど、そうした奇跡も起こらないようなシマ現場というものは、やはり危険です。

そうしたことで、その目安になるのが3人くらいです。平均値ですね。別に新人のお客さんでなくてもよいのですが、3人くらい新しく座って誰も当たらないと、自分が何かを狙って座ったときにも当たらない可能性が高くなる、ということです。このような考え方が、自分の実力の話ととりあえず置いておいて、シマの状況をフラットに見てみる、ということです。

単純に、適当に座ったようなお客さんたちがポコポコと当たっているような状況であれば、自分が座っても当たる可能性が高くなりますし、逆に、その人なりに狙って座っているようなお客さんたちが誰も当たらないような状況であれば、不運を引き継ぐように自分も厳しくなるということであって、そこに「一定の目安」を設定するということですね。

これが、空き台に自分が座ったときに、早めに当たるかどうかの目安になります。何度も書きま  
すけど、3人くらいを人柱にするという感覚です。

そして、やや同時進行で、「伸び率」の判断や先読みもしてよいと思いますね。これも3台くらいが平均値になります。例えば、シマ内で3台くらいが当たったのに、そのすべてが単発でしたと、そうした状況であれば、自分が4台目を当てたところで怪しくなります。どこを見ても単発ばかりであれば、やはり、自分も勝てる可能性が低下してしまいます。

## 還元率に敏感になってみる

先月でしたっけ、7台連続で単発という貴重な経験をしてみました。そのときの状況を一言で表現するならば、「砂漠地帯」です。砂漠の中で水溜りを求めて這いずりまわっているような感じでしたね。動けば動くほどに体力を消耗し、救助隊を待つ以外に助かる道がないような風景でした。

いつかの月刊カオスでも書きましたように、「極限に低い還元率の現場」というものがあります。それは特定のシマに限ってのことが多いのですが、ホール全体でもそうした空気が漂っていることもあるでしょう。つまり、ここまで冷酷に回収ができるものなのか・・・という状況です。

単純に、「極めて当たりが生まれにくい」状況や、「当たりが生まれたところで誰が勝てるのか？」という状況です。「極限に低い還元率の現場」に加えて、稼働率も低ければ、そこはもう、パチンコホールではありません。現金回収センターか、現金回収機関のようなものですね。自分はパチンコホールというものを誤解していたのかと、そう感じるような瞬間もあります。

それで、そうした状況を把握していても、私はマスターだからと挑戦をすると自爆をします。

これは私の感覚でしかありませんけどね・・・その境界線が、推定還元率10%です。それを下回ると、かなりの苦戦をするか自爆をする、という流れになると思います。還元率の把握そのものは、波グラフの差玉を目視で集計するくらいの話ですけど、推定還元率15%でもあれば、そこそ楽だと思えます。

先日のAKB2の5台グループの推定還元率は7.4%くらいでしたからね。一日打っていたら、すべての台が負ける台なのはよくある風景なのですが、あまりに惨い状況だと思いながら見ていました。私もタイミングを見ながら2台当てましたけど、とてもではないが勝てる要素を感じることができませんでしたね。

例えば、計算式などはアバウトかもしれませんが、推定還元率10%でも、30,000発の回収に成功をしたときに、そのお釣りが3,000発になります。全体的に稼働率が低いと、その30,000発の回収ができませんからね。ですから、当地の魔界ホールの甘デジなどは、当たったときに3,000発を超える台がかなり少ないですし、その壁がとて高く感じます。

そうそう、甘デジでも、たまに10,000発を超えて還元をする台があります。そうした台の根拠を探ってみますと、その台を含む3~4台の連動台が、3~4日くらいかけて、通算30,000~40,000発規模の回収をしていたような痕跡があつて、ようは、合計で90,000~160,000発くらいですかね。

ちょうど、その10%くらいの還元をしたときに、9,000~16,000発くらいの台が生まれているように思います。

強かった台から逆算をして追いかけてみますと、なぜ、その台が出たのかの理由がよくわかることもあります。もちろん、それらのインとアウトが一日で完結をしていないことが多いですから、少なくとも2~3日は遡って追跡をしないと判断が難しいですけどね。

ですから、当地のような推定還元率が10%前後のホールの場合は、仮に、各種の連動台の1台で、10,000発くらいの回収をしていても、別にそれが理由で他の連動台が爆発をするわけではない、ということですね。10,000発の回収から10%の還元があつたとしても、1,000発ですからね。AKB2などであれば単発で済ませて終わるような風景でしょう。

## 出玉の上限や下限についての考察

このように、みなさんのホール環境でも、推定還元率を読み取り、数値化し、全体的な「金の流れ」が見えるようになれば、その最も大きなご利益として、それらの台の上限が見えてきます。出玉のピークということです。自分では、10,000発くらい出ないかなと希望をしても、シマの状況にその根拠がなければ出たくても出ませんからね。

一定の推定還元率を基準にしたときに、シマ全体や各種の連動台に金が入っていないので、還元率の割合から考えて、その台が爆発をすることはないだろう・・・このような判断や査定ができるようになります。

そして、そこにも平均値があります。同じホール、同じシマであれば、似たようなことを毎日のように繰り返していますからね。どの台が出るのか出ないのかについてはコロコロと変わることも多いですけど、「出玉の上限や下限」については、やや一定をしています。

ここが本質の部分です。

私たちは、どの台が強かった、どの台が弱かったということに目を奪われることが多いですが、ホールシステムの根っ子の部分を掘り起こすような観点で見る努力をしていますと、その根っ子の部分が見え隠れすることがあるのです。

そう、結局は、カモや生贄になっているお客さんたちから回収をした金の一部を、「一定の割合」で、「一定の台」に還元をしているだけなのねって、そう見えてきますし、その流れの中において、「一定の幅」が見えるようになるのですね。

その幅こそが、「出玉の上限や下限」ということです。

例えば、よくブログでも書いていますように、私ほうんこ台を当てるのが得意なほうだと思います。直前まで泣きながら打っていたようなお客さんたちに、知らず知らずにでも恨まれる指数はメチャ高いと思います。

当地に遊びに来られたカオスのみなさんからも、そんな台は当たらないでしょうし、狙いませんよと、そう言われるような台でも平気で当てることがあります。

ここにも「出玉の上限や下限」という感覚が平均値としての基礎になって、その他のタイミングの要素などとシンクロをしたときに、当たる確信に変わるのですね。

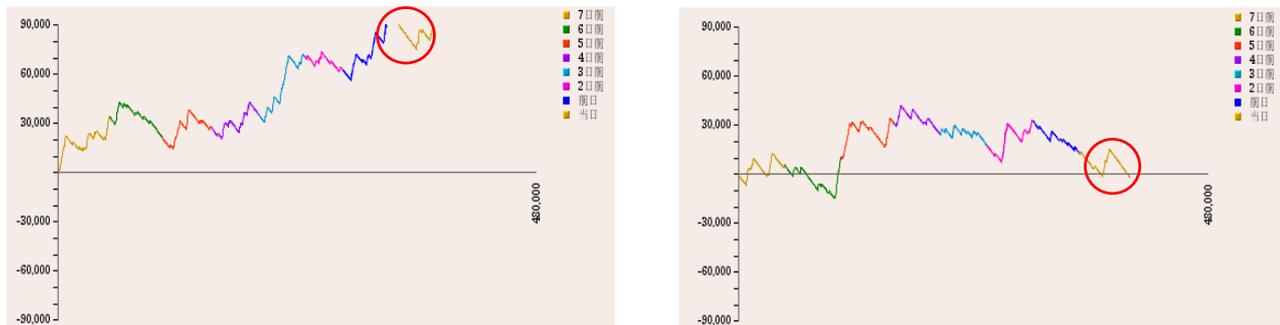
単純には、遊戯台のスペックから判断をして、「いいかげんに当たるでしょ？」という平均的な感覚と、他の台からの「邪魔の要素」がない、という判断材料になります。

ぶっちゃけた話ですけどね。強い台を当てることは、大抵の場合、誰にでもできるのですよ。普通のお客さんたちでも当てています。しかし、弱い台を当てることができるか、弱い台のタイミングを計りながらピンポイントで当てることができるか、それこそが、消去選択の基本的な実力になると思うのです。

みなさんが、どの台かを当てようとして狙ったときに、そのタイミングで他の連動台などが当たることが多いかと思います。そこなのですね。優先順位の見誤りなのです。弱い台だと思って、その台を基準に、そう生贄にしようと思って他の台を狙ったら、逆に、自分の台が生贄になったというケースです。

## 強台のハマリ&弱台のハマリ

せっかくですから、いさティさんにもらった波グラフを教材にしましょう。かなりわかりやすい事例になると思います。



左の台は強台ですね。誰が見てもわかります。一方で、右の台は遊び台かハマリ傾向が強い台になると思います。それで、お伝えしたいところに、赤丸(◎)でポイントをしてみました。いさティさんの話ですから裏を取ったわけではないのですが、この2台の赤丸の地点のハマリ回転数が、ちょうど1,400回転くらいらしいです。2台ともにですね。

その見た目では、2台ともに、1,400回転のうんこさんに見えたと思います。1,400回転もハマっていたら、誰が見ても、そう思いますよね。

・・・ ということですよ。

まあ、実際に、左の台はそれから当たりはじめて、また右肩上がりの波グラフを描こうとしているのがわかります。もう、限界かもしれませんが、これまでの基本性能の高さの余韻のようなものが見て取れますね。

一方で、右の台は、ちょっと期待薄な感じですね。どこかの地点で跳ね返って来てもよさそうに思えますが、実際のホール現場でこの台を打っていたら萎えていると思います。私なら、耐えられませんね。逃げ出しています。

このようなケースを「出玉の上限や下限」という感覚でどう見たらよいのかという話をするつもりですが、みなさんは、どのように感じられましたでしょうか。

まずは、基本性能が高い台が回収傾向にある場合と、基本性能が低い台が回収傾向にある場合とでは、その後の展開が変わってくる、ということが言えます。 うんこさんだと思って、喜んでその台を基準にして他の台を狙ったら、そのうんこさんが当たったということであれば、自分が狙った台はそのうんこさんよりも基本性能が低い台である気配が強くなります。

これが、「台の強弱」ですね。強台と弱台・・・ 永遠にその関係が変わらないということではないのですが、そのホールやシマの稼働率によって、それらの相互関係の継続期間は変わるとしても、周期的には1日、2日、3日と、似たような強弱関係を維持していることがあります。

短絡的には、こっちが当たったり、そっちが当たったりを繰り返すこともありますけどね。現実には、やや長いスパンで強弱関係が成立をしていると思います。結局、本当に強い台に粘っていれば反動があるというのは、このことですね。逆に、弱い台に粘っていたら、いつまでも日の目を見ることができないことも多くなる、という話です。

次に、「出玉の上限や下限」についてですが、この話は、みなさんのホールの稼働率や還元率によってかなり違った「幅」を持っている内容であると思います。

例えば、一日での話でしたけど、AKB2が90,000発オーバーをしたホールの話をブログなどで書きました。一方で、当地の魔界ホールなどでどのくらいまで出たことがあるのかと常連さんに聞いてみますと、新台入れから、ほぼフル稼働に近い状態があった期間中で、最高25,000発くらいだったようです。

同じ機種ですけどね。そもそも、MAX機種でも90,000発オーバーなど聞いたこともありませんので、ホールの還元率によって、どれだけ「出玉の上限」が違うのかということがわかります。「出玉の上限」と、そうした「大量出玉の発生件数」ですね。ホール環境が違うだけで、とてもではないが、同じスペックの機種だとは思えない結果があるかと思えます。

このように、みなさんのホールの稼働率や還元率によって「出玉の上限」が変わりますので、ある意味で、その上限が高いホールの場合は、どこまで伸びるかということが読みにくくなることも多いかと思えます。

例えば、田舎の魔界ホールなどは、どんなに出ても20,000～30,000発くらいが限界値や上限値であることが多いでしょうから、そのくらい出た台があったときに、もう、くたばったなとハンコを押してもよいことがあります。しかし、「出玉の上限」が高いホールがあったときに、前述と同じような状況でも、その台が、それからまた20,000～30,000発くらい平気で伸びることがありますからね。



そう、上図のような波グラフの台があったときに、既に40,000発の還元をしていますので、田舎の魔界ホールの感覚では、もう、「出玉の上限」に近いことから、これから終わり行く台だと認識をして、この台を避けたり、この台を基準にして他の連動台を狙ったりすることがあります。



しかし、現実には、その地点からいきなりのように30,000発まで伸びて、次の日は収束をしたものの、その次の日には、また30,000発規模で伸びていくこともあるわけです。このように、強台の「出玉の上限」を読み誤ると、すべての組み立て方が狂ってしまうことになります。

『うんこさんだと思って、喜んでその台を基準にして他の台を狙ったら、そのうんこさんが当たったということであれば、自分が狙った台はそのうんこさんよりも基本性能が低い台である気配が強くなります。』

私もそこまで適当に台の選択をすることは少ないのですが、めんどくさくて全体的な把握をしないでハマリ台から狙っているときに、前述のような経験をする場合があります。「何でそっちが当たるのよ？」って感じですね。

そこで思うことは、それは現実だということです。まずは、それを受け入れねばなりません。そして、それは「一過性の現象」であるのか、「慢性的な現象」であるのかの見極めが必要です。

事例) うんこさんを基準に狙った台がうんこさんであったという自爆劇 「一過性の現象」

- (1) とんでもないうんこさんがあったので、それを基準に連動台を狙った
- (2) あろうことか、その基準にしたうんこさんがいきなり当たった
- (3) **その後に、自分の台にも当たりが飛んできた**

事例) うんこさんを基準に狙った台がうんこさんであったという自爆劇 「慢性的な現象」

- (1) とんでもないうんこさんがあったので、それを基準に連動台を狙った
- (2) あろうことか、その基準にしたうんこさんがいきなり当たった
- (3) **その後に、自分の台は延々とハマリ続けた**

みなさんもお経験があるかと思いますが、大抵は、この2パターンになると思います。(1)～(2)は共通をする話なのですが、チェックポイントとして、このタイミングで、自分の台に激アツ反応でも出ていたら、まだ希望がありますね。

それで、慢性的な現象のケースで最悪なのが、基準としていたうんこさんが先に当たったことでも辛いのですが、そのうんこさんが単発などでくたばっても、自分の台が当たらないようなケースです。もう、これは最悪です。無理に近いでしょう。

パチンコでのうんこ台も、スロットARTの天井のようなシステムで、過剰投資などの理由から当たることもあるわけですが、それが単発くらいで終わるのに、他の台が当たらないということは、その系列が腐り切っているか、今回のケースのように自分が狙っていた台がもっと弱い台だったのか、という視点で再確認をしなければなりません。

そして、この視点が、“消去法の方法”になるのですね。

自分で自爆をしてその情報を取ってもよいのですが、他のお客さんが自爆をしている状況から、そうした情報を取れますので、できれば、身銭を切らないで済むような取り組み方をしたほうがよいですね。

いつも言いますように、そのポイントは、「うんこさんが当たった後にどうなるか？」という視点です。ここに注目をしていきますと、「各台の強弱」がよく見えるようになります。

## 負けなくてよいときに負ける癖を修正しよう

さて、そうしたことで、「負け戦からの脱却」というテーマを考えてきました。それで、まだまだ、みなさんの耳が痛くなるような話を連発したいのですが、じわじわとボディーブローを効かせるように小出しにしていきます。

そして、こんな表現をするのは酷かもしれませんが、みなさんも薄々は気が付かれていますね。パチンコは、一方的に負ける状況でマイナスを蓄積することよりも、本当は、負けなくてよいときに負けて帰ったケースを蓄積したことのほうが、長い目で見たときに、みなさんの被害になっているという事実です。

「今日はノーヒットで散々な思いをしてきました。」

「最初は勝っていたのですが、後半にやられました。」

そう、説明をするまでもなく、どちらの被害の蓄積がみなさんにダメージを与えているのかわかりますね。これも、無念ながら「負け戦」になるのです。最初は勝っていたことから、半分くらいは、自分も頑張ったのだ・・・ というような気休めや、自己弁護のような気持ちが沸くこともありますでしょうし、結局は、後半で負けたわけですが、敵に不意打ちを食らったかのような不可抗力的な言い訳をしたくもなりません。

ようは、負けを認めにくい「敗北」なのです。

何度も書きますけど、自分も半分くらいは勝ったような気持ちが余韻として残っていますので、そこから負けたことに対する反省へと繋がりにくくなっているのですね。それが理由で、同じことを何度も何度も繰り返してしまうのです。

逆に、「今日はノーヒットで散々な思いをしてきました。」のように、毎回のようにノーヒットであれば、そんなオゲゲの魔界ホールには通わなくなりますからね。もっとマシなホールを開拓するなどをして、「一定の被害」から食い止めることもできるわけです。

そうです。ヘビの生殺し状態のような負けパターンが染み付いてしまうと、なかなか、そこから抜け出すのが難しくなるのですね。アリ地獄のようなものです。相手をその気にさせるようなエサをばら撒いて、そこからエビやタイを釣ろうとするのは、パチンコも含めて、世の中の商売の基本的な手段です。

パチンコの場合は、単発でも当たるとコロっと気分が変わることがありますからね。自分でも当てることのできたのだ・・・ 今日簡単に読みが当たった・・・ 自分は運がよいのかもしれない・・・ 次も当たるかもしれない・・・

大抵は、泡を吹きながら釣り上げられておしまいです。財布がペラペラになるまでしゃぶり尽くされますね。ですから、そこから抜け出すためには、「負けなくてよいときに負ける癖を修正する」しかないのです。つまり、「勝ち逃げの習慣化」です。これしかありません。

とにかく、勝ち逃げに徹する。お客さんが少ないような妙な時間帯に行かない。1,000円でも勝ったら止めるか帰る。分不相応な欲を出さない。自信がない台をいじらない。ちょいとでも回収の気配を感じたら撤退をする。連チャン中などで嫌な気配を感じたら早めに止める。隣近所の台や連動台が当たったら打たない・・・ などです。

もう、本当に、「負けなくてよいときに負ける癖があるお客さんたち」がウジャウジャとしているのが、パチンコホールの実態ですよ。

私も何百回と話をしてきたことがあるのですが、パチンコは、打たなければ金が減ることはありません。金を入れて打つので、当たらなかったときや、当たっても採算が取れなかったときに負けるわけですね。

今後、カオスのみなさんも含めて、どうか、このように考えて頂きたいです。

『パチンコは、自信がないときに金を使うと、99%は負けるものである。』

自信があっても狙っても、当たらずに負けることがありますので、自信がないなら尚更そうですね。そうした状況でパチンコをしていて、勝てるほうが不思議です。

パチンコで負けたくないなら、とりあえず、他のお客さんたちと同じような「タイミング」や「流れ」で金を使わないことです。自分は、そのパチンコホールの店員さんなのだと、そのくらいの感覚でもよいかもしれません。店員さんなら打ちませんからね。

とりあえず、打ちなさんな。疲れるくらいまで観察をしましょう。

そうした習慣を付けることで、まったく違った景色が展開をしていくことを、私は、みなさんに約束をしたいのです。今まで見えなかったことが、そうした努力によって、必ず、見えてくるようになります。

みなさんが、パチンコで負けたくないのであれば、まず、観察をするという方向性を知らねばなりません。観察をするという努力を知らねばなりません。そこからスタートします。

そして、自分なりの努力を積み重ねながらもパチンコをしているときに、常に振り返って頂きたいのです。常に再確認をして頂きたいのです。

もしかして、これは負けるパターンに陥っているのではないのか。もしかして、この状況は「負け戦」ではないのか。「負け戦」を無理に戦おうとしているのではないのか。

周囲の状況がそれを教えようとしているのです。他のお客さんがそれを教えようとしているのです。みなさんが打っている台がそれを教えようとしているのです。野原で天敵から身を守るために集中をしているウサギのように、耳を傾けねばなりません。或いは、遙か上空から地上の獲物を狙っている鷹のように、目を配らなければなりません。

機を見るに敏感なみなさんであって頂きたいですし、それ以上に、早めに危険を察知して身を守るみなさんであって頂きたいのです。「負け戦」を回避することです。「負け戦」から脱却することです。そのための材料を、今回はご提供をしたかったのです。

それでは、今月号の特集は以上です。ありがとうございました。



それでは、今月号の「スペシャルマスターコラム」に入ります。

今回は、「フォースを受け継いでいく者たち」というタイトルです。月刊カオスブレイクの一周年記念なのか最終回なのか、ようわからんテーマではありますが、必要なときに、必要なフィーリングで書いていますのでご理解をお願いしたいと思います。

### パチンコに翻弄をされる者たち

さて、カオスブレイク7年目にして、波乱万丈な出来事が続いてきたわけでもないのですが、紆余曲折、ある時期に、ある意思によって方向転換をしてきたことはあります。

これも試練のひとつなのかと思うことですが、別に、他の同業者のみなさんの神経を逆撫でするようなことをしなくても、いろいろと知名度などが上がりますと、ご縁を頂かなくてもよさそうな人たちにちょっかいを受けるということもあります。

個人的にはですねえ・・・

同じ土俵に立てるような相手がいたら、お互いに切磋琢磨をしながらでも、世の中のお役に立てるような計画でも考えるのですが、他人の足や尻尾を引っ張ることが大好きな人たちがあって、そこで波長が同通をしてしまいますと、お互いが共倒れになるようなケースがあると思いますし、過去のカオスにもそうした時期がありました。

そう、カオスブレイクの基本的なスタンスは・・・

『パチンコホールが完全確率のシステムで成り立っているわけではなく、コンピューター制御を前提とした、ある意味で、詐欺商法のようなものであり、パチンコ依存症やパチンコで苦しむみなさんがあったときに、その根っ子を知って頂いて、「一定の納得」の後に、パチンコを続けるか止めるかの材料にして頂きたい』という考え方です。

そこで、「お前のブログのシレートや当たった写真は捏造じゃないのか？」とか、「そんなに何台も当たるわけがない！」とか、「うんこ台という表現は幼稚すぎる！」とか・・・

私にしてみたら、どうでもよいことなのですね。

ただ、世の中には極めて神経質な人たちがいますから、そうした人たちを納得させることが大事だとするような考え方もあるでしょう。

「んじゃ、私が通うホールに見に来たらよいでしょっ？」て、それで終わる話でもあります。

実際には、ほんの数人だとは思いますがね。どこそこで、ネチネチとした嫌がらせや、風評被害を垂れ流している人たちで、実際に、私に会いに来た人など一人もいません。そんなにストーキングをしたいくらいに私が好きなら、会いに来ればよいのについて思います。

そうした出来事があったときにも、物事の本質を考えてみることがあります。

このコラムでも、後々、「人間の平均値」というテーマで考える予定ですけど、やはり、100人の人間がいたら、5%くらいでしょうか、どうにも“変な人”はいますよね。どこの地域でもというか、どこの分野でもというか、一定の割合なのでしょう。

そこで、表面的な物事と、本来の、その人たちの目的が違うことがあるかもしれない、ということの考察ですかね。「嫌がらせや悪意の科学」のようなものでしょうか。

過去に、他人の足を引っ張って信用を地に落とせば、自分たちの信用が上がると勘違いをしている人たちもありました。よくある手法や技法でしょうか。ちょうど、天秤のようなものですよ。片方を下げれば、もう片方が上がる・・・みたいな。

例えば、昔、聞いた話で、商売敵や競合店などのショッピングセンターやスーパーの信用を落とそうとしたときに、ある噂を流せば、強烈な効果があるとか・・・

「その店舗のトイレに変質者が出て、知り合いの子供が被害を受けたらしい。」

悪用をされても困るのですが、昔はね、そんなことをして商売敵や競合店などに嫌がらせをするところもあったらしいですよ。普通に考えて、子供さんがいる家庭であれば用心をするでしょうから、そのショッピングセンターやスーパーへは、しばらくは通わなくなりますね。

ただ、さらに効果があるというのは、そもそも、嘘の噂や情報であるわけですから、その件についての犯人が捕まらないことが多いわけです。そう、その店舗のトイレで犯人が逮捕でもされたならば、やがては元通りになるのかもしれませんが、そうはいかないわけです。

これが、風評被害の恐ろしいところです。

あまり肯定をしたくはない話なのですが、この話にも、天秤の原理のようなものが作用をすることがありますね。パイの総数が一定で、A店の客足が引けば、B店などの他の店舗の集客数が上がることになります。

ただ、人間は、ときに悪魔のようなことも平気ですることがありますが、結局、理屈の通りには、天秤が傾かないことも出てくると思います。

そう、この話であれば、B店が風評被害を起こした犯人であるとバレたようなケースです。

商売敵や競合店などの信用を落として、自分たちの信用を上げようとしていたが、結局は、自分たちの信用が余計に下がってしまった・・・ということもありえます。

まあ、長くなりますので話を戻しますが、そうした風評被害ということ考えたときに、私たち、カオスブレイクが目障りではなかった人がいたのだと思いますね。ただ、今になって書いておきますけど、同じ畑や土俵であれば、礼儀のひとつやふたつのことは知っているわけです。それが、違うわけなので、気にしなさんな、ですよ。本当に。

それに、時代は変わりますし、仮に同じ畑や土俵だとしても、古ぼけた感性や頭脳では、若い世代の人たちに追い越されていくことは世の常だとも思うのです。

諸行は無常であり、過去の賞賛や名誉など、いつしか消え去っていくのです。

そこにいつまでもしがみついていると、やはり方向性が狂ってきますし、奇妙な言動や行動をするようになるのかもしれませんが。自縛霊のようなものですよ。

普通に考えて、パチンコは実力の世界でしょう。パソコンの前や、ネットの中だけで講釈を垂れているような人たちは、やがて誰も相手にしなくなるということだとも思うのです。

## 完全現場主義を貫けるか

さて、いきなりですけど、カオスは面白いでしょ。

内容はともかく、ホルコン攻略の分野でこれだけの情報を発信しているところは皆無だと思いますよ。もちろん、どうでもよさそうな話や、微妙な情報もてんこ盛りかもしれませんが、たぶん、私たちの視線は、正しい方向に向いていると思います。

正直なところ、虎視眈々ブログの掲載写真も20,000枚を超えて有料契約でブログを書いている状況なのです。ですから、もうよいかと思う気持ちがあります。

私だからかもしれませんが、ブログを書くことがめんどくさいのですね。ひとつの記事を仕上げるのに、写真の整理やら、アップロードやらで1~2時間はかかります。手抜きをしても30分くらいはかかりますね。

他の人に書いてもらう方法もありますけど、やはり、カラーが違うでしょうし。

今後、そうした計画もする予定ではありますが、上手にできるかの自信はないですね。ただ、この話も、今回のコラムのテーマのひとつですから、前向きに努力をしたいと思っています。

さて、「完全現場主義」という話です。

これも、私たちにしてみたら、当たり前の話なのですよ。しかし、世の中には、矢面に立つこともなく、ネットの世界を中心に、偉そうな講釈ばかりを垂れて実力のほどが怪しすぎる自称ホルコン研究家や評論家のみなさんがいますからね。

そうしたみなさんとの一線を引くために、とてもピントがあう言葉でしたので使っています。

例えば、世の中には、マジシャンや手品師という職業を生業とされるみなさんがいます。普通に考えて、そうしたみなさんが、何かのDVDやVTRの中だけでマジックや手品を披露していたところで、何か違和感があると思うのですね。本物の自信があるのならば、お客さんやギャラリーの面前でそうしたパフォーマンスをしたいのが普通でしょう。

それでこそ、説得力があるし、お客さんやギャラリーに感動を与えます。

そう、別にマジシャンや手品師でなくても、ある意味で、この世の中に存在をしているところの、様々な分野のまともな技術力があるみなさんは、「完全現場主義」なのだと思うのです。

ええ、評論家は違うことがありますよ。自分には技術や才能がないことがあるのに、他人のことで、あ〜だこ〜だと評価をするような仕事ですね。

ここで私が示唆をしたいのは、特定の分野で一定の技術力があるみなさんの話です。

そうしたみなさんは、やはり、「完全現場主義」か「完全現場主義に近い感覚」を持っておられると思います。

ですから、パチンコの分野でも、「完全現場主義」という感覚が弱い人、そうした言葉さえ使ったことのない人は、かなり怪しいと判断をされたほうがよいという話です。

パチンコホールの現場でなくてどこで活躍をするのですか、という話ですね。パチンコホールの現場で当てることもできなくて、何がパチンコの先生ですか、コンサルタントですか、伝説のホルカーなのですか・・・ということですよ。

そして、同じことが、私たちにも言えるのです。別に、カオスブレイクがホルコン攻略業界の頂点にあるとも、その頂点を目指すとも言ったことはないと思いますが、極めてホルコン攻略の分野で本物を追及しますので、私がくたばるまで、「完全現場主義」を貫き通したいと思うのです。

それでこそ、「パチンコホールが完全確率のシステムで成り立っているわけではなく、コンピューター制御を前提とした、ある意味で、詐欺商法のようなものである」ということの証明に繋がっていくのだと信じています。

## パチンコ攻略業界に新しい風を（1） 「完全確率と還元率」

さて、次のテーマに入りますが・・・今回は、「パチンコ攻略業界」という言葉を使ってみました。いつもは、「ホルコン攻略業界」という表現をすることが多いのですが、「パチンコ攻略業界」と表現をしたときに、その範囲がとてつもなく広がりますし、掴みどころのない話になることがありますので、基本的には避けることが多いのです。

ただ、自分で考えてもおかしいのですが、そもそも、「パチンコ攻略業界」という表現でもよいとしたときに、それが本当に、パチンコを攻略できているような業界なのかという疑問はありますよね。どちらかと言えば、「パチンコ攻略＝嘘・詐欺・インチキ」というイメージが強い、いや、ほとんどの場合は、「嘘・詐欺・インチキ」でしかないでしょう。

これが、パチンコ業界に巣くうところの癌細胞のひとつだと、私は思うのです。

「パチンコホールが完全確率のシステムで成り立っているわけではなく、コンピューター制御を前提とした、ある意味で、詐欺商法のようなものである」という本質を持つパチンコ業界に、「嘘・詐欺・インチキでしかないパチンコ攻略」が拍車をかけて、救いようがない状態になっているのが、現在のパチンコ業界そのものだと思うのです。

そして、救いようがない状態というのは、一般のパチンコユーザーのみなさんへの視点です。

逆に、業界やメーカーやパチンコホールは、それで助かっている、救われているところがあると思います。パチンコホールへ奴隷のように通うお客さんたちは、「結局、パチンコ攻略なんてありえないのだから、そこで勝とうと思ったら、“運”や“勘”に頼るしかない」というような気持ちや考え方に追い込まれているかのようでもあります。

人間は希望を持った対象や相手に裏切られて、打ちのめされると、やがて卑屈になって思考を停止させるようになることもあるでしょう。純粋な人ほど、人を信じますし、幾度となく騙されても信じ続けるような人もいますからね。

そして、いつかは目が覚めることがあるのですが、そうした人間関係が生み出すものは、「人間不信」くらいなものかもしれません。

私も、若い頃には、パチンコホールとインチキ攻略会社によって、強度の人間不信に陥ったことがあります。誰も信じられない・・・みたいな、引きこもりの時節がありました。

例えば、甘デジタイプのスペックの機種があったときに、約1,500回転まで当たらないような現象がありましたけどね。1/99くらいの確率の台が、約1,500回転ということは、メーカーが公表をしている確率の約15倍ハマリです。

それが日常的な出来事なのか、非日常的な出来事なのかと考えたときに、やはり、非日常的で不可思議で「確率の制御」を逸脱しているような現象だと思いました。

或いは、「連チャン率」ですね。確変中やST中、〇〇ラッシュ中での平均ループ率が、70～80%もあるような台を命懸けで当てたときに、平均2～3連チャンで終わるような不可思議な現象が連続で続くこともありました。自分の台、他のお客さんの台も・・・

そうした出来事や、不可思議な現象を何度も何度も経験していると、「もしかして、自分はパチンコを勘違いしているのではないのか？」と考えはじめたことが、カオスブレイクの設立に繋がりました。

つまり、パチンコホール内で起こる不可思議な現象について、なぜ、そうなるのかという疑問が浮かぶ以前に、パチンコホールのシステムを勘違いしていた私があると悟ったわけです。

「完全確率」で制御をしているのであれば納得ができない現象でも、「還元率」で制御をしていると考えたら、ほぼ、すべての「謎」が解けていきました。

結局、パチンコホールで納得ができないことが多くて、それが原因となり、人間不信に陥った時期もありましたが、そもそもの前提が違うのだと確信をしたときに、自分が人間不信になっていることがアホらしくなったのだと思います。

それと、私が、過去、インチキのパチンコ攻略会社に騙されたことについては、一言で、残念だとか表現ができません。同じ人間で、そうした行為が平気でできる神経を持った人たちがいるということなんです。

それを、動物の世界で喩えたら、サバンナあたりに住んでいるハイエナのようなものでしょうか。パチンコ業界であるトラやライオンが食べ残した死骸を、喜んで漁っているようなものでしょう。

その件でも、強度の人間不信になり、自分の『欲』の制御の弱さを思い知りました。

普通に考えて、世の中にそんな甘い話はございませんね。実は、カオスブレイクが全国を対象にパチンコ関係の情報を発信しているのも、ここにきっかけがあります。世の中にインチキや詐欺のようなパチンコの情報屋が増殖をして行くことで、パチンコユーザーのみなさんは、もっとダメになると思いました。そう、どこもかしこも嘘だらけ・・・

そうなりますと、パチンコ産業は、益々、悪質なものに陥って行くでしょう。

そして、あまりにも「嘘」が多くなれば、正しいことを言っている人たちでも信じてもらえなくなる、という「人間不信」の世界が拡大していきます。

ですから、ホルコン制御が「嘘」だと思われること、それだけは阻止したいという気持ちが今でもありますし、今後もその気持ちが消えることはないでしょう。

ただ、今のカオスブレイクが、その仕事を順調に進めておられるのかと聞かれますと、やや自信が弱いところもあります。結局、需要と供給のバランスがピッタリと一致をしてないところがあるからです。

正直なところ、パチンコホールが「完全確率」で制御をされていなくて、コンピューターによる「還元率」で制御をされているということを納得して頂ければ、第一段階目でのカオスブレイクの役割は完結をするのです。

しかし、大多数のみなさんのご要望なりニーズについては、個人レベルの目標があるにしても、パチンコで勝てるようになることが目的だと思いますので、その需要に応じて行かねばならないという使命があります。

これが、第二段階目になると思います。

そう考えたときに、カオスブレイクは7年目にして、ようやく第二段階目の仕事ができきたようにも思います。それだけの時間がかかりましたけどね。

一昔前では、私のブログ記事についても、例えば、「パチンコは確率だよ、バーカ！」とか、「ホルコンなんてねーよ！」とか、そうしたホルコン制御についての批判のようなコメントやお便りもけっこう来ていました。

それが、ここ1～2年で減少をして、最近では、まったく来なくなりました。

そこで考えられることは下記の2項目だと思っていますけれど・・・

(1) ホルコン制御について、頭から否定をしていたような人たちでも、私がブログ記事で書いているような、完全確率説では説明ができそうにない摩訶不思議な現象を経験したことによって、ホルコン制御を認めざるを得ない心境に追い込まれてきている。

(2) 全国的にパチンコホールの還元率が下がっていることに伴い、完全確率説で通用をずっと思っていたような人たちの負ける割合が増え、パチンコそのものに通えなくなったために、パチンコのシステムの話など、どうでもよくなってきている。

こんな感じでしょうか。他にも理由があるのかもしれませんが。

そもそも、普通に考えたときに、みなさんのホールでも、1回のパチンコで、10台も15台も当てているようなお客さんは皆無でしょうから、まともな感性がある人であれば、私たちの生き様を見て、ホルコンチックな現象を認めてもらえるとは思うのですけどね。

余談ですが、パチンコをしているときに、何気なくでも自分を客観的に見ることがあります。

まるでパチンコホールの天井から自分を見ているような感覚でしょうか。幽体離脱とまではいいませんが、そこには、「欲」も「怒り」も「焦り」も・・・ そうした執着心がなくて、ただ、青空に浮かんでいる雲のように漂っているような感覚です。

そんなときに、5台も6台も連続で当てていることがありますけどね。

その状況について、私と他のお客さんと比較をしたときに、自分が魔法使いにしか見えないことがあって、それにウケていることがあります。ただ、そうした瞬間に、今の私の動きをカオスのみなさんに見て頂いたら、よりよいお手本になるのだろうかと、悔しくもあります。

それは、カオスのみなさんでもご経験があると思いますよ。「今、俺は大魔道士になったのだ！」とか、「この状況では、僕にしか当てることができなかつただろう。」とか、「私だからこの台を割り出せたのよ！」・・・ みたいな。

別に、自惚れることをオススメしているわけではないのですが、それらの感覚を逆の発想で考えたときに、みなさんがパチンコをしていてこのような瞬間がないと、残念ながら、実力が上がっていないということでもあります。

## パチンコ攻略業界に新しい風を（2） 「ホルコン魔法力の段階」

さて、余談を挟みましたが、「パチンコ攻略業界に新しい風を」というテーマでございますね。

先ほどの話のように、カオスブレイクは、ハリー・ポッターのような魔法使いの養成学校ではないのですが、自然にそうなってきた気配はあります。

第一段階目で、魔法力の存在を知り、第二段階目で、その魔法力を使いこなせるようになるイメージでしょうか。そこで、私も含めまして、みなさんがその魔法力の威力や技術レベルを上げておられるという状況ですね。その魔法力の威力や技術レベルに応じて・・・

L v. 1 「コウさん、多少は負ける金額が減ってきました。」

↓

L v. 2 「コウさん、毎月、小額ですが、安定をして勝てるようになってきました。」

↓

L v. 3 「コウさん、はい、感謝しています。満足でございます。」

カオスのみなさんの状況を大きく「レベル1～3」で表現してみますと、このようになります。

ひよっこ魔法使いからスペシャリストの大魔道士までの道のりは深く険しいものがありますが、一歩進んで二歩下がるようなことを繰り返していたとしても、進むべき方向性は正しいのだと信じて、どうか手堅く前進をして頂きたいと思うのです。

ただ、もちろん、それは、どうせパチンコをするのであれば、ということが大前提ですので、パチンコから足を洗いたいみなさんがあれば、それはそれでオススメをしたいのです。

先日の「ロマンシング・カオス2013」のアンケートでも、みなさんがパチンコによって犠牲にしているものが、「時間」であるというようなご返答が大多数を占めましたので、価値観の違いがあるにせよ、「時間」を大切にされたいみなさんであれば、やはり、パチンコは「毒素」でしかないということをお伝えしたいのです。

そこで、どの道はパチンコをされるのであれば、カオスの考え方や技術論でなくても、「一定の納得」をして頂きたいですし、この先も、しばらくはパチンコを続けられるのであれば、できるだけ金が増えたり残ったりする方向で取り組んで頂きたいと思うのです。

### パチンコ攻略業界に新しい風を（3） 「人間の平均値を求めて」

さて、ちょっと話を蒸し返しますが、みなさんもネットなどで、パチンコ攻略を吹聴するような宣伝や広告を見られることもあるかと思います。もちろん、他のネット商法でも似たようなものなのですが、常識を遥かに超えた誇大広告や過大表現のオンパレードだと感じる人が多いです。

ちなみに、私が世の中の人間の生業を見るときにはふたつの視点がありまして、ひとつは、「この世の中、アホな人は多いし、騙す人がいるので騙される人もそうした経験を通して賢くなれることもあり、お互いの刺激や勉強になるので、人類の永遠に近い課題として、アホな人もいれくれたほうがよいのかもしれない。」という視点と・・・

もうひとつは、「あまりにもネットの世界などが汚されてしまって、これは日本の文化として恥になる可能性が高いので、できるだけ、誰かがそうしたアホな人たちを教育し、まともな日本人にしなければならぬ使命がある。」という視点があります。

#### そう、「必要悪」という観点がありますね。

テレビのドラマや映画でも見ているように、客観的に「悪」を考えたときには、それは文字の通りに「必要でもよい悪」という発想もありなのかもと、そう考えることもあるでしょうが、そうした「悪」に、自分が主観的に関わったときに、それは、自分にとって、ただの「迷惑」になりますでしょうし、止めて欲しいことになりますよね。

似たような不幸な出来事があつたとしても、赤の他人のことであれば許せるけれど、自分や自分が大切にしている人たちのことになると許せないことも増えてくる・・・

私が思う「人間の平均値」が、どれだけ勝手なものなのかという話をしたかったのですが、みなさんの感覚では、どのように感じられるのでしょうか。

そう、この世の中には、人間なのか動物なのかようわからんような人たちがあって、頭を撫でたりご機嫌を取っていると、まるで子猫のように尻尾をふりながらなついてくるのですが、一度でも、頭を叩いたり、何かのプライドのようなものを傷付けでもすると、「あなたは、猛獣ですか？」って勢いで襲いかかってくるようなこともあります。

リアルの世界ではあまり経験をしないのですけどね。それが、インターネットなどの匿名性が高い世界になりますと、やや無法地帯のような感じになるのでしょうか。表現は悪いですけど、何かの獣（けだもの）よりも節度がないと、人間に感じることはありませんね。

別に、世の中が厳しいという議論にはしたくないのですが、それだけアホな人が多いという感想を持っています。そして、アホの自覚がないものだから、相手を変えることがあつても、いつまでも本質的には同じことを繰り返しているのかのようにも見えます。

結局、人間の存在価値を分けるものは、自分や自分たちを中心に考えるのか、他人に対してもよい影響を考えるのか、そして、実際に、そうした生き方を続けられるのか、という選択だと思うのです。

私が、「人間の平均値」についてはアホだと考える理由がそこにあって、普通に世間を見渡したときに、一般の人たちは、自分や自分の家族などのことを中心に幸せを求めて生きているようにも思えます。それが当たり前のことのようになっている、という感覚でしょうか。

う〜ん。それを年代別で考えてもそうかもしれません。

普通、人間は裸で生まれてきてより、約20年間は親や家族の世話になります。ある意味で、自分が与える側ではなくて、自分以外の人から与えられる人生、助けられる人生、生かされる人生です。それを、「アホな人生期間」だと思うのです。

そして、日本人の平均寿命を80年くらいだとしたときに、定年退職でもして、あの世に帰るまでの約20年間は、やはり、体が弱くなったり、健康の問題が出てきたり、人様の世話になることが多くなるのだと思うのですね。

表現は悪いでしょうけど、定年でも迎えて、「もう、ようやく自分の幸せな人生を送れる。」などと聞くことがありますし、それこそ保身人生だと私は感じますし、自己中心的な人生に逆戻りをしているかのようでもあります。

それで、あくまでも、一般的な平均値でしかない話であると思うのですが、日本人の平均寿命を80年くらいだとしたときに、「前半20年間+後半20年間=合計40年間」は、人様の世話になるような人生模様の配色が強いのではないかと考えたときに、人生の約半分は、「アホな人生期間」だと表現をすることもできるような気がするのです。

そして、これは、私の偏見かもしれませんがね。

人間は、平均寿命の半分くらいを人様から助けてもらう人生であると考えても、では、残りの半分で、人様のお役に立てているかと考えたら微妙なみなさんが多いかと思うわけです。

それは、職業についてもそうです。例えば、働いている人がすべて社会に貢献をしていて、偉いかと言えば、そうでもないことがあります。毎日、給料をもらうために出勤はしているが、同じ職場の人たちを不愉快にしている人もいます。「あいつがいなければ、仕事が苦にならなくなるのに・・・」ってこともよくあるでしょう。

私も細々とした経験がありますけどね。どこの会社でも、とんでもないアホな人が一人くらいはいますわね。平均値で、そう、一人はいそうですね。

思い返せば、私も、その会社の社長や会長よりも、自分が偉いと勘違いをしている社員の人を何人も見てきました。その人のお陰で、新入社員や古参の社員まで、業を煮やして退社をしていく風景もしばしばありました。

いや、本当に、この人を会社から追い出したほうが、会社や社員のみなさんの発展や幸福に繋がって、そのくらいの自信を持って抹殺の推薦ができるような人もいました。

会社に巣くう癌細胞のようなものでしょうか。

まあ、他人事でもあるので、別に気にしませんけど、例えば、田舎のコンビニでもそうです。もう、抗議活動や著名活動でもしてクビにしてやりたいくらい、失礼な店員さんがいますよ。こんな温厚な私でも、その対応の悪さに、3回くらいは頭を叩こうかと思ったこともあります。

たぶん、会社の経営についてもそうだと思いますけど、何かの会社が倒産をするのは、その会社の社長さんがアホなのか、社員さんがアホな人の割合が多いのか、ということだと思っただけです。

先ほどの話であれば、もう、あれほど失礼な店員さんがいるコンビニには行きたくないって、普通は思うでしょうから、それは自然の摂理のように、客足が引き、売り上げが落ち込んで、店舗や会社の存続の危機にまで繋がるのだと思うのです。

クレームや文句でも言ってくれるお客さんがあるうちは、まだ救われますけどね。何にも言われなくなると、けっこう危険な状況だと思います。お客さんは黙っていなくなりますから。

しかし、まあ、関係がないかもしれませんが、ついでに、車の運転中の話ですよ。

ほら、田舎道などの細い道路で離合をするときに、運送会社のトラックの運転手さんとか、運転のマナーがよいことが多いですか。待ってくださることが多いです。

それに、自分が右折をするときでも、ヘッドライトを点滅させて、進路を譲ってくれることも多々あります。一言で、気持ちが悪いくらいに親切に感じるわけです。

そんなときに、私は、ムカっとします。

・・・ 他の何かの会社の営業車に対してですね。

〇〇薬品とか、〇〇建設とか、〇〇ショップとか、〇〇仏壇とか、〇〇花屋とか、いろいろと忙しそうに道路を走っておられるわけです。

たしかに、運送会社のトラックの運転手さんについては、全般的にマナーがよいと思うのです。

しかし、それは、マナーがよくて当たり前のことですわね。

そう、営業車の運転マナーがよい会社もあるのだからって思ったときに、ムカっとします。

もうね、失礼が極まったような運転をしている営業車があったときに、まず、それらの店舗で何かを購入することはしませんし、場合によっては、その会社に電話をしますね。

たぶん、会社や店舗にいるときにお客さんが来たら、しょがなくでもよい子にしているが、何かの用事で車に乗って外に出たら、そこはもう、自分の世界だと勘違いをしている人がいます。

こうしたこともそうです。

会社に勤務をしても、その会社や店舗の評判や評価を下げるばかりか、危険な運転は人命に関わりますからね。営業中にそんな乱暴な運転をしていて、通学中の子供でも轢き殺したら、何のためにその会社に勤めたのかさえわからなくなりますわね。

そして、現実には、そうした交通事故なども多いわけです。

#### パチンコ攻略業界に新しい風を（４） 「ガリガリ亡者と貪りの欲」

他にもいろいろと書きたいですけど、そうしたことで、私は、普通に思うのですよ。

少なくとも人生の約半分は、人から与えられ、助けられ、愛されるような人生なのに、それに飽き足らずに、それに満足せず、人から奪い、利用し、恨まれるようなことをする人たちが、この世の中に何億人といたとしても、この世の中はちっともよくなると思いません。

『結局、人間の存在価値を分けるものは、自分や自分たちを中心に考えるのか、他人に対してもよい影響を考えるのか、そして、実際に、そうした生き方を続けられるのか、という選択だと思えます。』

同じように、自分や自分たちの利益や幸せだけを中心に考えているような人たちが、この世界に何億人といたときに、私であれば、そんな世界はうんざりですね。他人に対して、与えたい人よりも、奪いたい人が多い世界です。「与える人生」と「奪う人生」・・・ ということです。

それを極端に表現するならば、仏教の言葉で、「餓鬼地獄の世界」です。

それは、餓えて餓えて、腹が減って腹が減ってしょうがない状態です。人様のものと、自分のものとの区別もつかない状態です。

本来、人間は、裸ひとつで生まれてくるものであり、自分のものなど何もないのです。

それは、死ぬまでもそうです。自分の周囲に、自分のものがたくさんあるように見えて、それらは、すべて貸し与えられているものであって、何ひとつ、自分のものなどないのです。

それを悟ることができれば、餓鬼地獄から開放をされるのです。

あれも欲しい、これも欲しい、もっと欲しい・・・ この「欲」に限界はありません。

そう、そういうことです！

パチンコの分野は、この「餓鬼地獄の世界」に同通をしやすいものなのです。カオスのみなさんにしてもそうで、例えば、「パチンコでいくらかくらい貯金ができたら満足ですか？」・・・ という質問をしたときに、「1,000万円くらいかな？」と、答えられる人があったとします。

では、本当にその人が、1,000万円くらいまで貯金ができたとして、その「欲」は、完了をするのでしょうか。けっこう、怪しいと思いますね。そこまでの過程が楽ではないにしても、1,000万円まで貯金ができたら、次は、「2,000万円くらいを目標にしようかな？」・・・

私は、半数以上のみなさんが、そう思われると考えます。

みなさんに、あの世とか、霊とか、地獄とかを信じて欲しいとは言いませんが、パチンコホールには、餓鬼地獄の亡者と同通をしているお客さんがウジャウジャといます。それらのお客さんと亡者のみなさんが、まるで、昔からの友達のような感覚で一緒にいるような風景なのです。

地域性や職業にもよるでしょうが、普通の社会生活をしている人が、1回のパチンコで3万円も4万円も負けたら生活を圧迫しますよね。しかし、パチンコホールでは、その金銭感覚が完全に近いくらいに崩壊をすることがあります。異常な精神状態になっている、ということです。

もっと欲しい・・・ もっと欲しい・・・ この「欲の想念」が、他の妙な者たちと同通をして、ちょうど、磁石のように、呼び寄せているわけです。

それは、餓鬼地獄の亡者ではなくても、パチンコに狂っているような友達と一緒にパチンコをしていてもそうでしょう。何かしら調子が悪くなりますね。

私も経験をしていますけれど、そうした強度のパチンコ依存症のような友達は、なかなか止めることができませんし、帰るタイミングを逃したり、金銭関係のトラブルなどで迷惑をかけられたりと、何かと自分の足を引っ張ってくるようなことがあります。

あまり書きたくはないのですが・・・そうしたパチンコに狂っているような友達が1人だけでも迷惑をすることがあるのですが、その人数が増えたらと考えると寒気がしませんか。

そう、3人、5人、10人といたら、もう、一緒にパチンコなどできませんね。

『みなさんに、あの世とか、霊とか、地獄とかを信じて欲しいとは言いませんが、パチンコホールには、餓鬼地獄の亡者と同通をしているお客さんがウジャウジャといます。それらのお客さんと亡者のみなさんが、まるで、昔からの友達のような感覚で一緒にいるような風景なのです。』

先ほどの文章です。ここでは、その餓鬼地獄の亡者、ガリガリ亡者が、1人だけであるとは書いていません。そう、当然のように、それが1対1の関係でなければならないという条件やルールもないでしょうからね。

そうなのです。つまり、強度のパチンコ依存症のお客さんには、5人、6人、7人と、餓鬼地獄のガリガリ亡者がまわりついていたりすることもありえるわけです。

正直なところ、カオスのみなさんでも、そうした餓鬼地獄のガリガリ亡者と精神的な傾向性が同通をしている人がありそうです。

実際にお会いしたことがなくても、お話を聞いているとわかります。

ご本人は認められないかもしれませんがね。パチンコの技術には、やや無関係なところで、そうした精神的な傾向性が足を引っ張って、最後の最後で自爆をされるようなタイプの人です。

「コウさん、途中までは勝っていたのですよ。しかし、後半は・・・不可抗力のようなものです。どうにもできませんでした。」

表向きのカオスであれば、還元率が下がる時間帯についての対応策の甘さを指摘しながら、その人の実力と現場の状況を照らし合わせたときに、ご本人の実力を上げることで対応ができるような方向性を考えるか、そもそも、どうにもならない状況と察した段階で、潔く引くことができるような考え方を強化する方向性で考えるか・・・そんなアドバイスになります。

しかし、裏のカオスになりますと、何てことはないですね。考えるまでもありません。

勝っているときに帰れないような人、自分の『欲の制御』ができないような人は、パチンコで勝てるわけがないと一蹴をするわけです。

何度でも同じことを繰り返して、ご自身で気が付かれるまで、悟りを得られるまで、どうぞ、繰り返して下さいと思うだけです。

ある意味で、パチンコの才能を計るモノサシは単純なのです。

そう、勝っているときに帰れないような人は、100%・・・無理なのです。何万発と玉を出そうと、結局は勝てないようになるのです。そう、『食りの欲』なのです。

いくら食べても満腹にならないような、餓鬼地獄のガリガリ亡者と同じ心境なのです。食べても食べても満腹にならない。パチンコであれば、玉を出して出しても満足ができない。当てても当てても納得をしない・・・

そして、そうした餓鬼地獄のガリガリ亡者が、なぜ、餓鬼地獄のガリガリ亡者であるのかと考えたときに、そこにも必ず理由があるのですね。はい、必ずです。先ほど、『食りの欲』と表現をしました。いつまでも満足をしなないということです。

そう、『欲』が尽きないのです。それが最大の理由です。

食べても食べても満腹にならない。玉を出して出しても満足できない。当てても当てても納得をしない・・・ そう、『足ることを知らない』のです。

それがパチンコの話であれば、自分の実力以上の成果や報酬を求めている、ということです。

それは、矛先を変えて、普通の人間社会を見ているとわかりますね。

例えば、とにかく金を稼ぎたいから命懸けで働きたいと思っている人がいたとしても、1日、24時間、一睡もしないで働き続けている人はあまりいません。

そんなに金を稼ぎたいのなら働けばよいのですが、人間の体としての限界というものがあります。2～3日なら徹夜でもして働くことができるかもしれませんが、それが毎日になれば、普通、早死にをします。長生きはできないでしょうね。

逆もそうです。とにかく仕事をしたくないとか、人に会いたくないとかで、1日、24時間、寝ていたい人もあるでしょう。それでも、普通の健康な人間は、そんなに何日も、何ヶ月も寝ておれるものではありません。

やはり、人間にも、何かの生活リズムや、生体リズムのようなものがあるでしょうから、極端なことを長く続けることに対しては、それなりの反作用が起こるのだと思うのです。そして、無理な生活をしてきたことによる反作用もそうでしょうけど、異常な体の状態から正常な体の状態に戻るための、何らかの調整機能のようなものが働いて、その人なりの生体的なバランスを保とうとするのだと思います。

先ほどの話であれば、単純に、しばらく寝ていない人は、いいかげんにでも眠くなりますし、寝すぎていた人は、やがて眠くなくなります。それは、人間の欲求のひとつである睡眠のことだけではありませんね。説明をするまでもなく、食欲や性欲もそうでしょう。

そして、「食りの欲」です。これも同じです。

人間の「食りの欲」が極端に肥大化をしますと、普通、ろくなことはありません。自分の体や精神にもダメージを与えますし、周囲の人たちも巻き込んで迷惑をかけることになります。もっと欲しい・・・ もっと欲しい・・・ この「食りの欲」も、睡眠欲や食欲や性欲と同じ「欲の仲間」ですから、その対象が何であれ、平均値（中道）を超えて貪り食らうようになってきますと、必ず、反作用が起こるようになる、ということです。

そう、ここなのですね。「人間の平均値を求めて」というテーマで、「アホな人生期間」ということを考えてきたわけですが、それは、「アホな人生」でもよいのですが、「アホな人生」＝「貪りの人生」＝「我欲の人生」とも、表現ができると思うのです。

何となくでも私が思いますに、例えば、「あの人は、異常なほどに我欲が強かったので、最後の最後まで大成功をしたのだ！」・・・とか、あまり聞きませんか。或いは、「私は、欲まみれの人生だったから幸せになったのよっ！」ってことも、あまりなさそうですね。うん、そうしたことも含めて、次の「人間の欲」の話に入りましょう。

## パチンコ攻略業界に新しい風を（５） 「山猿のボスと自尊心」

最近のテレビのニュースを見ているとそうです。一般的に、マスコミや警察のお世話になるようなみなさんは、「欲まみれの人生」を歩いて来たような人たちのような気がします。

前述の話であれば、何かの会社の嫌われているような上司さんや社員さんもそうかもです。まるで、自分が裁判官のように偉いと錯覚をしているのも、ひとつの「欲」から生まれる心境だと思いますね。そう、それを「自己顕示欲」と表現をすることがあります。

### ・・・ 山猿のボスのような、お気持ちでしょうか。

夜のスナックなどでも、たまに見かけます。自分の先輩とは飲みに行きたがらなくて、後輩を好んでつるみたがるようなタイプでしょうか。そう、威張れるからですね。もうね、後輩たちの前で、着色をされたどうでもよさそうな武勇談を延々と語っている人もありますが、隣のソファなどに座っていて、そんな話が聞こえてくるといやんになります。

「酒がまずくなる」って言葉がありますけれど、本当に、まずく感じますよ。

ちなみに、「自己顕示欲」には、「名誉欲」も含まれますね。自分を誉めて欲しい、讃えて欲しい、偉い人だと言って欲しい、尊敬して欲しい、という欲求でしょう。結局、こうした心理も、他人から何かを奪おうとしている、ということです。

### だから、嫌われるのですね。

そうそう、コンビニの店員さんの話もそうです。

店員さんによっては、お客さんよりも、自分のほうが偉いと思っている節がありますね。昔から、とくに田舎では殿様商売が多かったのです。その名残のようなものもあるかもしれません。

逆に、市街地の場合は競争が激しいですからね。似たような商売が多いわけです。ですから、お客さんから見て、感謝の欠片も感じないような商売の方法では、やがて淘汰をされていきます。

ちなみに、商売の理屈は簡単なのですよ。基本原理ですね。

### そう、お客さんが喜ぶような商売は繁盛をしますし、不愉快になるような商売は廃れるだけのことです。普通に考えたらわかるような話です。

もうね、お客さんよりも、自分のほうが偉いと思っている店員さんを配置しているような商売の方法などでは、無理なのです。「あんた、殿様ですか！」って人もいますよ。

結局、これも奪っているわけですね。お客さんもアホではありませんので、その店に来たら、何か知らんけれど、自分のエネルギーのようなものを奪われているような気がするのでしょうか。感覚の世界かもしれませんが、何となくでもわかるのでしょうか。私でもわかりますから。

人間は誰しも、奪われることに対しては、潜在的にでも嫌がるものなのです。

そう、与えられると喜ぶし、奪われると嫌になりますよね。

そういう意味で、「自己顕示欲」は「名誉欲」を含みますので、一般的に、殿様商売は嫌われ、廃れていく運命になるわけです。これも普通に考えたらわかりそうな話ですけどね。お客さんがいなくて成り立つ商売など、この世にありえないのですから。

ついでに、前述をしましたところの、暴走癖があるドライバーのみなさんについても、似たようなことが言えると思います。

そうそう、会社や店舗の看板をぶら下げながら、他のドライバーのみなさんに対して失礼な運転や暴走運転、危険運転などをしているというケースです。「あなた、誰かを追跡している覆面パトカーですか？」って言いたくなるような運転をしている人もあります。

そうした人たちの心の中を覗いてみたときに、ここにも、「何かの欲」が見え隠れするのです。

卑近な話で恥ずかしいところもあるのですが、実は、私の母親もそうなのです。車の運転について暴走癖があります。たまに助手席に座っていると、もう、ゲロを吐きそうなくらいにビビるときがあります。普通に、運転の荒さが気になるというより・・・ 恐怖です。

先日も、「あんた、よく今まで誰かを轢き殺さなかったね。」って言いましたけど、本当の話で、その翌日に、一時停止違反で捕まりました。罰金の7,000円に対して、本人も泣きかぶっていましたが、そうした悪癖が修正をされないことには、もっと深刻な事故や不幸を生むことになりえますから、「必要な罰」だと私は思いました。

私の母親は言いますよ。「お前より、運転がじょうずかと。いらん世話じゃ。」って。

たしかに、上手だと思いますよね。あれだけ恐ろしい運転をしていて、誰も殺していませんし、大きな交通違反も犯していませんから。

しかし、一般道路はサーキット会場ではないのですから、別に、スピードの速さや、緊急回避の技術を競い合う必要はないのですね。

う～ん。自分の母親のことですから、あまり悪くは言いたくないのですが、ようは、車の運転についての自惚れのようなものを感じざるをえないのです。そこに、前述をしましたような「自己顕示欲」や「プライド」のようなものがシェイクをされて、そう、何とも表現が難しい、妙なご心境になっているような状況でしょうか。

そうそう、それと、待つことが嫌な性格もあるかと思えます。赤信号や踏切ですね。

できるだけ早く、目的地に到着をしたい、という欲求かもしれません。それで急ぐのかもしれませんが。必要以上に、スピードを出すということです。それが仕事の最中であれば、早く次の現場にも入って仕事をしなければならぬ・・・ みたいなものではないでしょうか。

難しいですけどね。その心境の根っ子にあるものは、やはり、「他人との比較」かもです。

### 他人よりも早く・・・

そう、他人よりも早く、何かを成し遂げたいという欲求は、何かの責任感も含み、結局は、前述をしました「自己顕示欲」や「名誉欲」からも生まれるような心境だと思いますね。こんな表現は怒られるかもしれませんが、例えば、オリンピックを目指したり、活躍をされていたりする選手のみなさんにも、本質的には合い通じるものがあるような気がします。

### いや、「善悪の議論」ではないですよ。

人間の魂を構成しているところの・・・ 根源的で、純粋な欲求のようなものでしょうか。それが、サーキット会場であれば、車のスピードが速ければ速いほどにお客さんやギャラリーに感動を与え、賞賛を得ることもあります。ところが、場所が変わって、それが、一般道路であれば、白バイや警察のお世話になることになり、本人や家族などが残念な気持ちになる、というだけの話ですね。

そうしたことで、人間には様々な「欲」があると思うのですが、ここ数年間で私が気になった人間の欲について・・・ やはり、「貪りの欲」や「自己顕示欲」や「嫉妬欲（心）」ですかね。

この仕事や生活を通して、嫌というくらいに経験をしてきました。

### 最終的に人間が不幸になるための「三大栄養素」みたいなものかもですよ。本当に。

人間、何をもって偉いとするかなんて、人類の永遠のテーマだと思います。

一定の基準や線引きができることはあっても、わかるわけがないですね。それこそ、山猿のボスに、「あなた、どこが偉いのですか？」って聞いているようなものでしょう。

まあ、多数決の要素はあってもよいかもしれませんがね。例えば、世界中からランダムに100人くらいの人たちを集めて、その人たちの文化や価値観を基準にして、対象の人の考え方や生き様などの「人生の総決算」について、多数決を含む評価をしてもらえたら、合格ラインの平均値くらいは見えてくるかもしれません。

100人中で、80人くらいの人たちが偉いと認めたら、その人は合格・・・ みたいな。

これは、面白い話なのです。その対象を自分にあてはめて考えてみて下さい。そう、世界中から肌の色も違えば、言葉も違うような100人くらいのみなさんが、自分の考え方や生き様についての評価をしてくれるために来ています。

何をアピールしますか？

どれだけ自分の考え方が素晴らしいのかの説明ができますか？

どれだけ自分の生き様が素晴らしいのかの説明ができますか？

どれだけ自分が偉いのかの説明ができますか？

・・・ そういうことです。

## 大抵の場合、自分が偉い人間だと思っているのは、錯覚なのです。

そりゃ、誰しも立派なところはあると思いますよ。しかし、師走の選挙の宣伝みたいに、自分から偉大さをアピールできるような人は、そうそうにいないように思えるのです。

いや、それでも、本当に・・・自分で勝手に人間の偉大さの基準やモノサシをつくって、「誰かよりは、自分のほうが偉い！」と考えている人がいますからね。それは、会社でも職場でも家庭でも学校でも、どこにでも人がいるところにはありそうです。

そうそう、私がパチンコをはじめたところに、常連のデブの兄さんから3回くらいですか、こんなことを言われたのを思い出しました。「ここは俺たちの場所だから、違うシマへ行け！」・・・みたいな話でしたけどね。それこそ、山猿の縄張り争いのようなものでしょうか。

## ガチの話ですよ。パチンコホールに自分の場所が決まっていると言うのです。

当時の私は、26～27歳くらいだったと思いますけど、「まさか！ こんなアホがいたとは！」って、ある意味で、感動をしましたね。さすがに4回目くらいに文句を言ってきたら頭を叩こうかと思っていたのですが、いつしか、そのパチンコホールでは見かけなくなりました。

私も数年間はそのホールに通っていたのですが、まったく来なくなりましたので、「あんたの縄張りで大事な場所なら、毎日、通えよ！」ってさえ、言わせてもらえませんでした。

だって、普通に考えてですよ・・・たしかに私より年上の兄さんでしたので、パチンコホールに通っていた時期は長いのだと思っていましたし、スロットの目押しを頼むこともありました。そのたびに、コインを30枚くらい持って行くような人でしたので、自力で目押しをするようになったという話はどうしてもよいのですが、どのように考察をしても、私のほうがパチンコで負けている金額は少ないわけです。

その当時、「ホルコンの制御」を知らなくても、そこそこに勝っている時期もありましたからね。昔は、本当の攻略法というものがありませんでした。

まあ、話を戻しまして、そう、昔は、パチンコホールでも、常連さんと新人さんとを比べたときに、どうしても常連さんのほうが偉いというような風潮があったのですね。風潮といいますか、その人たちの勝手な思い込みや、脳ミソか精神の病気だと当時から思っていたのですが、何かこう、「初心者くん、教えてやろうか？ ん～？」・・・みたいな。

## 「俺は先輩で、お前は後輩！」・・・ みたいな。赤の他人ですよ。

そして、先輩くらいなら可愛いものですが、頼んでもいないのに、私の師匠になるくらいの勢いで世話を焼こうとした人もいました。

2014年度を生きるパチンコユーザーのみなさんにしてみたら、本当に、愚の骨頂だと思いますよ。昔は、想像を超えるような、アホな人たちが多かったのです。

それで、そんなに偉くてご立派な人たち、自称、私の先輩や師匠のみなさんですね。「んじゃ、勝っているのですか？」って聞くと、もう、子猫のようにおとなしくなるわけです。

・・・ ダメだこりゃ、ですよ。

もうね、思い出すだけで疲れるような、さすが「昭和のパチンコホール」って歴史のような話がてんこ盛りではあります。私も一人前くらいには、いろんな葛藤とか、災難とか、アホ話とか、理不尽なこととか、語り尽くせないことがあるのですけどね。今、ようやく、そうした苦味のある素材や材料の調理ができる段階になったのかもしれない。

## パチンコ攻略業界に新しい風を（6） 「パチンコ・オリンピック？」

まあ、しかし、ある意味で、先輩や師匠たちでしたね。そうした経験をさせて頂いて、ありがたいと思っていますよ。本心です。こうやって、カオスの月刊誌のコラムの材料にでもして、読んで頂けるみなさんのお役に立てる可能性があるわけですからね。

そして、そこには、私自身の反省点があることも書いておきたいのです。

たぶん、私の中にもそうした「毒素」があるので、ちょうど磁石のように引き寄せていたのだとも思うわけです。結局、生まれたての赤ちゃんのような純粋な気持ちであれば、食欲と睡眠欲以外の「妙な欲」には興味を持ちにくいでしょうし、あまり考えることもないでしょうからね。

今、思えば、私自身にとって必要な経験ばかりだったのかもしれない。

それは、みなさんにとってもそうですよ。

今のこの辛さ、というより、アホな人に迷惑をしたり、苦しめられたりしていることが、5年後や10年後に意味を帯びてくるということもありえると思うのですね。

今は、意味不明だけれど、いつかはわかる・・・ みたいなものでしょうか。

私なんかも、何でパチンコの研究をしているのか、自分で疑問に思うこともあります。一時期は、パチンコが面白くて通っていたこともありましたがね。そして、次の段階では、自分が狙った台が当たったことに対する楽しさがありました。が、それも今では消えています。

今の感覚は、他のお客さんが当たって喜んでいいる風景があったときに、その賑わいについて楽しさを感じるくらいです。他には、友達と来ていて、その友人をからかっているときですかね。そのくらいですね。パチンコに楽しさを感じるのは。

逆に、当たったのに不機嫌そうにしているお客さんがありますけどね・・・ 「んじゃ、来なきゃよいのに。」って思うのですが、自分が当てているときにもそう見えるのかと考えたら、どうも微妙ですから、深くは考えないようにしています。

ただ、パチンコに対する楽しさや、ワクワク・ドキドキの感覚が消え去った頃から、技術論としてのレベルが上がってきたのは間違いがないでしょうね。

ほら、オリンピックなどの100m競争のようなものですよ。普通、ゲラゲラと笑いながら走っている変な選手はいませんね。たまにはねえ・・・ 爆笑をしながら走っている選手がいてもよさそうなものですが、未だかつて見たことがないですから、やはり、場の空気というものは大事ななのでしょう。

そう考えたときに、私のパチンコに対する姿勢も、オリンピック選手などの心境と通じるものがあるかもしれません。黙々と、新しいスコアやレコードを打ち出すために、当て続けているようなものではないでしょうか。

うん。パチンコが何かの競技であると言われたら、私は素直に納得をするかもしれません。競技にして欲しいという気持ちもあります。

しかし、現実には違いますからね。

・・・ そういうことです。

パチンコ攻略業界に新しい風を（7） 「人生の試練、直球と変化球」

さて、そろそろ、まとめに入りたいと思います。

今回も、私の思考能力のバランスの悪さを露呈したようなコラムでしたが、若いときには泥水をなめる思いで何かの材料を集めているような感じが強かったのです。それが、やがて歳を取るにつれて、不思議と、それらの材料をまとめるような作業ができるようになりした。

別に勉強をしているわけではないし、Qさまのように、何かのセミナーに通っているわけでもないのですがね。過去の様々な苦い思い出が、そのひとつひとつを思い出すたびに、クリアになるといいますか、何でそうした出来事があったのかという「メス」を入れることができるようになった、という感覚でしょうか。

たぶん、自分にとって嫌なこと、都合が悪いことには蓋をしたくなりますので、いつもは、蔵か貸金庫にでもしまっておきたいようなことでも、今、必要な材料であると、魂か、心か、知りませんが、その何か求めたときに、閉ざされていた扉が開くような感じです。

う～ん。私が1回2時間くらいのセミナーでもしたら、いつまでも平気でしゃべっている自分があると思いますね。それが、みなさんのお役に立つ内容なのかは別の話としても、それだけの内容はあるような気がします。

若い頃には自信がなかったことでも、歳を取ると、そう、変わるものなのですよ。

そういう意味でも、「苦しんだり、悩んだりしたことを無駄にしない。」・・・ ということが大切だと、みなさんに、お伝えをしたいのです。

そうですね。たまには、100%、断言ができることを書いておきます。

「苦しみのための苦しみなど、この世に存在を許されていない。」

たぶん、月刊カオス10月号、他の記事がどうでもよいということでもないのですが、この一文を本当の意味で悟ることができれば、みなさんの人生は大きく好転をします。

不幸な人を観察していると、当たり前のように見えてくることがあります。その人自身が不幸を呼び寄せているのだということです。

できれば、よく考えて頂きたいのです。

パチンコで負けることが苦しみだと思われるみなさんも多いでしょう。

しかし、人によっては違うのです。

例えば、パチンコで負けることが続いて、心底、パチンコに嫌気がさしたからこそ、パチンコから足を洗うことができた、という人もいますね。

私は、パチンコの有効利用ができない人、パチンコから学べない人、パチンコを通して成長ができない人は、勝ち負けに関係なく、パチンコなどしないほうがよいと思う人間です。

私は、パチンコを通して、様々なことを学びました。これからも学んでいこうです。ですから、パチンコに関わることが許されているような気もするのです。そのために、みなさんが想像もできないような犠牲も払っています。

### 「苦しみのための苦しみなど、この世に存在を許されていない。」

もし、みなさんが、苦しむことだけを目的とした、苦しみを受けているのであれば、それこそ、許されないことだと思うのです。例えば、私、あまり野球は見ないのですが、人生は、直球だけの試練で構成をされてはいません。そう、変化球がやってくるのは当然のことなのです。

直球だけしか打ち返せないようなバッターであれば、変化球に対応できませんし、そんな二流バッターは活躍の場も与えられないのです。ですから、人生の試練としては変化球が飛んでくるということを知り、その変化球でも打ち返せるようなバッターを目指さなくてはなりません。

パチンコの世界であれば、正にそうです。カオスブレイクが構築をしてきたところの基本的なパチンコに対する考え方や技術論の普遍性については、何かの合格水準には満たないこともあるかもしれませんが、それでも、「基本」は大事なのです。

その基本を、前述の野球の話で喩えるのであれば、直球のようなものですね。

そして、パチンコホールの還元率が下がることに比例をして、基本が通用をしにくくなる、飛んでくるのは直球だけではなく、ということです。

ですから、魔界ホールのようになったときには、飛んでくるのは変化球ばかりということもあります。そう、そこで必要になるのは、「応用力」なのです。

基本が通用をしないからと、根っ子から考え方や技術論を変えるのではなくて、変化球を打ち返せるだけの応用力を鍛える必要があります。

もう、本当に、魔界ホールは、変化球のオンパレードですよ。

この私って書いたら、そう自惚れかもしれませんが、はい、私が見ている、「この台、普通に当たるだろ！」っていうような台が反応もしないことがあります。

他のお客さんたちも青ざめているような状況ですかね。

例えば、時間帯にもよりますが、午後4時から午後6時くらいまで、まともに勝てた台というより、そうですね・・・ 多少は金を取り返せたような台が、1/40台や、2/40台という状況もあるわけです。いや、普通に思いますよ。

この世の中にある、いかなるパチンコの攻略法を持ってきても、その1/40台や、2/40台を割り出せるのかと考えたときに、たぶん、無理だろうという状況があります。

先日の虎視眈々ブログでも書きましたように、5/40台くらいまでであれば、今のカオスの技術でも平均的に割り出せると思うのですよ。1/8台くらいですね。

それが、毎回のように、1/40台や、2/40台で狙えとか言われたら、かなり厳しいでしょうね。無理なことが多くなるでしょう。たぶん・・・無理です。

## パチンコ攻略業界に新しい風を(8) 「普通に考えて、アホを見破ろう」

そうそう、ついでに・・・パチンコ攻略法や、パチンコの攻略技術に夢を見るパチンコユーザーのみなさんがあるかと思えますし、今後もそうしたみなさんが出てくると思えます。

それで、ぶっちゃけた話をしますけれど、パチンコ台でもスロット台でも、お客さんの“都合”や“何かの技”で強制的に当たらせることは不可能であるという前提で考えるならば、まともな台の選択をする方法論や方向性で考えるしかないのは当然の話になるわけです。

そこで、適当に座ったようなお客さんでも、ポコポコと当たるような優良的ホール環境ならまだしも、前述をしましたような、1/40台や、2/40台でしか勝てる状況がないという悪質なホール環境であれば、そんな過酷な状況であったとしても、キッチリと対応ができると責任を持って広告なり、アピールなりをしている情報の提供者や攻略団体・攻略組織でない限りは、ほぼ、100%に近いくらいに信用ができないと、そう思われたほうがよいです。

ネットのサイトやブログなどで、「全国どこのパチンコホールでも通用をします。勝てます。儲かります。」って広告などを見かけますよね。私がよく言いますけれど、普通に考えたときに、この時点で「詐欺」か「インチキ」になるわけです。

全国のパチンコホールの件数は、約18,000件くらいでしょうが、どんな人でも、全国のパチンコホールで通用をしたかのリサーチをすることなど不可能に近いと思います。

そうそう、パチンコホールの名簿くらいは作成ができますよ。そんな意味不明なものをDMで送って宣伝をしているような攻略会社もあるようですが。

それで、リサーチとなりますと、経費的なことよりも「時間的に無理」だと思うのです。

例えば、それをカオスでやるとしたら、やはり、私が遠征をして検証をしなければ何の信憑性もないと考えますので、私自身が、約18,000件のパチンコホールを訪問し、カオスならカオスの技術論が通用をするかの検証計画を立てるわけです。

そうですね・・・ 1件あたりのリサーチについては、7日間くらいは必要でしょうね。

7日間、毎日、勝てたというような実績や、7日間の合計でどのくらいの収支が上がったのかという結果がないと、通用をしたのかという以前に、検証にもならないでしょう。

そりゃ、1日目でも、マグレみたいにして勝てることはあるでしょうし、そこで、自分の技術が通用をしたと思いついででもよいのですが、そんな大雑把なことや、信憑性が弱いことをデータにすることはできませんね。誰に対しても、失礼になります。

それで・・・移動も込みでよいです。次のパチンコホールに移動をするのに、1日や半日くらいを使ったとして、1件あたりのリサーチについては、7日間でよいとします。

そうなりますと、全国の約18,000件のパチンコホールを訪問し、検証計画を立てたのはよいものの、1件あたりのリサーチについては最低でも7日間が必要だと・・・軽く計算をしてみましようかね。はい、18,000件×7日間=126,000日です。

### 126,000日って、できそうですか？

これを、年間で割りますね。何年かかるのかわかります。私のスマホの電卓が故障をしていなければ・・・ $126,000日 \div 365日 = 約345年$ になりました。

### はい、どんなに長生きをしている人でも、さすがに無理そうな気がしませんか。

私、思いますよ。インチキのパチンコ攻略法を売っている人も、そのアホな人に騙される人も、「普通に考える」という感覚が弱いのではないのかと。

### 「全国どこのパチンコホールでも通用をします。勝てます。儲かります。」・・・100%だと断言をしてもよいです。ありえないのですよ。

パチンコの攻略法を売っているご本人さんは、自称でパチンコのコンサルタントとか、パチンコの先生とか、パチンコのアドバイザーとか、パチンコの研究者とか、いろいろと好き勝手に肩書きを名乗りたがりますけどね。しかし、自分自身では全国のパチンコホールの検証すらできはしないのです。そして、できもしないってことすらも知らないということですよ。

だから、「全国どこのパチンコホールでも通用をします。勝てます。儲かります。」というような表現で、人様を釣ろうとするわけですね。本格派、愚の骨頂でございますよ。

### こうしたことが、単純に、パチンコ攻略法や、パチンコの攻略技術について、勘違いをされているみなさんが多いという話なのです。

他の何の分野でも必要になってくることだと思うのですが、やはり、「普通に考える」という感覚は大切です。いつも私が言うところの、「平均値」や「中道の考え方」でもあります。

ちなみに、私なんぞはあれですよ。ネットのパチンコ攻略法のサイトやブログなど沢山ありますがけれど、そのサイトやブログの1ページを見ただけで、多少はマシな内容なのか、嘘・インチキなのか、だいたいわかります。

下手をしたら、そのサイトやブログのタイトルでも判断ができることがあります。

### 単純ですよ。人様のお役に立とうと努力をしている姿勢があるのか、誰でもよいので騙されないかと獲物を見張っているような姿勢であるのか、という判断基準です。

「全国完全対応！」とか、「誰でも勝てる！」とか、「日本一の攻略法！」とか、「最強の攻略法！」とか・・・もう、バカですよ。

自分で自分がバカだと宣伝をしているようなものです。ド○ホルンリンクルのCMではないですけどね。申し訳ございませんが、そんなバカを先生や師匠と崇める人も・・・ってことです。

それも、「波長同通の法則」のようなものだと思うのです。似たような精神的な傾向性がある人たちが集まるということです。あまり善悪には関係がなく・・・ですね。

そうそう、自慢にもなりませんけど、カオスはかなり敏感ですよ。

ほら、見知らぬ地域などで、人気がありそうな床屋さんを探そうとしたら、他の床屋さんに聞けばよい、という話があるくらいで、同業者の情報網というものは、普通、異業種のみなさんよりも敏感なのです。

私が重要だと思うことなので何度も書いてしまいますが、そのホールやシマの状況によっては普通にありえる話であるところの、1/40台や、2/40台で勝てそうな台を狙えと言われましたら、今、現在、カオスブレイクが認識をしているところの、いかなるパチンコの攻略法や攻略技術を使っても、平均的に、無理だと思っています。

それが、現実なのです。

私たち、カオスブレイクでも無理です。1/40台や、2/40台でしか、まともに勝てる台がない状況で、それを絞り込めるかと問われたら、無理だと言います。嘘を吐いてもしょうがないからですね。

「5/40台くらいまでであれば、何とかありますよ。しかし、1/40台や、2/40台となれば、もう、それは、本格的な超能力者かエスパーの世界ですがな。」と、そう表現をするしかありません。

それだけ、パチンコは甘くないということです。

ですから、私が世の中のパチンコ攻略法や、パチンコの攻略技術について腹が立つのです。

「セット打法」などのインチキや詐欺は問題外ですけど、せっかく「ホルコン制御」を訴えてパチンコ業界の健全化に貢献ができるスタートラインに立てたような人たちが、訳のわからないクソのようなアピールをしているのを見たときに、もう、消えてくれと思いますよ。

(1) パチンコは「詐欺」を前提としたシステムじゃないの？

(2) あ、「ホルコン制御」を訴えている人がいる！

(3) やって見たけど、どうも、「嘘」っぽかった。

(4) 結局、ホルコン攻略も「嘘」なのねん（涙）

こんな流れになったら、本当に最悪ですよ。ただ、そうした残念な思いをされたみなさんが、パチンコから足を洗うという選択や決断に繋がることが多いのであれば、それも肯定をされることなのかもしれませんけどね。

しかし、あそこもダメ、ここもダメ、自分では「ホルコン制御」があるような気がするのだけれども、どこもかしこも中途半端で嘘だらけ・・・ って、そうした被害届を言いふらすような人が増えてきますと、前述をしましたように、そこには、「人間不信」の世界が広がるだけです。

うん。関係がない話ですけど・・・ 私が20代の頃の話をしましよう。

もう、10年以上、昔の話ですけどね。ある商売でもしたいと思っていたら、うちの社長がある主婦のおばちゃんを紹介してくれました。凄くよい人でしたね。団地住まいでしたけど、一度だけ食事に招いて頂いて、娘さんにも会わせてくれました。

何でしょうかねえ・・・

ご縁だとは思いますが、私が知り合った人たちは、どうにも癖がある人たちが多くて、そのおばちゃん、私と会うたびに、会話の90%以上が、自分の旦那さんの悪口で占めるのです。はい、そのようなコミュニケーションは、生まれてはじめての経験でした。

私は、ある商売をしたいので、そのための計画なり、ヒントなり、協力なりを求めるような会話をしているつもりなのですが、いつの間にか、そのおばちゃんの旦那さんの話にすり替わり、もう、その愚痴話を聞くしかない状況に追い込まれるのです。

それから、3ヶ月くらいは頻繁にお会いすることがあったのですが、私も、「こりゃ、違うだろう？」と思うようになったお付き合いの最後のほうでは、そのおばちゃんが私の自宅に来て、車から降りるときの第一声が、「今朝ね、うちの主人がねえ・・・ もう、最悪なの！」って切り出しがメインの挨拶になっていました。本当の話ですよ。

いや、それから10年以上が経過をしていますけど、もし、そのおばちゃんが昔の状況と同じことを繰り返しているとしても、今の私でも話は聞くとしますよ。

しかし、昔のように、慰めたり、励ましたりはしないでしょう。

「まだ、そんなことを続けていたのですか？」って、それで終わりです。「10年も20年も旦那さんの悪口を言い続けて、あなたは幸せになったのですか？」って話も、相手の表情しだいではするかもしれません。

この話は、また後で書きますけどね。・・・ そういうことなのです。

パチンコ攻略業界に新しい風を（10） 「暴露話の裏にあるもの」

『しかし、あそこもダメ、ここもダメ、自分では「ホルコン制御」があるような気がするのだけれども、どこもかしこも中途半端で嘘だらけ・・・ って、そうした被害届を言いふらすような人が増えてきますと、前述をしましたように、そこには、「人間不信」の世界が広がるだけです。』

あまり書きたくはないのですが、そう、他人依存型の傾向性が強い人は、どうにも技術職に向かないようにも考えることがあります。ある意味で、素直なのですけどね。

ようは、直球なら打ち返せるが、変化球には苦戦をする、というイメージでしょうか。

例えば、私がカオスブレイクという奇妙な組織をつくらなくて、どこかのパチンコ攻略サークルのようなものに所属をしていたとします。それで、とりあえずは、先生や先輩のおっしゃることを素直に聞いて、実際に自分が通うパチンコホールで効果があるのかを試します。

それで、どのくらいの期間なのかはわかりませんが、そのパチンコの攻略技術について、どうにも使えないと判断をしたときに、そのパチンコ攻略サークルに所属をする必要性を感じなくなって辞めることになりました。

問題は、その後ですよ。

自分のブログでもよいし、何かの掲示板でもよいし、私とそのパチンコ攻略サークルの悪口を書くかと思ったときに、たぶん、そんな見苦しいことはしたくないですね。

まかり間違っても、そのパチンコ攻略サークルの攻略技術が通用をしなかったなどと、書けるはずもないです。その理由は、自分がそのパチンコ攻略サークルの攻略技術を100%、修得をしているという前提などないからです。

そう、自分だから活用をさせることができなかつたかもしれない、自分だから通用をさせることができなかつたかもしれない、という可能性を考えます。

もちろん、場合によるのですが、ここが、他人依存型の傾向性が強い人が、陥りやすいところの勘違い、という表現をしてもよいのだらうと思うのです。

直球と変化球への「対応力」の違いのようなものです。

気持ちはわかるのですけどね。

やはり、攻略A、攻略B、攻略Cというように、様々なところでパチンコの勉強をすることは間違いではないのですが、そのたびに、それらの攻略A～Cなどの基本を覚えたつもりになっても、応用力を鍛えられなければ、結局は、パチンコでは勝てないことが多くなると思うのです。

ようは、薄っぺらいパチンコ攻略法の評論家のようになることもありえます。

あんな考え方もある、こんな技もある、こっちは出玉のレシートが凄い、あっちは当てる台数が凄い・・・ ネットショップの価格比較コムなどで買い物をしているような捉え方でしょうか。

それで、多種多様なパチンコ攻略法の遍歴をしているご本人さんはどうかと考えたときに、「私には無理だった(涙)」というケースであれば、もう、気の毒さを通り越して、そのご本人さんは、パチンコを辞めたほうがよいと思う人もあると思うのです。

結局、中途半端な姿勢や考え方、行動などが原因となって、自分がパチンコで負けることが多くなりますと、その復讐でもないかもしれませんが、不特定多数の人たちが見るようなところで他人の悪口を書いてみたり、風評被害を起こしたりすることもあると思います。

前述の、自分の旦那さんの悪口を言い続けているおばちゃんのようなものです。

「コウちゃん、実はね、うちの旦那の暴露話があるんだけど。聞く？」

みなさんが思われるところの、「普通感覚」のことについては、そこまで正確にはわかりませんが、私の感覚でこの話を聞いたときに、どん引きしました。いや、ここまで来ると、かなり危険ですよ。

ネットの世界では、他人の関心を引くために、「暴露話」とか、「内緒話」とか、「ここだけの話」とか、半分は冗談や創作で書かれたような記事を目にしますけどね。

・・・ リアルで聞くと引きますよ。

だって、もしもですよ、私がおばちゃんと結婚でもしたら、最初のラブラブモードの期間中はよいかもしれませんが、それから数年でも経てば、前の旦那さんと同じく、選挙の街頭演説のように、隣近所、友人、知人、親戚、ママ友、赤の他人にまで、私の悪口を言いふらされることは目に見えているわけです。

とてもではないが、結婚もしたくないですし、友達でもありたくないと思うのです。

ネットの世界でも、その本質は同じことではあるのですがね。前述をしてきましたように、自分が会ったこともないような他人の悪口を書いたり、風評被害を起こしたりしている人は、危険人物だと思われたほうがよいかもしれません。

その人と、友達である期間はよいでしょう。仲間である期間はよいでしょう。しかし、こちらが飽きるか、相手が飽きるかでもして疎遠になったときに、次の被害者は、そう、自分になる可能性が高くなるわけです。

たぶん、人の悪口が大好きな人は、同じように、人の悪口が大好きな人と共鳴をしますよ。

その人たちの精神の波長が同通をする、ということだと思いますね。ですから、どんどん、集まってくるわけですよ。人の欠点や弱いところを指摘したり、攻撃したり、小馬鹿にしたりすることが大好きな人たちが・・・ウジャウジャと。

そうですね。ちょっと時間があるので考えてみましょうか。

ん～ 私が中学生の頃の記憶にもありますが、例えば、休み時間や担当の先生が来る前に、黒板に落書きをしたり、誰かの悪口を書いたりして喜んでいるような生徒がいました。そんな心境かもしれません。平均で、クラスに1～2人はそんな生徒がいたと思います。

そうした妙な癖がある人は、誰かを生贄や磔にすることで、他の誰かが、それを見て喜んでくれると・・・思っているところがあるか、逆に、自分が生贄や磔になりたくないで、先立って防波堤を築いている、そうした心理的な動機があるような気がします。

ほら、アニメのドラえもんの世界で考えるならば、スネオのような性格かもですよ。単純に、のび太くんをバカにしたいときもあるし、自分がジャイアンのような“いじめっ子”から身を守るために、のび太くんを生贄にしたいという思惑があるような感じでしょうか。

それとも、告げ口や密告の感覚でしょうか。抵抗が弱そうな誰かを生贄にしたら、それを喜ぶ人たちと仲良くなれる可能性を感じるのかもしれませんが。前述の旦那さんの悪口が大好きなおばちゃんもそうでしたけど、「暴露話」とか、そんな言葉を使いたがる人は、やはり、寂しいのです。取り急ぎにでも、誰かに相手をして欲しいのかもしれませんね。

そう、寂しさからくる攻撃性のような衝動もあるかもしれません。

うちのクロニャンもそうで、私が起きていようと寝ていようと、ウザいくらいにまとわりついてくるのですが、しばらく無視をしていますと、最後には噛みつきますもんね。

ちなみに、日本人の恥ではないのかと思えるような、2ちゃんねるなどの掲示板の「便所の落書き」のようなものについては、単純に、暇なのか、何かのストレスや憂さ晴らしで、他人の悪口を書きまくっている人もあるという風景かもしれませんね。

そうしたことで、人間には、いろんな動機があつて、“変な人”に豹変をすることがあるのだとしたときに、それも個人の自由なのかと思うと同時に、やはり、自分の知人などであれば、アホな人にはなつて欲しくないと思うのです。

先ほども書きましたように、ネットの世界でも、「人間不信」を拡大させるような仕事をされるみなさんが増えたときに、それを外国人のみなさんが見たら、そんな国には行きたくないと思われる可能性もありますよね。

そもそも、私の勘違いかもしれませんが、本来の「日本人の誇り」のようなものですよ。

例えば、他の国のみなさんにですよ・・・ 「日本人とは、どのような民族なのですか？」と聞かれたときに、「はい、夜な夜な、ネットの掲示板で他人の悪口を書きまくってストレスを発散させるのが大好きな民族です。」とか、「ええ、電信柱の影から他人をストーキングするような刺激がたまらない民族です。」とか、最低ですよ。

本来の日本人とは、誇り高く、尊厳のある民族だと、私は思っています。

世の中の狂っているところや、腐っているところに妥協をしてはならないと思うのです。やばいくらいに腐っている肉や魚、野菜などを喜んで食べるような人は少ないでしょう。それが腐りすぎていたら、何かの料理に使うにしても妥協はしたくないでしょう。

人間も同じことです。考え方や生き方が狂っている、腐っているような人があったときに、それらを修正し、治療のための処方箋を出せる人たちが増えたほうがよいと思うのです。私には、子供はいませんがね。それでも、他人の子供さんたちの未来のことを考えますよ。

う～ん。子供さんの未来などと考えると、現状の学校教育の在り方などへの私の講釈や持論を書きたくなくなりますけど、話が長くなりますので止めますが、まだまだ、今の学校教育など、合格点に届いていないと思いますね。ぶっちゃけ、アホの生産工場のような側面もあります。

だって、高等教育を受けたような人たちでも、テレビのニュースであるような不可解な事件を起こしたり、人を殺したり、詐欺をしたり、横領をしたりなど、普通に考えて、相手も不幸になるし、自分も不幸になるようなことをやってしまうわけです。

「どんな高等教育を受けたのですか？」って話です。

『ネットの世界でも、その本質は同じことではあるのですがね。前述をしてきましたように、自分が会ったこともないような他人の悪口を書いたり、風評被害を起こしたりしている人は、危険人物だと思われたほうがよいかもしれません。』

ついでに、先ほどの文章ですが、例えば、「殺人」と「他人の悪口を言うこと」は違うと思われるみなさんが多いかもしれません。しかし、私は、完全に「異質」のものであるとは考えません。どちらかと考えたら、「同質」のものだと思います。

そう、「排他的な精神の傾向性」なのですよ。それが小さいうちには、「他人を悪く思う」「他人の悪口を言う」という程度であるのですが、それが大きくなると、「他人に暴力を振るう」「他人を陥れる」「他人の風評被害を起こす」・・・ 「他人を殺す」という流れになると思います。

「排他的な精神の傾向性」の強弱によって、他人に対する危害内容や危険レベルは変わるものの、その本質は同じものであるという考え方です。

いつかの自分の旦那さんの悪口が大好きなおばちゃんでもそうで、他人に自分の旦那さんの悪口を言いふらしているうちはまだよいのですが、それからエスカレートをしたときに、そう、何らかのきっかけで、ストレスや怒りのようなものが頂点に達したときに、手元に包丁でもあれば、旦那さんをぶっ刺すようなことにもなりかねません。

この時点でようやく、テレビのニュースや新聞の記事になるわけです。

ですから、「殺人」と「他人の悪口を言うこと」は違うと安易に考えていますと、明日は我が身ということもあるのです。「まさか、自分が殺されると思わなかった！」って、殺されたご本人が思えるかどうかは微妙でしょうけど、人間の精神の構造や仕組みのようなものにも興味を持たれたほうがよいかと思うのですね。

だって、今、この月刊誌を読まれているみなさんでも・・・ ないですか？

「うちの小姑のお母さん、早く死んじゃえばいいのに！」って。

「うちの旦那、早く死んで、保険金でも残してもらいたいわ！」って。

「そうしたら、私をご機嫌でパチンコでもして遊んでいられるのに！」って。

こうした小さな・・・ 小さくもないでしょうが、他人へ対する排他的な“感情”や“思い”が積み重なって来ますと、ちょうど、映画リングの「呪い」のようなもので、相手の体調や調子を悪くすることもありえると思いますね。

普通に考えて、同じ家に住んでいて、「死ね死ね光線」のようなものを、10年も20年も浴びせられたら、やはり、その相手の具合が悪くなると思うのですよ。そういう意味で、他人に対して、“排他的な思い”が強い人は、いつかは危険な人物になるかもしれない、ということです。

そして、昔からの言葉で、「人を呪わば穴ふたつ」という諺を思い出します。

よく考えられた言葉であると思いますね。自分以外の他人に対して呪いをかけると、結果的に、墓穴をふたつ掘っているということでしょう。相手も苦しみますが、結局は、自分も苦しんで、その墓穴に入ることになる、ということです。

たぶん、この真理は、古今東西、どのような時代背景でも、全人類共通の観察眼のひとつだろうと思うのです。これは、私の持論ですけどね。人間なんて、いつの時代に生きようと、やっていることは似たようなものなのです。それが、原始時代であろうが、宇宙人のように科学技術が進化した時代であろうが、その本質は同じはずです。

そう、永遠に他者との関わりの中で生きていかねばならない宿命であるのが、人間や動物だと思いますし、そうした前提であるならば、一言で、「他人との協調性や調和性を学んでいる存在」でもあるように考えます。そして、昔から、たぶん、大昔から、他人との協調性や調和性が弱い人から先に、隔離をされたり、裁かれたりしてきたのが、人類の歴史でしょう。

刑務所などは、正にそうですね。他人に害を与える人は、やがて隔離をされるのです。

何ヶ月か前のテレビのニュースでも、パソコンの遠隔操作の事件があって、真犯人が逮捕をされましたけど、単純に、他人に対して害を与えるならまだしも、その罪を他の無関係の人たちに擦り付けていたわけです。ある意味で、それを楽しんでいたようなところもあるかもしれません。

・・・普通に考えて、最悪でしょう。

誰かに恨まれてもしているような人たちが、その相手からの復讐や逆恨みなどで危害を与えられるのであれば、お互いにそうした「業（カルマ）」のようなものを通して、苦しみながらでも学びあうこともあるのかと考えもしますけどね。それが、まったくの赤の他人であれば、一方的な悪意や悪事でしかありません。

やっぱり、そうした傾向性がある人は、隔離をしなければダメでしょう。

そう、先般の、大阪ですか。連続保険金殺人容疑で逮捕をされたおぼちゃんの話もそうです。他人を騙すことに対しては、もう、プロに近いのでしょうか。頭がよいのです。このレベルになりますと、愚痴や不平不満を言わずに、悪意や不愉快な顔も見せずに、逆に、とてもよい人を演じていたのでしょうか。それから、寂しそうな独身男性に対して上手に取り入って、その相手の遺産を奪うための計画を進めるわけですね。

同じように、そうした傾向性がある人は、隔離をしなければダメでしょう。

そうそう、テレビで犯罪評論家のような人がコメントをしていましたけど、詐欺師の雰囲気といいますか、大きな特徴は、とてもよい人を演じるらしいです。そりゃ、どう見ても、「あんた、悪い人でしょ？」って雰囲気の人が誰かを騙そうとしているよりも、「こんなに笑顔がステキな人であれば好感が持てる。」って人が誰かを騙すほうが、その成功率も高くなりますよね。

そういえば、サムローくんの笑顔は爽やかでしたね。

まあ、キリがないので話を戻しますけど、ある意味で、悪の進化論のようなものでしょうか。年々と、犯罪の手口や巧妙さ、緻密性などが進化をしているかのようでもあります。騙されない人が増えることは大事なことなのですが、欲まみれでサイコパスのような精神状態の人たちは、それでも騙そうと知恵を絞りますからね。

いや、性悪論ではないのですよ。

私は、性善説を支持していますからね。ただ、アホな人たちがいたときに、その人たちに対して、そのアホだという客観的な事実を受け入れて欲しいので、人間が不幸になるプロセスを考えながら、様々な参考事例をご紹介します。

そう、サイコパスと言え、先日、「ヒトラー 最後の12日間」という映画を見ました。

歴史上では、約600万人のユダヤ人を強制収容所で虐殺した人ですけど、最後のベルリンの市街地での戦闘も含めて、約5,000万人の人たちが戦争で命を落としたとされています。この映画の中のヒトラーの言動などを見ていて、これこそ、サイコパスだろうと思いましたね。

もし、ヒトラーが総統にならなくて、他のまともそうな人がドイツを統治したならば、これだけの不幸を生むこともなかったように考えるわけです。人間の価値が、民族性で決まるという考え方でしょうか。ユダヤ民族に対しての寛容性など、0%に近かったのかもしれませんが。

『「排他的な精神の傾向性」の強弱によって、他人に対する危害内容や危険レベルは変わるものの、その本質は同じものであるという考え方です。』

この話もそうですね。

例えば、同じアリア人でも、ユダヤ人を見たときに、「私はユダヤ人が嫌いなのでしゃべりたくない。」 → 「あ、ユダヤ人だ！ 悪口でも言ってやろう！」 → 「ユダヤ人め、1回は殴ってやりたい！」 → 「ユダヤ人は許されない、そのうち1人くらいは殺してやる！」 → 「ユダヤ人の血は根絶やしにしなければならない、ぜがひでも600万人は殺さねば！」・・・

そう、同じアリア人でもユダヤ人に対する考え方や、悪意などの影響の与え方が違うこともあるでしょうし、その悪意などがエスカレートをしたら、最終的には、悪魔のようなことを平気でするようになるのです。排他的な考え方も、極まれば、「悪魔の所業」になるわけです。

ヒトラーはサイコパスであったと私は思いますけど、私たち日本人でも、他人に対する排他性としては、似たような感覚の人がいると思いますね。その方向性といえますか、根っ子のようなものですよ。そうした人が、何かの権力や能力がないときには、他人の悪口を言うくらいで収まっているかもしれませんが、一旦、ヒトラーのような権力や能力を得てもしたら、とんでもないことをしでかす危険性もあります。

前述の、パソコン遠隔操作の犯人擦り付け事件でもそうで、その人もサイコパスだと噂がありますが、もし、その人に一定のパソコンの技能やスキルがなければ、世間を騒がせるような愚かなこともしなかったかもしれません。

大阪の連続保険金殺人容疑で逮捕をされたおばちゃんの話もそうです。そのおばちゃんに、青酸化合物（青酸カリ）を入手できる能力がなれば、一連の連続殺人事件を起こすこともなかったかもしれませんね。他によい殺人の方法を思いつけば、その限りではないかもですが。

そう、ネットの掲示板などで他人への脅迫や悪口などを書きまくって、脅迫罪や名誉毀損などで逮捕をされたり、損害金の請求をされたりしている情けない人たちもありますけど、これなども、パソコンでチャットや文字の入力ができるスキルがあるので、結果的に、そうした悪事をして社会からの反作用を受ける、罰を受ける、ということでしょう。

このように、その異常な精神が、何かの権力や能力などを契機に活発化をし、表面化したときに、ようやくにでも私たちが気付くことになるのかもしれませんが、それが、今はおとなしく潜伏をしているような状態、つまり、潜在的にでもサイコパスの気配があるようなみなさんは、私たちの身近なところにもおられるような気がしてなりません。

そもそも、サイコパスの定義とは何かと考えたときに、医学的にも精神的にもその正確な定義はないような気がします。人間の「心の病」のようなもので、線引きや分類、程度などがはっきりとしていない、ということかもしれません。それは、オセロのように、白と黒とが明確に分かれているようなものではなく、そう、正常者と異常者というような境界線が明確に分かれているようなものではなくて、グレーゾーンの範囲で、その性質が変転をしているような気がするのですね。

一般的に、サイコパスの症状がある人の特徴は、相手の痛みや苦しみ、悲しみなどについて、「共感」をする能力が極めて低い、と言われているようです。単純には、誰かの頭をフライパンのようなもので殴っても、その相手がどのように痛がるか、苦しむか、混乱をするか、といった相手の立場に立った想定をする能力がないに近い、ということです。

そう、「共感性」や「共鳴性」の欠如ということでしょうか。アニメのエヴァンゲリオンであれば、人間と初号機などとの、シンクロ率のようなものでしょう。そうした人は、他人の不幸や苦しみ、悲しみ、悩み、痛みなどについて、ほとんど気にしない、気にならない、考えることもないような感覚で生きているかのようでもあります。

ええ、私が知っている人にも心あたりがあります。

もちろん、私自身も、他人に対しての「共感性」が弱くなっていることがありますので、何となくでも、そうした人たちの臭いがわかるといいますか、そういう意味では、共感をしているのかもしれない。「同じ穴のムジナ」のような同期現象でしょうか。

ただ、稀に、自分の直感を含めて、「この人、やばいなっ！」と思うような人は、やはり、いつかはどこかで、その尻尾を出すといいますか、結局は、自爆をされていたことが多いですね。そして、私が、“アホな人”という表現をする対象が、今回のテーマであるところのサイコパスを代表とするような、「共感性」や「共鳴性」がないに等しい人たちでもある、ということです。

## パチンコ攻略業界に新しい風を（12） 「未熟な魂・・・ されど、性善説」

それでも、私が考えるのは、やはり、「性善説」になります。

そうですね。“アホな人”と、“悪い人”は違います。

サイコパスも「心の病」であって、もし、そうした症状がある人たちでも、今は、善人として生きていることもあるわけです。或いは、悪人と呼ばれていたような人たちでも、いつかは改心をして、「心の病」を治療して、一般的な善人の基準値よりも、善人になることもあります。

動物 > 人間

ただ、単純に考えたらこうです。本来は、「心の病」というよりも、感覚が動物に近いのだと思うのですよ。平均的な人間としての認識力の一部が欠如をしているということです。先ほどは、「悪人」という表現を使いましたので、広義で「心の病」と書きたくなりましたけど、単純に、他人を理解しようとする意思や能力が未熟なだけだと思うのです。

例えば、普通の人間でもそうで、1～2歳くらいの赤ちゃんであれば、誤って床にミルクやジュースをこぼしても、別に、それが親の迷惑になるということを考えることも少なければ、悪いことをしたという反省ができないことが多いかと思います。自覚がないからですね。

それが、歳を取って、正確にはどのくらいか知りませんが、例えば、5～6歳くらいになったときには、さすがに似たようなことをしたら、相手の気持ちや迷惑について考えることができたり、もし、それが悪いことであれば反省をしたりすることができるようになるわけです。

ですから、サイコパスのような症状が強い人は、どれだけ歳を取っても、他人への「共感性」や「共鳴性」という認識力や、他人を理解しようとする意思や能力が未熟なのだと思うのですね。ようは、クソガキがそのままの心境で、大人になったようなものでしょうか。

『ネットの世界でも、その本質は同じことではあるのですけどね。前述をしてきましたように、自分が会ったこともないような他人の悪口を書いたり、風評被害を起こしたりしている人たちは、危険人物だと思われたほうがよいかもしれません。』

そう、危険人物ではあると思いますよ。本当に。排他的な考え方や精神は、エスカレートをしませうからね。誰でも匙を投げたくなるような人たちがいることは認めます。

それでも、私は、世の中の人間が、善人と悪人とに分類をされるような存在ではなく、本来は、膳なる生き方を目標に、それぞれの人たちが、それぞれの立場で、それぞれの役割を担いながら、尊い修行をしているのだとする「性善説」を信じています。

ですから、日本の刑法で裁かれるような人たちでも、「悪人」や「犯罪者」という表現よりも、「今はまだ、未熟なだけの人。」「何かしら道を誤っただけの人。」「考え方がズレているだけの人。」「本当は、救うべき、手を差し伸べるべき人。」という感覚で見れるように努力をしています。

結局、動物の感覚に近い人は、「欲の制御」が弱いということです。人間、誰しも、「欲」があります。それを自分の中だけでコントロールができるか、他人のものまで欲しがるか、ということの違いだと考えます。そこで、他人のものまで欲しくて欲しくてしょうがない状況になりますと、相手に危害を与えてでも、それを奪おうとするわけですね。

他人の迷惑、苦しみ、不幸 < 自分の欲望

この私たちが住んでいる世界を、神や仏が創造をされたと前提にするならば、紛れもなく発明品であると思います。「自動循環型の学習空間」のようなものでしょうか。人は、それぞれが好き勝手に生きてるように見えて、誇りのある生き方をしても、愚かな生き方をしても、自動的に学習ができるようになっている、ということです。

今回のテーマである、人間の「様々な欲」についてもそうですね。この「欲」がきっかけとなって、誰かに迷惑や危害を与えることにもなるのですが、その結果、いつか必ず、自分で生み出した他人への悪意や危害が、そう、自分に跳ね返ってくるようになりますので、遅かれ早かれ、他人へ害を与えることが愚かなことであると、自分で思い知ることになるわけです。

それを逆に考えたときに、人間に「欲」がないか、限りなく薄いものであれば、それだけ学びの機会も少なくなる、ということかもしれません。

例えば、庭木のような植物を考えたときにもそうで、花や木にまったく欲望がないとは言えませんが、「あ～ もう少し日が照って欲しいなあ～」とか、「あ～ もう少し雨が降ったらなあ～」とか、「できれば、風が少しでも吹いたらなあ～」とか、「たまには、ミツバチでも飛んでこないかなあ～」とか・・・ もし、花や木などの植物に欲望があったら、このくらいなものでしょう。

私は、チューリップやヒマワリのような植物になったことがありませんから、その気持ちは、わかりませうどね。ただ、少なくとも、植物には、人間にあるところのギラギラと脂ぎったような欲望は薄いように思うのです。

人間・・・ 調和 < 進歩より

植物・・・ 進歩 < 調和より

う～ん。「進歩」と「調和」という概念が、この大宇宙の根本原理だと私は思っていますけれど、それを単純に比較したときに、このような偏りがあるような気がします。その偏りを強めるのが、「欲望」といいますか、「自我」のようなものかもしれません。「自我」が強くなればなるほど、「個性」も強くなりそうですからね。

やはり、そうですね。「自我」の部分でしょう。その「自我」の発芽具合によって、「進歩」の優先をするか、「調和」を守るか・・・という一定の選択があって、そのクロスラインですね。そう、「進歩と調和の中心」で考えてみる、試してみる、経験をしてみる、学んでみる、反省をしてみることで、全体的に成長をしているような感じでしょうか。

例えば、チューリップやヒマワリでもそうで、チューリップの「自我」が極端に目覚めたときに、「もう、こんな小さな存在は嫌だ！ 人間よりも大きくなって見下してやりたい！」って頑張ったときに、そのチューリップが、100mくらいの高さになりましたと。

別に、それはチューリップの自由ですからよいとは思いますが、それでも、「進撃のチューリップ」のようになってしまったら、何か違うだろうって感じますよね。自宅の庭先に、100mくらいのチューリップがピョンピョンと立っていたら、そりゃ、人間の都合でしょうけど、やっぱり、邪魔でしょうがないので、植える人も少なくなりそうです。

そもそも、そんなチューリップがあつたら、気味が悪いからですね。

ですから、チューリップが人間に愛され可愛がられるためには、ほどほどのスタイルがよいと思いますし、もしかしたら、チューリップもそれを知っているのかもしれない。

はい、ヒマワリでもそうですね。本当は、標高10kmくらいの富士山を遥かに越えるようなヒマワリになってもよいのです。ヒマワリの勝手ですからね。しかし、ご本人は、それを望んでいないかのように、一定の尺度を守っているようなところがあります。そうしたことが、植物として、何らかの調和を守っているように考えるのですね。

### では、人間はどうか・・・

有名なのは、バベルの塔ですか。人間の「自我」や「自己顕示欲」のようなものが神や超自然的なものに挑戦をして、ケチョンケチョンに打ち砕かれたという昔話です。雷の一撃で崩壊をさせられたようなものでしょうか。それが、何らかの調和を乱したことへの罰なのか、人間の自惚れや慢心への戒めなのか、ただの偶然なのかは知りませんが、前述のチューリップやヒマワリのように、極端に「自我」が成長をすると、それなりの反作用が起こるようになるのかもしれない。

そう、人間が不幸になる原因は単純なことが多いのです。

### 一言で、「みんなとの調和を乱した。」・・・ということ。

『そう、永遠に他者との関わりの中で生きていかねばならない宿命であるのが、人間や動物だと思えますし、そうした前提であるならば、一言で、「他人との協調性や調和性を学んでいる存在」でもあるように考えます。そして、昔から、たぶん、大昔から、他人との協調性や調和性が弱い人から先に、隔離をされたり、裁かれたりしてきたのが、人類の歴史でしょう。』

他人の迷惑、苦しみ、不幸 < 自分の欲望

他人のことよりも、自分のことを優先しすぎますと、その反作用が来るといことです。「悪因、悪果、撒いた種は刈り取らねばならない。」・・・ 悪い原因は、悪い結果を招き、そうした不幸の種を撒いたのが自分であれば、刈り取るのも自分になる、というくらいの意味ですね。

「自我」や「自分の欲望」が強すぎる人は、他人との協調性に欠ける。当然のことです。

わかりますよ。難しいことなのです。私もこの歳になって、ようやく気が付いてきたことがありますからね。勘違いをしていたことに気が付いたり、錯覚をしていたことから目が覚めたりと、そんなことの繰り返しです。

ここ最近で、私が・・・最も反省といいますか、考え方が変わったことを書いておきます。ただ、それは、私の日記のような話ですから、それが本当に正しい考え方や、世の中の真実であるという自信はありません。

それで、「人間の平均値」の話です。

単刀直入に、私は若い頃から、この世の中には、アホな人間が多すぎるという感覚を持っていて、そうした人たちを小馬鹿にしたり、責めたり、見下したり、裁いたりするような感情が、他の人たちよりも強かったかもしれません。今でも、その名残がありますからね。

そう、昔から、私の見た目といいますか、外見的には、虫も殺さないような、素朴で呑気な田舎の兄さんか、ただのアル中のおじさんのように見えるらしいですけどね。

それでも、内心は・・・「人間としての誇りもプライドもないような考え方や生き方をしている人は、生きていてもしょうがないのではないか。」「あなたが仮に80歳まで生きたところで、別に誰かの役に立つような希望を感じないので、人様に大きな迷惑をかける前にあの世に帰ったほうがよいのではないか。」という思考が、まあ、相手にもよるのですが、そんな感情が、心の中に、よくありました。

ある意味で、「排他性の強い考え方」です。いや、「排他的な考え方」、そのものかもです。

ようは、「人間の平均値」以下の人たちだと自分が査定をした人たちがあったときに、その存在価値や存在理由を素直に認めることができなかつたわけです。

はい、何のことはない、自分が「人間の平均値」の錯覚をしていて、勝手に基準値のようなものを引き上げていただけの話であつたという結論です。基準値が高ければ、それだけ合格点に達しない人たちが多くなるのは必然であつて、自分の周囲にいるみなさんであっても、次々に脱落をしていくわけです。

どこを見てもアホだらけ、上を見ても、下を見ても、横を見ても、後ろを振り向いてもアホだらけになれば、人生というか、人間が嫌になります。そんな世界にいる自分も嫌になりますね。

それで私は考えたわけです。

こりゃ、自分が間違っているのではないのかと。

「人間の平均値」というものは、もっと基準値が低いものではないのかと、そう考える習慣を付けたわけです。たしかに、大多数の人たちは、自分か自分の周囲の家族や仲間のことだけを中心に考えて生きているように見えます。見え方は同じです。

私は、まったくの赤の他人のために生きることができるような人たちや、自分を犠牲にできるような人たち・・・その志（こころざし）や心意気ですかね。そうした人にしか、魅力を感じませんし、それが人間としての平均値だと考えていたのです。しかし、どうもそれは違うのではないのかと考えるようになった、ということです。

ある意味で、人間全般への私の評価は下がっています。

しかし、「人間の平均値」というものを錯覚していたならば、余計にでも、そうした人たちを小馬鹿にしたり、責めたり、見下したり、裁いたりするような感情が大きくなるばかりで、相手にとっても不幸の種を撒くことになるでしょうし、自分にとってもよいことはありません。

### パチンコ攻略業界に新しい風を（13） 「サムロー事件から学んだこと」

参考事例になるのか微妙ではありますが、そう、昔あった、サムロー事件についても、私の考え方が変わりましたね。今では懐かしい話です。

ん～ それを思い出したときに、そう、他人の考え方やノウハウについて、まるで自分で考え出したというような姿勢で、あろうことか、他人が書いた文章の、そのままのコピーを販売するという非常識なことを平気でしていましたからね。

それだけならまだしも・・・ ついでですから、参考資料でも。

『インフォカート・カスタマーサポートの〇本です。いつもインフォカートをご愛顧下さりまして、誠にありがとうございます。』

簡単な説明をしたら、私が書いたテキストなどの普及や販売の協力をするなら、売り上げの半分以上をあげますよって約束をしていたのですね。ええ、それが最初の頃は、たしかに、50%対50%になっていました。それが数ヶ月くらいしたときですかね。私の身近な人が、どうにも売り上げの数字がおかしいと不審がるので、本人に尋ねたわけです。

本人さん 「コウさん、まったくわかりません。調べてみます。」

自信満々で自分は知らないと言いますし、信用をしていたわけですが、いつまで待っても、何の返事もありませんでしたので、私が直接、販売代理会社に聞いたところ・・・

お問い合わせいただいた件について、お調べいたしましたところ、販売者である小〇 正太郎様がアフィリエイト報酬をご変更されていらっしゃいました。

アフィリエイト報酬は、購入者様が銀行振込でお申込みをした場合、お申込み時のアフィリエイト報酬が、銀行振込完了時に林様のアフィリエイト報酬として反映されることになっております。』

はい、1%対99%くらいになっていました。本人さんの取り分が99%に。

ビックリしましたね。それで、この件を弁護士さんに相談をしたら、立派な背任行為や詐欺になると言われました。それだもんで、「いいかげんに白状をして、反省をしましょう！」と何度も伝えました。そう、今は亡き素人さんなどは、何度も何度も本人に電話をされたり、私と一緒に、本人さんのアパートまで行ってくれたりしましたよ。大阪の淀川警察署もそうでしたけど。

そのときの私の心境としては、「こいつは本格的なアホだなと」・・・ 証拠だらけの著作権の侵害行為や、横領行為、背任行為の警告文や、告訴準備中の内容証明まで送っても、完全に拒否をするくらいのアホさかげんでしたので、こりゃ、公に叩かないといつまでも調子に乗って、仮に相手を変えても、似たような悪事を繰り返す人間だろうと思ったわけです。

私の身近な人の中には、話せばわかるって言う人もありましたけどね。

しかし、私は彼との電話での会話の時点で、そうは思いませんでした。完全に無理だと思いましたね。話をしたくらいで反省をしたり、横領をした金を返したりするような人ではないと直感でわかりました。

たぶん、その当時、話せばわかるって言っていた人たちも、今の本人さんを見たらようやく理解をされるくらいでしょうか。同じことです。相手を変えて、同じようなことを、何度も何度も繰り返しているかのようです。そう、昨年からのあれも酷かったようです。私のところにも、けっこうな件数の被害届のようなお便りが来ましたからね。

それで、本人さんもさすがに反撃をしないと認めることになるかと焦ったのでしょうか。その方法も巧妙でしたけど、例えば、自分の身近なところや、ブログなどでは私の避難を少なくして、第三者を偽装し、他の人たちが私を非難しているように思わせるような工作をしていたわけです。自分の仲間が多くなれば、どちらの言い分が正しいのかの判断も難しくなりますからね。そうした理由から、相当な嫌がらせをしていたと思います。今でもしているかもですが。

これも、このコラムの冒頭で書きましたところの、「天秤の原理」のようなものでしょうか。

他人の評価を下げることで、自分の評価が上がる・・・いや、上がればよいのでしょうか、大抵の場合は、バレますので、結果的に、自分の評価を余計に下げることになります。彼も正直なところがあって、私との電話のときに、「あれは、仕返しだあ!!」と、そう、自分の自作自演であると私に白状をしなければ、今でもバレることがなかったかもしれません。

まあ、他にも、私が知っている彼の人間性や、悪事のような話は多いのですが、長くなりますので、そろそろ、まとめます。

さて、「人間の平均値」の話について、私の基準値が下がったことによるご利益のようなものですが、以前の私であれば、「普通の人間の感覚として、もう、消えていなくなったほうがよいよ。」で、終わる話です。そして、それでも消えていなくなるのであれば、そんなに往生際が悪いのであれば、「私がとことん追い詰めて反省をさせますよ。」って流れになったと思います。実際に、ギリギリまでは追い詰めましたからね。

今でこそ書けることですが、実は、彼もヤバかったのです。私が抑えたほうなのです。ただ、彼のような人間のためには、とことん追及をして差し上げるほうがよかったのかもしれないと、今でも思うところがあります。

それで、話を戻しまして、今の私が彼に伝えたいことがあるとしたら・・・

「正太郎さん、あなた、欲しくて欲しくて、しょうがなかったのですね。他人のものであっても、どうしても欲しくてしょうがなかったので、せっかくできた友達や友人を裏切ってまで、それを求めようとしたのですね。

昔、あなたが言っていたような、同世代の人たちの収入は多いのに、なんで自分は収入が少ないのかと・・・私はそのときには返事をしませんでした。簡単に言えば、あなたがそれだけの仕事をしていないからです。それだけ、世の中の役に立っていないからです。

そして、金を稼ぐことができるなら、どんなに汚いことをしても認められると思ったら大間違いなのです。他人に迷惑をかけたことは、必ず、自分に返ってきます。そのときでもよいので、反省をするということ、どうか覚えて欲しいのです。」

別に嫌味な表現でもなく、見下した表現でもないとは思いますが、私が以前に思っていたような・・・「普通の人間の感覚として、もう、消えていなくなったほうがよいよ。」「私がとことん追い詰めて反省をさせますよ。」というような表現よりも、いくらかは、マシになっていると思われませんかでしょうか。

やはり、人間は、「オール・オア・ナッシング」で見たところで、誰のためにもならないと、私も考えるようになりつつあります。

たぶん、そうですね。白か黒、有か無、善か悪、正か邪、有罪か無罪・・・あまりにも人間をひとつの「枠」や「型」に閉じ込めて、それを当然のように決め付けてしまいますと、そのことで、一時的な調和を守れることがあったとしても、伸び伸びとした進歩への方向性や可能性が弱くなるようにも考えるのです。

物事によっては、どこかで区切りを付けたほうがよいことがあるのは認めますが、それは、正しい線引きや境界線の話ではなくて、智慧の部分だと思うのです。人間が、調和を守ろうとするときに生まれる智慧のようなものでしょうか。

例えば、刑務所でもそうだと私は思いますよ。もし、昔の階級制度のような、生まれながらの善人階級や悪人階級という境界線があったとしたら、悪人階級のみなさんは、たぶん、死ぬまで刑務所で暮らすこととなります。いつまでも、そこから出られませんね。

しかし、現実には、刑期を終えて、刑務所から普通に出所をするみなさんもあるわけです。別に生まれながらの何かの階級が変わったわけでもないでしょう。刑務所から出所をするということは、そこにいる必要性がなくなったということですね。たぶん、何の罪も犯していない人は、住みたいと思っても刑務所には住めません。

そう、一時的な線引きや、一時的な境界線は、「物事の本質」ではない、ということです。

病院もそうですね。普通、病院は、何かの病気の人たちが通うところです。別に、健康な人が通ってもよさそうですが、何か違うよねって感覚があります。病気になったら、病院に通って治療をして、お陰さまで健康になりましたとなれば、通院をしなくなるだけのことです。

これも、一時的な線引きや、一時的な境界線だと思います。

ん～ これは逆説的な考え方もしれませんけど、もし、この世の中に病院が一件もなくなったら、逆に、健康な人、野生的に頑丈な人が増えるような気もしますよね。だって、原始時代には病院の概念がなかったこともあったでしょうし、そうした野人と現代人とを比較したときに、誰が考えても、野人のほうが元気そうだと想像をするでしょう。

そう考えたときに、これだけデパートやコンビニのように病院が建ち並んでいる現代社会よりも、病院の概念すらなかったような原始時代のほうが、よほど「人間の本質」に近い生活環境だったような気もするのです。いや、病院は必要だと思いますよ。もちろん、必要だとは思いますが、現実にあるわけですが、そうした実体としてリアルに見えることでも、「物事の本質」ではないこともあるかもしれない、というアンチテーゼなのです。

先ほどの刑務所の話もそうですね。本当は必要がない場所なのかもしれません。しかし、人数の法則ではないですが、どうしても、間違いを犯す人たちがいますので、ひとつの智慧として、一時的な線引きや、境界線が必要になる、ということだと考えます。

さて、ちょっと長くなりまして、何のコラムなのかわかりにくくなりました。いいかげんにまとめるつもりなのですが、こうした文章を書いている最中に、いつまでも、頭の中からポコポコと話題が飛び出してくるのですね。私の悪い癖です。

そうしたことで、やや強引にまとめに入ります。

つまり、人間は、平均的にアホな存在だと、私は思うわけです。もちろん、私の持論ですし、責任は取れませんが。それで、他人に対しての過剰な期待もそうですけど、〇〇をしなければならない存在、〇〇でなければならない存在、というような決め付けはよくないと考えたときに、そこに「自由」というものが見え隠れします。

例えば、何でもよいのですが、何かに取り組んでいる人たちがいて、一定の状況や成績までは頑張れたとします。そんなときに、その人の師匠や先生や上司などから、普通、2方向からの声のかけかたなり、アドバイスなりがあると思うのです。

そうですね・・・ 何かのパチンコの塾があったとします。そこに生徒さんが100人くらいいて、今月の成績でもよいですが、そう、今月、99人の生徒さんは10万円くらい楽に勝っているのだが、1人だけ、3万円しか勝てませんでしたと。そんなときに、その1人の生徒さんに対しての対応のような話です。

(A) こんなこともできんのか、このバカチンが！！

(B) ありや、ここまでできるようになったのね！！

表現の違いですけどね。このように、100人の中で、1人だけの痛そうな生徒さんに声をかけるときに、もう、本当に長い目で見たときに、(A) & (B) で選択をするならば、どちらが、その生徒さんためになるのか、という観点です。

一般的には、とても難しい議論かもしれません。

そうです。叱ったほうが気合の入る生徒さんもあるでしょうし、誉めたほうが伸びる生徒さんもあるからですね。私は、スパルタ式教育を否定しませんよ。人によっては、どうしても必要なこともあるかと考えるからです。頭を叩いてでも教えなければ、その人が不幸になる、人生に失敗をする、他人に迷惑をかけるようになる・・・ そうしたときに、鬼教官も必要だと思います。

ただ、先ほどは、「一般的には、とても難しい議論かもしれない。」と書きましたけどね。ある意味で、簡単なことなのです。

そう、「相手」しだい、ということです。その「相手の目標」しだい、ということです。

前述の、100人くらいの生徒さんがいて、99人の生徒さんは優秀なのに、1人だけが痛い成績であったと・・・ よく考えてみたらですよ、別に、その痛そうな1人の生徒さんには、別に関係のない話かもしれません。その人も3万円は勝っているわけで、その人が満足をしているなら、別に怒られる必要もないですし、逆に、誉められる必要もないわけです。

そう、問題にするべきは、「出来の悪い生徒さんがいる」という発想です。

「出来の悪い生徒さんがいる」という発想は、誰かと「比較」をしての話です。そこで、誰かと比較をしているのは、大抵の場合、その塾の師匠や先生の勝手な都合が理由でしょう。そもそも、どの生徒さんでも、誰かと比較をされる必要があるのかも謎になりますよね。

韓国で騒動をしていた受験勉強からの入試試験でもそうです。そう、学習塾であれば、その学習塾のプライドもあるでしょうし、本心で、できるだけ多くの生徒さんにより成績を取って欲しいという思いから、先生や講師のみなさんが、熱心に教えるということもあるでしょう。

しかし、ありえない話だとは思いますが、その入試試験ですよ、受験生のすべてが100点満点であれば、点数での比較は不可能になります。そうなると、面接か、コネか、家柄か、経済状況か、賄賂か・・・他の比較要素で順位を決めることになるのでしょうか。

どちらにしても、何か、妙な感じがしますよね。

たぶん、最終的にでも、「人間の比較」ということは、いつかは限界があるでしょうし、普通の人間には無理なことであると思うのですよ。まるで、今から飲むなら、コーラにするか、ペプシにするかというような感覚で、人間を比較したがる人が多いのは知っています。適材適所という言葉も知っていますし、その意味もわかります。

それでも、やっぱり、自分たちの都合や気分、何かの塾のプライドなどで、人間を比較したらダメだと思えますね。

(A) こんなこともできんのか、このバカチンが！！

(B) ありや、ここまでできるようになったのね！！

そういう意味で、私は、本質的に (B) を選択したいのです。

そう、「相手」しだい、ということです。その「相手の目標」しだい、ということです。

ですから、私の考え方は、本質的に、個人主義ですね。個人にとって必要なこと、個人が目標にすることを第一義として、前述の塾などの話で、どうしても、その何かの塾のプライドや空気、士気、チームワークなどを尊重しなければならないような状況であれば、それに賛同ができる生徒さんのみで構成をしながら、やや、全体主義的な目標を掲げることもあるかもしれません。

スポーツの分野でも、個人競技と団体競技とがありますので、やはり、そこに参画をするみなさんの目標しだいになるのだと思うのです。私が個人競技のほうが好きだというのは無関係に、それでも、基本は個人だと思えますね。優れた個人選手の集合体が、より優れた団体やチームになると考えますから。

それは、国家レベルの話でも同じことが言えるかもです。優れた国民が増えることによって、その国全体が発展や繁栄をしていくという道筋が正しいように思います。中国のような全体主義国家ではなくてですね。まあ、話の規模が違いすぎますので、ようわかりませんが。

ちなみに、今のカオスブレイクは、どうにも放任主義のような噂もございまして、もう少し、締めたほうがよいとも考えているところです。正直、思いますよ。誉めるだけでみなさんが、メキメキと上達をされるのなら、一日中でも誉めていたい。もう、アメとムチという言葉しか思いつきませんけど。必要なら・・・ 私がムチで打たれましょう (涙)

さあ、いつになれば終わるのでしょうか。

途中で問題提起をしておきながら、話が飛んでいったままの内容もあるかと思いますが、これこそが、マスター・ワールドですので諦めて下さい。もうね、ここまで長くなりますと、自分でもどこに話を戻せばよいのかわからなくなるのです。

『つまり、人間は、平均的にアホな存在だと、私は思うわけです。もちろん、私の持論ですし、責任は取れませんが。それで、他人に対しての過剰な期待もそうけど、〇〇をしなければならない存在、〇〇でなければならない存在、というような決め付けはよくないと考えたときに、そこに「自由」というものが見え隠れします。』

そうですね。とりあえず、ここに戻りまして・・・

私が世の中の人たちを見ていて感じるのは、どうも、窮屈な考え方や生き方をしていると、成功や幸福というものから、どんどん離れて行くようなイメージがあります。「他人に対しての過剰な期待」をしたがる人たちもそうで、大抵は、残念な思いをすることになりますよね。

それが家庭の教育であれば、子供のために勉強を無理強いしているかのように見えて、その実、親の都合や体裁、将来的に親が困りたくないの、子供に勉強の無理強いをしているようなケースもあるでしょう。子供のためなのか、親のためなのか、ようわからんような話です。

うちの親戚でもあったような気がします。小さい頃はよく遊んでいた従兄弟でしたけどね。私の叔父と叔母が、その息子のケツを叩くように車体関係の設計の資格を取らせたようです。本人さんの素質や努力の甲斐があったのでしょう。けっこうな競争率だったようですが、大手の自動車会社の設計部に入社ができたようです。

しかし、それから、一年くらいしたら、床屋さんに転職をしていました。

そのときに、家族内でも一悶着があったようですけどね。本人さんの意見は、「社交的な仕事をしたい。」ということだったらしいです。元々、精密な仕事ができる性格だったのでしょうか。それが、埃も立たないような研究室などの、人の出入りや出会いが少ない空間であるのか、若い人たちや、ギャルのみなさんで賑わうような空間であるのかの違いだったのかもです。

「社交的な空間で、技術的な仕事をしたかった。」というのが、本人さんの希望や天職のようなものであったのを、その両親が見抜けなかった、ということかもしれませんね。自分の両親が人生設計というレールを敷いてくれることはありがたいことでもあるのですが、あまりにもガチガチに「枠」や「型」にはめ込むような人生設計は、やはり、どこか窮屈なところもあり、何らかの反作用が起こる可能性があると思います。

受け止め方次第では、「この世の中には無駄なことは何もない。」と思いますし、人生で遠回りのようなことがあったとしても、それらが何らかの知識や経験になることがあります。それに、そうした知識や経験が自分のためにならなくても、他人の役に立つこともあります。

たしかに、「蛇足」や、「無用の長物」というような言葉もありますけどね。それでも、自分の努力や他人からの善意、家族や両親からの協力、そうしたものを本当に反故にしてしまうような考え方や生き方は寂しいと思うのです。そう、それは、とても寂しいことです。

ですから、「すべての物事は無駄にはならない。」と、そうした言葉や文章、気分だけで終わってしまうのではなく、それだけで納得をするのではなく、そう、「すべての物事を無駄にはしない。」という、積極的な考え方や生き方が大事なのだと思うのです。

たとえ、今は、誰かが敷いてくれたレール、誰かに敷かれたレールの上を、嫌々ながらにでも歩いているとしても、今、自分がそこにいることは現実であり、必ず、何かしらの意味があると信じて、今、自分にできる最大の努力をすればよいのです。そう、努力をする癖を付けるのです。

えっ、環境が変われば自分も変わるし、幸せになるかも？ 自由になるかも？

ありえますけどね。ただ、そうした考え方は、甘いと思います。どこかで努力ができない人が、他のどこかで努力ができるかと考えたときに、そんなに簡単なものではないですね。何についてもやる気がない人は、文字の通りに、何をやるにしてもやる気はないのです。環境が変われば、相手が変われば、給料が上がれば・・・ そんなことを言い続けて、本当に素晴らしく成長をし、誰が見ても、見違えるほどに変わった人は、あまりいないと思います。

環境は与えられるものです。相手も与えられるものです。給料もそうですね。

ある意味で、世の中は合理的にできています。「普通の人」よりも、そう、「人間の平均値」よりも遥かに、仕事ができ、能力が高く、責任感が強く、人徳があるような人がいたときに、普通、そんな人に対して、周囲の人たちは粗末な扱いをできなくなるのです。自分では普通だと思っ

ていても、いつしか一目を置かれるようになるのですね。  
ですから、今、自分がどのような環境にあらうと、どのような扱いを受けていようと、どのような試練を耐えていようと、どのような苦しみの中にあらうと、今、そこで自分にできる努力を、コツコツと続ける癖を付けるのです。何かの環境や他人に対して、愚痴や不平不満を言っている暇があれば、自分にできる努力をすればよいのです。

それを逆に考えてみたときに、そうした環境は、悪ければ悪いほどによいですね。自分は苦境でも努力ができた・・・ 大きな財産になります。大きな自信になります。安易な環境での努力と、苦しい環境、厳しい環境での努力とを比較したときに、普通に考えて、その重みが違いますし、その凄みが違います。タイガーマスクは虎の穴で鍛えられたのです。仮面ライダーは改造手術をされて生き返ったのです。ホルコンマスターは超魔界ホールから生まれたのです。

超魔界ホールから生まれたゴミのような人間が、こうやって、人様に正しい考え方や生き方のヒントになるような話を伝えようとするところまで進歩をしてきたのです。とりとめのない文章でも、わけのわからないような文章でも、そのどこかに、その一部にでも、人様のお役に立てる可能性があるような文章を書けるようになったのです。

ある意味で、パチンコホールは、「人間の本質の縮図」のようなものですからね。幸福や不幸の見取り図のようなものです。人間の喜怒哀楽、諸行無常、貪り・怒り・愚かさ・・・ てんこ盛りな世界です。そう、どのような環境からでも、人間は、学ぼうと思えば学べるものなのです。

『ですから、「すべての物事は無駄にはならない。」と、そうした言葉や文章、気分だけで終わってしまうのではなく、それだけで納得をするのではなく、そう、「すべての物事を無駄にはしない。」という、積極的な考え方や生き方が大事なのだと思うのです。』

ゲロを吐きそうな環境であったとして、私は無駄にしませんでしたよ。

そうしたことで、どのような環境であったとしても、自分なりに努力をしようとする意思が、言葉を変えれば、「根性」や「信念」ですね。そうした「根性」や「信念」が、次の環境へと変わったときにも大きく役に立ってくるのです。

そう、そういう意味でも、「すべての物事は無駄にはならない。」ですし、「すべての物事を無駄にはしない。」という段階まで、自分のものにできれば、人間は、自然に強くなりますし、自然と道も開けてくると思うのです。

そもそも・・・ 一生、同じ仕事、同じ環境、同じ状態で人生を終える人のほうが少ないと思いますから、人生や運命の正しい選択や分岐ということがあったとしても、前述の話のように、自分なりの努力をしながら「時を耐える」ということも大事だと思います。私も忍耐力は弱いほうですけどね。それでも、若い頃に比べたら、ずいぶんと我慢ができるようになりました。

どうにもならないことは、どうにもならない。

昔は、それでもどうにかしようともがいている自分があったのですが、結局は、無理にでも、ジタバタともがくことになりますので、その反作用で余計に苦しくなるわけです。そう、ウサギやイノシシなどの動物を捕らえるときの罠のようなものでしょうか。田舎に住んでいても実際に見たことはありませんけど、あの鋭い入れ歯みたいな形の拷問道具のようなものです。

そうした罠にはまったときに、大抵の場合、動けば動くほどに、もがけばもがくほどに、あの歯のようなものが足などに食い込んで余計に苦しむことになります。 たぶん・・・ かなり痛いと思います。人によっては、泣くでしょう。私なら耐えられません。

そうなのです。誰しも、人生の過程においては、そうした残酷な罠のようなものにはまってしまう時期があります。自分は何にも悪いことはしていないのに、ただ、お天気がよかったのもあり、野原で散歩をしていただけなのに、何でこんなに酷いことになるのかってこともあります。

そこで、ウサギやイノシシなどであれば、普通、もがきますね。痛いですから。そこから脱出をしたいですから。命懸けで逃げ出そうとします。自分の足を食いちぎってでも逃げ出すこともあるらしいです。

では、私たち人間であればどうか？

そうです。本質的には、似たようなことをしている人たちが、けっこうあるのですよ。それは顔面でもよいのですが、もう、血管がプツンするのではないかというくらいに、もがきまくっている・・・ 暴れまくっている・・・ ような。

そうそう、よく気が付かれましたね。

はい、それは、パチンコホールでも、よく見かける風景なのです。そのみなさんが、何かの罠にはまっているかの自覚があるかどうか、その罠のある場所が、野原か街中なのかどうかの違いだけかもしれません。ですから、本質的には同じことなのですね。

罠にはまってもがくので、暴れるので、余計にその傷口を広げている、ということです。そこで必要になることが、「冷静な対応」ということです。とりあえず、落ち着く、その痛みを耐える、助けを呼ぶ・・・ いろいろと対処方法はあるでしょうが、とりあえず、下手には動かない、暴れない、ジタバタとしない、ということが大事だと思います。

今月号の「迷えるパチンカーへの処方箋集」でも、パチンコにおける「冷静さ」についての記事を書く予定ですので、気力のあるみなさんは読まれて頂きたいです。

さて、また長くなりそうですのであれですが、実は、私、中学校を卒業した頃に、看護学校の入試試験を受けて合格をしたことがあります。今思えば、その看護学校には、若いお姉さんたちがウジャウジャといましたので、私の奥さんになってくれる人もいたかもしれません。

ええ、そうですね。もし、私がその看護学校に通っていて、マジメに働いていたらですよ、たぶん、ホルコンマスターコウというような奇妙な人間は存在をしていなかったと思います。

そうなれば、私は、今頃・・・ 田舎のどこかの小さな病院にでも勤務をして、インターネットさえしていなかったかもしれません。人生とは不思議なものです。何がどう転んで変化をし、まったく違うものになるのかわかりませんね。

たぶん、人生には時折、「大きな運命の分岐点」のようなものがあるのだと考えます。

こんな私にも、よく思い出したときに、もうひとつの分岐点があったかもしれません。あれは小学生の頃でしたけど、一度だけ、どこかのお寺さんの養子になるような話がありました。出家ではないでしょうが、そのお寺さんの子供になるような話です。

自分で決めてよいという話でしたので、きっぱりと断りましたけどね。それを何で断ったのかよくわかりませんが、何か違うような気がしたのを覚えています。それでも、何かしら後ろ髪を引かれるような気持ちになったのも覚えています。

ええ、そうですね。私がどこかのお寺のお坊さんにでもなっていたら、同じように、ホルコンマスターコウというような奇妙な人間は存在をしていなかったでしょう。

うん。人生で死にかけたことも何度もありますしね。嘘のような本当の話で、99%、もう、生きることが無理だと覚悟を決めたこともありました。

今、私が生きていて、みなさんに対して偉そうに何かの講釈を垂れるのも、パチンコの話でみなさんを惑わせるのも、そう、残り1%の奇跡からはじまったようなものなのです。人生とは、本当に不思議なものです。何がどのような影響を受けて、或いは、影響を与えて、まったく性質の違うものに変化をするのか、それが読めないこともありますからね。

テレビのドキュメント番組や、どなたかの人生の体験談や経験談でも聞きますように、誰かのたった一言で、その人の運命が大きく変わったということもあります。誰かのたった一言で、その一言を真剣に考え、考え抜いて自分のものとし、巨万の富を築けた人もありますし、逆に、誰かのたった一言により、地獄のどん底に突き落とされたような人もあるでしょう。

ただ、そこで考えるべきは、まったく同じ誰かのたった一言でも、それを聞いた人によっては、その後の結果が変わるということです。

例えば、どこかの職場でもよいのですが、「お前、本当にバカだなっ！」って言われたような人があったときに、それが癪に触って、仕事のやる気を無くして、その反抗のようなもので以前よりも手抜き仕事をするようになる人もあれば、「自分がバカなら努力をして、バカと言われないうしよう！」と考えると、自分なりに刻苦勉励をして、その努力を続けて、結果的に、その会社の社長になったような人もあるわけです。

そう考えていきますと、人生には「大きな運命の分岐点や選択肢」があったとしても、結局は、その機会を自分が掴めるかどうかって話になることが多いようにも思うわけです。

それが、たとえ、誰かが敷いてくれたレール、誰かに敷かれたレールの上を歩いているような人生だとしても、そう、パチンコ台の「どうせ当たらないよね、STの100回転(萎)」のような感覚で適当に消化をしているのか、「いやいや、技術介入をしてでも、もう1回は当たらせる！」って気迫で取り組んでいるのかという、そうした姿勢の違いです。

もちろん、その人たちの自由ですよ。どのような考え方をしようと、そのような生き方をしようと、その人たちの自由ですし、勝手ですね。

しかし、自由ということは、選択もできる、ということです。間違いありません。

『ですから、「すべての物事は無駄にはならない。」と、そうした言葉や文章、気分だけで終わってしまうのではなく、それだけで納得をするのではなく、そう、「すべての物事を無駄にはしない。」という、積極的な考え方や生き方が大事なのだと思うのです。』

そして何度も書きますが、私は、このような考え方をオススメしたいのです。

せつかくですので、もう少し踏み込んだ話を書いておきます。悟性が優れたみなさんであれば、薄々は気が付かれていますと思いますけど・・・ 「すべての物事を無駄にはしない。」という考え方や信念の根っ子にあるものは、「感謝ができる」ということなのです。「感謝ができる人生」ということなのです。「受け入れる」ということですからね。

「感謝」の対極にあるものは、「不平」や「不満」でしょう。

普通、「不平」や「不満」がある物事、自分にとって許せないような相手に対しては、それを「受け入れる」ということが難しくなります。やや瞬間的な要素も含む話かもしれませんが、同じ対象に対しては、「排他性」の強い考え方と、「親和性」の強い考え方は同居ができません。

単純に、同じ相手に対して「感謝の気持ち」と「不平や不満の感情」を、ほぼ同時には表現をできませんからね。感謝をしながら呪うとか・・・ 無理ですね。

例えば、「私の父親は、いつでも私のことを理解してくれていますし、愛してくれています。こんなによい父親はいないと思います。私も大好きですし、とても感謝をしています。ですから、先日、日曜大工をするからと、そんな仲がよい父親と一緒に買いに行ったときに見つけた、ちょっと大きめのハンマーで殴り殺しました。」っていうような話は、あまり聞かないと思います。

或いは、「きゃーーーーー！！ 交際5年目にして、ようやく彼がプロポーズをしてくれたんです♥ もう、幸せで幸せでたまらなくて気絶しそうです！ もちろん、私のお返事はOKよん♥ それで昨夜、あんまり幸せだったから、彼が寝ているときに枕で窒息をさせて、手足と頭をきれいに切断してホルマリンに漬けたのよ。」ってな話も、マンガの世界ではありそうですが、現実には、あまりなさそうです。

そりゃ、物事には、原則と例外があるでしょうから、海外ドラマの「ハンニバル」のレクター博士のような、人間を殺して食べたくなる人も稀にはいそうですね。そうなると、正常な人と異常な人として境界線を引きたくもなりますけれど、それも、「他人との調和 < 自分の欲望」という偏りが激しいだけであって、魂が未熟なだけだと思うわけです。

そうしたことで、このテーマについて、少し整理をしてみます。

『受け止め方しだいでは、「この世の中には無駄なことは何もない。」と申しますし、人生で遠回りのようなことがあったとしても、それらが何らかの知識や経験になることがあります。』という前提で考えてみるならば・・・

『ですから、「すべての物事は無駄にはならない。」と、そうした言葉や文章、気分だけで終わってしまうのではなく、それだけで納得をするのではなく、そう、「すべての物事を無駄にはしない。」という、積極的な考え方や生き方が大事なのだと思うのです。』

このような捉え方や考え方が理想だと思いますよ。本当に。

そして・・・ 『たとえ、今は、誰かが敷いてくれたレール、誰かに敷かれたレールの上を、嫌々ながらも歩いているとしても、今、自分がそこにいることは現実であり、必ず、何かしらの意味があると信じて、今、自分にできる最大の努力をすればよいのです。そう、努力をする癖を付けるのです。』

『何かの環境や他人に対して、愚痴や不平不満を言っている暇があれば、自分にできる努力をすればよいのです。そうした「根性」や「信念」が、次の環境へと変わったときにも大きく役に立ってくるのです。』

そうそう、ここがポイントでしょうね。それが、「どこでも努力ができる人」であり、「どこでも努力ができるようになる人」を目指すべきです。

次に、「どうにもならないことは、どうにもならない。」という話ですけど、一般的には、それでもどうにかなるようなケースが多いかとは思いますが。稀に、本当にどうにもならない状況というものがありますけどね。そうなると、やはり、どうにもならないわけですから、そうしたときに、「時を耐える」ということが必要になると思います。

人生には、忍耐力の訓練のような時期があります。誰しもそうですよ。

『そうした罫にはまったときに、大抵の場合、動けば動くほどに、もがけばもがくほどに、あの歯のようなものが足などに食い込んで余計に苦しむことになります。』

そこで、耐えることができない人たちは、余計に苦しむことになりやすいですから、それでも抵抗をするべきか、今は耐えるべきかという正しい判断や選択をしなければなりませんね。

『たぶん、人生には時折、「大きな運命の分岐点」のようなものがあるのだと考えます。ただ、ここで考えるべきは、まったく同じ誰かのたった一言でも、それを聞いた人によっては、その後の結果が変わるということです。』

そう、よりよい運命の転機ということがあったとしても、それを掴めるかどうかは、その人しだいである、という話ですね。「同じ川の水を飲んでも、牛は乳をつくり、蛇は毒をつくる。」という言葉があります。その通りです。結局、それも人間の自由だということです。

『しかし、自由ということは、選択もできる、ということです。間違いありません。』

人間に与えられた最大の自由は、「選択の自由」なのです。そういうことですね。

## 『「感謝」の対極にあるものは、「不平」や「不満」でしょう。』

ここからもポイントになりそうです。私の得意分野でもあります。もうね、100%、断言ができることを書きますよ。

そう、パチンコの話でもよいです。例えば、やや長いスパンになりますが、不平や不満を言い続けて、パチンコで大勝利を収めた人など誰一人としていないと思います。誰しもパチンコで勝つことはあります。それでも、その勝っているときというのは、えてして、不平や不満が薄いときだと思えますね。

ここもさらにポイントになるのですが・・・ 「別に感謝をしていなくてもパチンコで勝てることもあるでしょ？」 ってご意見もあるかと思えます。

- (1) 感謝 < 不平や不満
- (2) 感謝 > 不平や不満
- (3) 感謝 = 不平や不満

こんな構図でしょうか。大きく分けたら3種類になります。もう、これを見ただけでわかりますでしょ。(3)は、普通ということですね。ですから、やや長いスパンで、パチンコで勝利ができるケースは、(2)か(3)です。

不平や不満が強いということは、それで満足をしていない状況であるわけですから、分不相応の結果や報酬を求めている可能性が高くなるわけです。

「他のお客さんの台はあんなに爆発をしているのに」・・・ 「いやいや、あなたの実力の問題を無視しても、よりよい結果になることは、あまりないのですよ。」ということであり、実力が高い人はコンスタントに勝て、実力が低い人はコンスタントに負けるというだけの話です。

それを履き違えてしまって、「他人との比較」から「他人への嫉妬」に変わってきますと、そう、「貪りの心」に通じてしまうこともあるということなのです。自分の実力では得られないものを「欲しがっている」ということですからね。

まともな稼働率や還元率があるパチンコホールであれば、毎日のように、ドル箱を山積みになっているお客さんたちがいます。そう、他のお客さんたちを羨ましがらせるような出玉、射幸心を煽りまくっているような出玉・・・ なぜ、そうした出玉があるのか？

はい、それが、パチンコホールの仕事のひとつだからです。だって、大抵の場合は、ホール店員さんがスタンバイをしているわけでしょ。お客さんが連チャンをしたときに、ドル箱を持って来ることや、そうしたドル箱の交換をするための。お客さんの誰かが、大勝ちでもするのが前提なのですよ。・・・ それは何のために？

はい、コマーシャルですよ。見せ台ですね。そうしたコマーシャルや見せ台の演出がなければ、負けて帰る予定の他のお客さんたちの射幸心や、購買意欲を煽れないのです。ですから、その割合はパチンコホールによって違ってても、誰かは、勝てるようになっているわけです。そう、誰かは、勝てるようになっているわけですが、それを自分にもそうした資格や権利があると考えてしまう、錯覚をしてしまうと間違えるわけですね。

たぶん、大事なところですから何度でも書きますね。

「誰かは、勝てるようになっている。」が、自分の勝ち負けについては、自分の実力しだいということなのです。パチンコにおいて、実力が高い人はコンスタントに勝て、実力が低い人はコンスタントに負けるというだけの話です。

この現実を受け入れなければなりません。

パチンコは、「雨乞いの儀式」ではありませんからね。日本人のみなさんであれば、そう、「雨」が降っている景色を見たことがあると思います。はい、「雨」を見たことがない人を探すことのほうが大変かもしれませんがね。それでも、同じ日本でも、時代や時期、地域によっては降水量が少なくなることもあったでしょうし、今でもあるかもです。

「雨乞いの儀式」という言葉があるくらいですから。

もう、おわかりだと思いますけど・・・ 「どこかでは雨が降っている」のです。この地球全体を考えたときに、全世界のどこでも、まったく、一滴も「雨」が降らなかった日は、たぶん、ないと思いますよ。どこかの国で、どこかの地域で、その差はあれ、「雨」は降るものなのです。

それで、パチンコは、「誰かは、勝てるようになっている」わけですが、それを自分にもそうした資格や権利があると考えてしまう、錯覚をしてしまうということは、前述の、日照りの日に「雨」を待っているようなものなのです。

自分が住んでいる地域にも「雨」が降るのだと、待っていてれば、いつかは雨が降るのだと、そして、それでも、「雨」が降らないと、人々は願うようになります。祈るようになります。拝むようになります。そう、「雨乞いの儀式」をしているようなものなのです。

私は、神秘思想や神秘主義については肯定をするほうですから、「雨乞いの儀式」については迷信であるとは断言もしませんし、否定もしません。場合によっては、「あり」だと考えるところもありますけどね・・・ それでも、不確定要素が強い話のようにも考えるわけです。

普通に考えて、願ったり、祈ったり、拝んだりしたところで、パチンコは当たりませんし、「雨乞いの儀式」をするような気持ちでパチンコをしていますと、たぶん、早めに破産をします。もし、そんな姿勢でパチンコをしていて大量に降るものがあるとしたら、それは、自分の涙くらいなものでしょう。

そうしたことで、現実には現実として、重く受け止めて、勘違いや錯覚をしないということが大切だと思うのですよ。

- (1) 感謝 < 不平や不満
- (2) 感謝 > 不平や不満
- (3) 感謝 = 不平や不満

別に、みなさんがよい人間になるために、このような話をしているわけでもないのです。『やや長いスパンになりますが、不平や不満を言い続けて、パチンコで大勝利を収めた人など誰一人としていないと思います。』・・・ だから、なのですね。

そして、これらの話は、みなさんにとっても、「好機」であるのです。パチンコ台の「好機」という演出ほど信用ができない言葉も珍しいでしょうけど、本来の「好機」という概念は、もう少しでもありがたいものなのです。ワクワクするものなのです。

まあ、私の気力があれば、後でこの話の続きを書きましょう。

『悟性が優れたみなさんであれば、薄々は気が付かれていますと思いますけど・・・ 「すべての物事を無駄にはしない。」という考え方や信念の根っ子にあるものは、「感謝ができる」ということなのです。「感謝ができる人生」ということなのです。「受け入れる」ということですからね。』

さて、ちょっと戻って、ここもポイントになりますね。ちなみに、私がボケ老人のように何度も繰り返してお伝えをしたがる文章や内容は、その大部分が、私の「守護霊」からのメッセージになります。ただ、守護霊といいましても、みんながみんな偉いわけでもありませんし、その専門分野や興味・関心も違います。

それで、私の魂の家系は、「人間の心の闇のメカニズムについての研究」のような、そう、マニアックですけどね。まあ、結局は、何だかんだと「幸福論」になるのですが、その根っ子を掘り下げて考えることに興味があるのだと思うわけです。

私は浄土真宗の檀家ではありませんけどね。

いつしか、親鸞聖人を尊敬するようになったのには、こうした理由もあります。

悪人と呼ばれたような人たちが、生まれ変わって善人と呼ばれるようになるような・・・ そうした瞬間に立ち会ってみたいという願望がありますね。善人が善人で一生を終えるよりも、悪人が反省をして善人になるような人生劇場のほうが、やはり、ドラマチックに感じるわけです。別に、一度は悪人と呼ばれるようになりましようとは思いませんが。

それで、関連がある話として、仏教的には、「文殊の利剣」であり、「降魔の剣」の獲得を目指しています。根深い悪の癌細胞や勢力に対して、智慧を使って切り開くというイメージです。それが神道系であれば、「禊払い」のようなものでしょうか。そう、キリスト教であれば、「エクソシスト」ですね。自力と他力との配色や配分が違うだけで、その本質は同じですからね。

そうしたことで、潜在的にでも、そんな世界観が好きですから、このようなジャンルの勉強や修行をするために、自分もアホな人間として生きて来たのも含めて、アホな人たちとの出会いが多かったのかと考えることもあります。もし、自分の周囲の人たちや、人生で出会う人たちが、すべて善人で、素晴らしい人たちばかりであれば、学べることも少なくなるでしょうからね。

人間が地上に降りる意味も、そこにあると思います。

まあ、パチンコもそうですよ。悪魔城ドラキュラのようなものでしょう。今世、私がラスボスを倒せるかどうかは微妙ですが、ステージ3くらいまではクリアをしたいです（意味不明）

さて、何でしたっけ？

『悟性が優れたみなさんであれば、薄々は気が付かれていますと思いますけど・・・ 「すべての物事を無駄にはしない。」という考え方や信念の根っ子にあるものは、「感謝ができる」ということなのです。「感謝ができる人生」ということなのです。「受け入れる」ということですからね。』

「受け入れる」・・・ そうそう、どうせなら、パチンコの話で考えましょう。

パチンコはねえ・・・ 勝ったら天国、負けたら地獄、というような区別をされやすい分野ですよ。もちろん、他のギャンブルでもそうかもしれませんし、人間がしていることで、「勝負の要素」があることであれば、大抵は、そう受け止められることが多いでしょう。

ただ、私がみなさんにお伝えしたいことは、「勝ったら正解」で、「負けたら不正解」とは、必ずしもならないということです。或いは、「勝ったら成功」で、「負けたら失敗」とは、言い切れないということでもあります。

なぜなら、例えば、「最初から最後まで、無敗のチャンピオン！」という人があるかもしれませんが、普通は、その途中で、必ず、負けるのです。スポーツの世界でもそうですね。できれば勝ち続けて欲しい人があったとしても、いつかは負けますね。たぶん、どんな分野でも、一生、負けなかったという人はいないでしょう。

では、負けた人は、何で負けたのでしょうか。

そうですね。まず、弱いから負けた、ということがあります。普通に考えてもそうですね。戦った相手よりも自分が弱いので負けたのです。それがパチンコであれば、パチンコホールのシステムと戦ったのだが、自分の実力が弱いので、結果的に、負けて帰ってきた、ということです。

ちなみに、ちょっと厳しい話も書いておきます。

私が認知をしている負け話の中にも、「他のお客さんとの戦いに負けた、勝てる台の競争で負けたのです。」という話を聞くこともありますが、それは、大きな間違いです。勝てそうな台を取れなかったという時点では、まだ座ってもいないし、金も使っていないのしょうから、それは、勝ちでも負けでもない状態ですね。ですから、他のお客さんは、自分の勝ち負けには無関係です。

それで、結果的に負けたのであれば、自分が自分の意思で他の台に座って負けたのです。

まかり間違っても、“人のせい”にしたらダメなのです。他のお客さんも、自分と同じように、どこにでも座ってよいのです。・・・ そうですね、もう少し書きますか。

「あいつが、あの台に座りさえしなければ、自分は勝てたのに。」・・・ 途方もなく、自己中心的な考え方です。しかも、責任転嫁の極みです。

「〇〇が〇〇でなければ自分は勝てたのです。」・・・ 他の誰かなら騙せることもあるでしょうけど、私には通用をしません。例えば、「今日のパチンコで1円でも負けたら、間違いなく切腹をしてもらいますよ！」って状況があったとしたら、他のお客さんがどうのこうのとか、誰一人として言わなくなると思いますよ。自分が勝つためには、それどころじゃないですもん。

床に落ちている玉を拾ってでも生き延びようとするでしょう。

或いは、「あんたの家族を人質に取った。今日、パチンコで負けでもしたら、皆殺しだ！」とか言われた日には、本当に賢い人なら警察などに相談するでしょうけど、それでもパチンコで何とかしようとする人なら、それこそ、命懸けになるでしょう。

それでは、話を戻しまして・・・

『では、負けた人は、何で負けたのでしょうか。』

『そうですね。まず、弱いから負けた、ということがあります。普通に考えてもそうですね。戦った相手よりも自分が弱いので負けたのです。それがパチンコであれば、パチンコホールのシステムと戦ったのだが、自分の実力が弱いので、結果的に、負けて帰ってきた、ということです。』

次は、『たぶん、どんな分野でも、一生、負けなかったという人はいないでしょう。』ということ  
を前提にするならば、負けることにも大きな意味があるように考えることができると、私は思うの  
です。「何かの戦いに負けたからこそ、得ることができることがある。」ということです。

そう、勝ち続けていたら得られないものでも、負けると得られるものがあります。

(1) 自分の弱さを知れること

(2) 負けることのリスク

(3) 勝てることのありがたさ

単純に、このくらいはありそうです。(1)については、極端な話ですけど、完全無敗のチャンピオンであれば、なかなか自分の弱さを教えてくれる相手が少なくなります。誰にも負けなければ  
すからね。しかし、いくらチャンピオンでも、自分のことや自分の弱さを知らないようでは、その  
戦いの人生、何か物足りないよう気もします。

そして、今はチャンピオンかもしれませんが、もし、もっと強い人が出現をしたときに、そのチャンピオンはあっさりとベルトを奪われるかもしれません。自分の弱点の研究が遅れていたことで、その弱点を集中的に攻めてくるような相手が立ちほだかったら、まるでアリコロリのようにコテッと負けるかもしれません。

結局、人は負ければ負けるほどに、自分の弱さを知れるのです。例えば、自分の弱点 (A)、自分の弱点 (B)、自分の弱点 (C)、自分の弱点 (D)、自分の弱点 (E)、自分の弱点 (F)・・・ というように、自分では気が付いていない弱点がたくさんあるのが普通ですから、何かの戦いにおいて負けることよって、まずは、それを知ることができます。そして、次回こそは勝ちたいと思うならば、その弱点を補強するための意思が働くこととなります。

人は、負けた分だけ、強くなれる・・・ 本当ですね。そして、できればそこに、負けた分以上に強くなりたい、という「根性」や「信念」があったほうがよいと思うのです。

次は、(2)についてです。ちょっと話の切り口を変えた内容で、そう、「後の祭り」という言葉があります。ギャンブル専用用語のように使われることが多いかもしれませんね。ぶっちゃけ、「後の祭り」の発生回数や経験回数が多いみなさんとは、「リスク管理が弱い人」ということなのです。「今日、負けたら自分はどうなるか？」という発想になると思います。

例えば、家族や他人からお金を借りてまでパチンコをしているような人たちがいますが、基本的には、その時点でアウトです。「リスク管理」以前の問題です。それが、何かの格闘技の試合であれば、リングにも上がっていないような話なのです。そう、その試合を観戦しに来たお客さんのようなものなのです。ギャラリーのような立場でしかない、私は思いますね。

何度も書きます。自己責任の範囲でパチンコができないような人は、無理です。

試合には出場ができません。まだまだ、腕立て伏せが足りないのです。スクワットが足りないのです。スパーリングが足りないのです。どんなに弱そうな対戦相手がいようと、試合さえ組んでもらえないのです。ギャンブルとは、そういうものだと思えて頂いたほうがよいと思います。

## (2) 負けることのリスク

それでは、話を戻します。「後の祭り」や「リスク管理が弱い人」という話でした。私がいつも言いますように、平均値として、パチンコは、極めて真剣な姿勢で取り組まないことには、大抵の場合、自分たちの生活を圧迫する対象になります。

一般的な会社や職場に勤めているのであれば、そこまで深刻な失敗や失態でも起こさない限り、そこで働いた時間や日数に応じて給料がもらえます。しかし、パチンコの場合、自分が座る場所を30cmでも間違えたら、天国と地獄が分かれてしまうリスクがあるのです。そう、左の台か右の台かという選択をしなければならないことがあります。

普通の会社や職場であれば、平社員の自分が、間違えて課長や部長の椅子に座ってしまっても、それなりに怒られるだけで済むかと思えますけどね。パチンコの場合は、うんこ台に座っても怒られることは少ないでしょうが、それだけ自分が苦しむことになります。左の台を選んで座ったら、50,000円くらい勝って、右の台を選んで座ったら、50,000円くらい負けることも普通にあるわけです。

この話での、その落差は、100,000円になります。左の台か右の台かの2択で、右の台を選んだ人は、何となくでも、100,000円の損失を受けた気持ちになるでしょう。恐ろしい世界だと思われませんか。

ちょっと長くなりますけど、ここも大事なポイントになりますので追記をしておきます。「自分が選択をできなかった台つについてのリスク管理」です。普通、先ほどの話であれば、右の台を選んだときに、自分は50,000円くらい負けたことになるのですが、それで完結をしてしまうみなさんが多すぎる、という話です。「あ～今日は、50,000円も負けた。悔しい。しくしく。」で、大抵の場合は、終わります。

そう、「落差」という言葉を使いました。

左の台か右の台かの2択で、右の台を選んだ人は、何となくでも、100,000円の損失を受けた気持ちに・・・間違いなく、そう思われたほうがよいです。このときの状況が、本当に2択であったのならば、100,000円の損失という認識を持たれたほうがよいです。

そして、それが、2択ではなくて、3択や4択の場合でも、同じように、「落差思考」で捉えられる習慣を付けて頂いたほうがよいです。自分が打った台についてのみで、勝ち負けを完結させるような考え方ではなくて、「自分も打てたのだが、実際には打てなかった台」についての勝ち負けも含めて、総合的に、自分の台選択についての反省をしたほうがよいです。

例えば、A台、B台、C台、D台と4台、そう、他のお客さんは無関係に、空き台として自分が座れる台の4択ができる状況があったとします。それで、自分はD台に座りましたと。それから、一定の稼働があれば、それなりの結果が出ることになるのですが、この話をわかりやすくするために、その1台1台の仮想的な結果を分けて書いてみます。

A台・・・ +50,000円 (最大値)

B台・・・ +20,000円

C台・・・ +20,000円

D台・・・ -20,000円 (自分の台)

結果的に、その状況で4台の空き台があって、自分なりによく考えてD台の選択をしたのですが、「自分も打てたのだが、実際には打てなかった台」のどれかの3台に座っていたら勝てたという残念な話になりました。

このときに、自分が選択をした台のみで勝ち負けを完結するならば、-20,000円ということになりますね。では、前述の「落差思考」で捉えたときには、どのようになるでしょうか。

そうです。A台について着目をしたほうがよさそうですね。金額の横に、「最大値」という言葉を書いています。この4台の空き台の中で、最も勝てる金額が多かった台です。そうなりますと、「最大値であるA台」と「自分の台であるD台」の「落差」を計算します。

上限+50,000円と、下限-20,000円ですから、その落差は、70,000円です。

自分が打てる4台の中で、D台の選択をしてしまったので、結果的に、自分は、70,000円の損失を受けたと、そう考えたほうがよいという話です。実際に、財布から行方不明になった金額は20,000円なのですが、正しい台の選択ができなかったことによって、70,000円の損失があったと受け止められたほうがよいです。

ちなみに、「最大値」ではなくて、「平均値」からの落差の計算もできます。このケースであれば、「A台とB台とC台の平均値」と「自分の台であるD台」の「落差」を計算します。(50,000円+20,000円+20,000円)÷3台=平均30,000円になります。

平均30,000円と、下限-20,000円ですから、その落差は、50,000円ですね。

ただ、「最大値からの落差」と、「平均値からの落差」とでは、若干にでも、その意味合いが変わってきます。つまり、「最大値からの落差」については、よりよい台の選択、より強い台の選択を意識する方向性が強いということであり、「平均値からの落差」については、その状況で、自分がピックアップをした複数の台、複数の候補台が全体的に候補台になりえたのか、という査定要素が強いということです。

そうしたことで、この話の本質については、「よりよい台の選択、より強い台の選択を意識すること」や、「自分も打てたのだが、実際には打てなかった台との落差を考える」ということが目的ですから、そこで優先をしたほうがよいのは、「最大値からの落差」であると思いますし、今回の内容において、それだけでもみなさんには覚えて頂きたいと思うのです。

そもそも、私がなぜ、このような「視点の追加」のご提案をするのかと申しますと、極めて単純に、カオスのみなさんにしてもそうですが、「安易な台の選択をされるみなさんが多すぎる」ということが理由なのです。

「どの台かを選ぶということは、同じタイミングで、どの台かを捨てる」ということです。

同時に2台や3台と打てるパチンコホールもあるかもしれませんが、普通は、無理だと思うのです。ですから、「そんなに簡単に捨ててよいのか？」という観点も必要だと思うわけです。何度も書きましょう。「安易な台の選択をしているみなさんは、同じように、安易に、もっと勝てそうな他の候補台を捨てている。」ということなのです。間違いありません。

それは、候補台の1台1台を、丁寧にふるいにかけるということです。いつも私が言いますように、1シマが36台、40台、44台、50台と、そのシマの形態は様々ですが、そのタイミングで本当に打ってもよさそうな台とは、普通、1～3台になります。

自分の感覚で、5台も6台も7台も当たりそうだと思うときには、やはり、まだまだ、“絞り込みの技術”が弱いということです。それは、ちょうど、雑巾を絞るような感覚なのです。自分の握力の限界まで気合を入れて絞り込めば、最後には、1滴か2滴の水が落ちるくらいにまでカラカラになります。

別に、濡れ濡れの雑巾で床を拭いていてもよいのですが、それで水浸しになってもしようがないからですね。それが、5台も6台も7台も当たりそうだと思うときのなのです。

さて、長くなりますので話を戻します。

「後の祭り」や「リスク管理が弱い人」という話でした。結局、このテーマも、自分の弱点を知るための道のりなのです。例えば、商売の話でたまに聞きますのが、「何かの商売でも、失敗をしたことのない人ほど、恐ろしいものはない。」というような話です。

だって、私でも思いますもの。「失敗をしたことがない」＝「いつ失敗をするのかわからない」ということでもありますからね。逆に、「私はもう、人生で100回を超えるくらいの失敗を続けてきました。こんなに失敗をした人も珍しいでしょう。同じ失敗をすることは少ないのですが。」というような人であれば、ある意味で、安心です。

ちょっとやそっとの出来事では、失敗をしない可能性が高くなります。

私なんかもそうですね。パチンコでの失敗を考えたときに、たぶん、一般のパチンコユーザーのみなさんの数倍は失敗をしているかもしれません。この月刊誌の特集でも書きましたように、「失敗の集大成」がカオスブレイクのノウハウのようなものですから。そう、失敗や敗北ですね。もう、嫌になるくらいに経験をしてきたわけです。

ですから、逆に思いますよ。どんどん失敗をして下さいと。それが、みなさんが成長や進歩をするための、必須アミノ酸のようなものですから。ビタミンやミネラルのようなものです。

普通、人間はですよ・・・ ちょいと油断をしたときの蚊に刺されたくらいの刺激では、別にそこから学ぶことも、成長をすることも、進歩をすることも、悟ることも少ないのです。それが、熊に襲われたり、ライオンに襲われたりしたときに、その刺激の大きさに何かを感じることも増えるわけです。冷や汗を垂らして、鼻水を垂らして、涙を流しながら取り組んだことにこそ、何かしら光るものを見出せることがあるのです。

## (2) 負けることのリスク

自分で書いていておかしいところもあるのですが、こんなことで悩んでいるようでは、まだまだ、負けが足りない、失敗が足りない、苦勞が足りないと、それで終わる話でもあるのです。

まとめますけど・・・ 人生のどん底を見た人間、自分の限界でもがき続けて来た人間にしてみたら、もう、本当に、今、自分にできることを精一杯に努力するしかないと悟るのです。生き返るためには、立ち上がるためには、這い上がるためには、今の自分にできることを探すくらいしかないのですね。

ですから、愚痴や不平・不満をボヤいている時点で、その人には、まだまだ、余裕があるということなのです。まだ、幸せなのですよ。愚痴でも言えるわけですから。

そういう意味で、人生のどん底を経験されることをオススメしたい気持ちはあるのですが、最終的に、人によっては自殺などの選択もありますからね。ここが、何の考え方や思想の在り方でも難しいところなのです。パチンコもそうです。人間を学ぶステージとしては、かなりよい環境であるのです。しかし、そこに普遍性のある学び方の提示をすることは、本当に、至難の業であると、いつも考えていますし、私の一生の課題になるでしょう。

『そう、勝ち続けていたら得られないものでも、負けると得られるものがあります。』

(1) 自分の弱さを知れること

(2) 負けることのリスク

(3) 勝てることのありがたさ

はい、ようやくの(3)です。この話も何度もしてきましたが、パチンコで勝つということは例外的範囲なのです。原則は、負けるものなのです。

例えば、「パチンコに行ったら、4回に1回くらいは勝てるよね。」・・・ 錯覚です。大間違いなのです。普通にパチンコをしていたら、負けることが義務のように当然のことになるのです。これが、基本原則なのです。パチンコユーザーの大多数のみなさんが、このような錯覚をされておられますので、パチンコホールは商売が成り立つわけです。

だって、普通に考えてわかるでしょう。パチンコホールの経営にはとんでもないくらいの運営資金が必要なのです。私の知人で、パチンコホールの経営に、毎月、どのくらいの金が必要なのかを調べた人がありまして、そのおおよその金額を知って、パチンコを辞めました。

こりゃ、自分が勝てるほうが不思議だと思われたのでしょうか。

もちろん、地域性やパチンコホール会社によって、お客さんに還元をしている金額の割合は違いますけどね。ただ、その還元率を逆算したときに、10～20人に1人くらいしか勝てないような割合であれば、自分が勝てる希望がなくなるのでしょうか。アホらしくなるのです。ある意味で、このような考え方は、正しい認識だと思います。

さて、そうした話を前提にしまして、「(3) 勝てることのありがたさ」ですね。

まず、私が言いたいのは、「他のお客さんへ感謝をしたほうがよい」という考え方です。たぶん、これができれば、パチンコ・マインド論は完成に近付くと思いますよ。うん、断言してもよいです。巡り巡って、循環をして、二転三転とすることがあっても、「お客さんへ感謝をしたほうがよい」という考え方を貫けた人は、パチンコで成功ができます。それが、どのような成功になるのかは人によるでしょうが、最終的にでも、正しい成功であると、私は思います。

ついでに書きますけど、よう考えてみて下さい。

インチキも含んで、世の中のパチンコ攻略法など、いくらでもありそうですが、「他のお客さんへ感謝をしたほうがよい」などと言っているのは、カオスブレイクくらいなものでしょう。

「それは、なぜか？」という視点ですね。

私がアホだから？ 別にそれでもよいのですが、ここまで、このクソ長いコラムを読んで来られた忍耐力のあるみなさんであればわかりますでしょう。今回のコラムについては、どのくらいの賛同を頂けるのかは謎ではありますが、そんなに奇妙な話はしていないと思います。

みなさんが、今後もパチンコをされるならば、たぶん、私の話を信じられたほうがよいです。

たしかに、自分でやってみないとわからないことはあります。それは、認めます。しかし、どうせやってみるのであれば、何かのネットショッピングのような、そう、お試し期間のようなものではなくて、とりあえず、信じたほうが早いのです。信じてやってみる、ということです。それが、手っ取り早いと思います。間違いありません。

『巡り巡って、循環をして、二転三転とすることがあっても、「お客さんへ感謝をしたほうがよい」という考え方を貫いた人は、パチンコで成功ができます。』

これを、信じることです。そして、実践を試みることです。

それができれば、続けることができれば、パチンコを通して、人間を知ることができるようになります。人間を理解できるようになります。人間が尊い存在であると悟ることができるようになります。その結果、パチンコでも納得ができることが増えて、みなさんの人生全般が、好転をすることも増えてくると思います。

感謝なき人生など、不毛なのですよ。それは、砂漠地帯のようなものなのです。

そうそう、「受け入れる」・・・ ということなのです。

では、仕切ります。

パチンコ攻略業界に新しい風を（17） 「握一点、開無限」

次に、けっこう前の話に戻しまして・・・

「〇〇をしなければならぬ存在、〇〇であらなければならぬ存在。」

私自身、昔は、完全主義的な性格が強かったです。実際には、社会人になる前からでしょうが、それがことごとく打ち砕かれたのです。他人に対してもそう考えていましたからね。正直、学校の先生でさえも、アホだと見下したようなところがありました。同級生や他の生徒など、もう、猿のような感じでしょうか。

もうね、まったくに近いくらいに、人間に魅力を感じる事がなかったのですよ。

えっ？ あんたら、人間でしょ？ そんなものなの？

こんな感覚ですね。家族を見ても、親戚を見ても、友達を見ても、先生を見ても、近所の人たちを見ても、ただの通行人を見ても、ほとんど魅力を感じることもなければ、感動をすることもありませんでした。ただ、ノン・フィクションなどの良質の映画やドラマなどを見たときには、さすがに、他人・・・ そう、人間に対して感動をすることはありましたけどね。

その頃から、「人間の平均値」というものの錯覚をしていたのだと思うのです。

正直、今でも、アホな人はアホだと思いますし、人間として狭い考え方や生き方をしている人たちを見ますと、「はい、ご苦労さん、いつまでも繰り返して、いつかは気が付いて下さいね。でも、私は無関係ですから、私には関わらないように頼みますよ。」って思います。

そう、何となくの理由はわかるのですが、アホな因子を持っている人たちが私に関わりますと、どうも、その人たちが発狂をするようなケースが多くてですね。そのアホなウイルスが進化でもして、アメーバのように増殖をして行くようなイメージでしょうか。

うん。よく思い出しても、やはり、二極化をしますね。日本の刑法を基準にしたときに、犯罪者になるような人が20人くらいはいましたね。いや、最初は普通の人に見えるのですよ。逆に、よい人に見えることが多いですね。それが掌を返すように豹変をすることがあります。

はい、私はその原因になっているという話ですから言葉もないのですがね。

そんなこんなでも学び続けてきましたけど・・・

そう、人間には、「知性・理性・感性・悟性」という4種類の感覚があるらしいですが、どうも、そのバランスですね。やはり、知性のみが飛び抜けて発達をしているような人たちは、そう、賢くは見えますが、どこかで人間付き合いの「粗」が出てくるといいますか、ようは、効率優先の考え方になってくるのかもです。

それは、コンピューターのようなものでしょうか。処理速度の速さや、記憶力のよさに価値を感じるような。

もちろん、悪いことではないのですが、そうですね・・・ そこに理性的な弱さがあるときに、必然的に自分の「欲」にも弱くなるということでしょうから、「効率優先の考え方」+「我欲」=「悪知恵」という流れになることが多くなるように思うのです。

ようは、他人よりも楽をして金を稼ぎたいとか、誰かを罠に陥れてでも引きずり降ろして自分が申し上がりたとか、騙せるような相手はいつでも騙したいとか、そうしたこすい（せこい）考え方になる人たちがいるでしょう。

他人とは、利用をするためにあるものって、本気で考えている人たちもありますからねえ。

そう！ 自分でこの文章を書いていて気が付きましたし、しかも、私の主観的な発想でしかないでしょうけど・・・ たぶん、過去、私の人間付き合いで残念に思った人たちでも、最初は理性的な側面もあったのだと思うのですね。

それがだんだんと、綿菓子のように柔らかく、ボヤけたようなものになってしまって、いつしか理性的な考え方が自分の「欲望」に負けてしまって、本人さんたちの知性は高いものだから、そこに「悪知恵」のみが残ったと。

ほら、どこのご家庭でもあるような旦那さんや奥さんが、いつしかお互いに対して、気の毒になるくらいに凶々しくなるようなものだとも思いますね。出会った頃にあった、純粹で清らかなお互いの感情はどこに消え去ったのだと思えるくらいに、今ではお互いに怒鳴りあい、頭を叩かれ、足で蹴られ、そんな旦那さんを見たときに、そんな夫婦があったときに、何のために結婚をしたのだろうと考えることもあります。

ああ、ちなみに、夫婦仲が悪くなるのは、別に、愛情の欠損や消失だけが原因ではないと思いますね。どの夫婦でも昔はあったような、相手に対する理性的な・・・ そう、「礼儀」のようなものでしょうか。

うん、理性的な考え方や生き方、対応の中に、相手に対する「礼儀」が含まれると思いますね。それが、萎れた野菜のように、弱くなったという感じでしょうか。

それは、一般的に犯罪者と呼ばれてしまうようなみなさんの心理でもそうかもですね。

例えば、駅のホームなどでいきなり寄り添って来て、一礼でもしてから女性のスカートの中などを盗撮するような人も少ないでしょうし、人通りの少なそうな場所などで、通行人の後ろからやって来て、一言、挨拶でもしてからその人のバッグをひったくって、そそくさとバイクで逃げましたというような話も聞きませんしね。

空き巣や下着泥棒もそうでしょう。挨拶をしてから犯行に入るような人は少なそうですし、納品書ではないですが、犯行後に盗んだ品物のリストを書いた書類を送ってくるような人もいないような気がしますね。できれば、相手にバレないように仕事をしたいという気持ちがあるのが、世間的な犯罪者のみなさんの心理であると思うのです。

そう考えたときに、「理性」が弱くなると、それに比例をするかのように、「礼儀」も弱くなるということが言えるかもしれません。

凶々しさ・・・

善悪って話でもないのでしょうかね。似たような凶々しさでも、相手によっては、犯罪になることもあるかもです。以前、私もある知人の世話をしていたことがあったのですが、最後には、勝手にうちの家の冷蔵庫を開けて、食べ物を召し上がるどころまで成長をしました（笑）

いくら知人でも、場合によっては、不法侵入からの窃盗になりますね。

本人さんにしてみたら、別に許されることだと思っておられるようで、100%に近いくらいに悪いことをしている意識はないのでしょうか。しかし、同じように、100%に近いくらいに礼儀はありません。理性がボヤけるといより、もう、崩壊です。

私は、昔からそんな人間付き合いを繰り返してきて、以前の彼女にもしててこに怒られたこともあるのですが、結局は、自分が未熟なのかもしれないと思っているわけです。

もう、本当に、どうぞどうぞ、お好きなだけ持って行って下さいって言いますと、ガチで持って行く人たちがあるのですよ。あはは。そりゃ、そうだろうと思われるみなさんも多いかと思いますが、それだけ、私の感覚がズレていたのでしょうかね。

そう、「人間の平均値」ですよ。勘違いをしていたと思います。

私もそれなりに、人に揉まれて、叩かれて、しわくぢやにされて来ましたが、やはり、前述の「知性・理性・感性・悟性」という4種類のバランスでしょうか。人間の心や魂の構成要素のようなものでしょう。今回は、感性や悟性の話には触れませんが、この4種類の感覚のバランスは大事だと、つくづく、そう思います。

・・・ さて、何でしたっけ？

そうそう、人生の選択や分岐の話でしたね。まあ、お陰さまで、そう、みなさんもそうかもしれませんが、私の人生においても、かなり不思議な人たちとの出会いや別れがありました。あ、同じ知人や友人でも、農薬を飲んで、自殺未遂を2回も3回もしたような人もいれば、過去の最高資産が、約20億円という人もいますよ。今でも懇意にしていますけどね。

もう、人生・・・ というより、人間の上限や下限ですか。

「握一点、開無限」という言葉を、よく考えます。人間の可能性は、拳（こぶし）を握りしめてしまったら、それまでの展開でしかなく、その拳を開いたならば、無限の可能性がある、くらいの意味です。

これまでのカオスブレイクの考え方もそうですし、このコラムでも書いてきましたように、「自分を知る」ということは大切です。しかし、そこで自分はこんなものだと、自分の限界はこんなものだと、そう限定をしてしまいますと、どうしても、次のステージに進めないことが増えてくると思うのです。

「〇〇をしなければならない存在、〇〇であらなければならない存在。」

責任感という意味では大事なことです。ただ、大抵の場合、そうできない自分に嫌気がさしたり、自分を責めたりするようになることが多くなります。例えば、今月は、パチンコで100万円くらい勝たなければならない・・・ アナーキーのテリヤキさんならできるかもしれませんが、普通の人は無理ですね。私でも無理でしょう。

そもそも、当地のようなクソ田舎の魔界地域で、100万円/毎月のプロがいるとか、まず、聞いたことがないですから、百歩譲っても地域性やホール環境の要素は大きいかと思います。昔ならありえたかもですね。還元率がややマシな時代もありましたから。

それに、すべてのシマで起こる現象ではないにしても、もう、そのシマで最高で勝った人が20,000円だったとか、そうしたことが普通にありえる世界ですので、パチンコの常識を覆すようなところで毎日のように安定をして勝つのは、まず、無理です。ちなみに、今日もパチンコをしていましたが、どこかのベースグループの5台や10台を範囲として、一日打ってすべて負ける台になるとか、普通にありますからね。

うん、半端ないですね。日曜日で甘デジさんもいらっしゃったようですが、ご無事でしたでしょうか。いつも、コーヒーをありがとうございます。私はあれから、6台くらい当てて、最後の歌わない歌姫が、珍しく閉店まで当たっていましたので持ち越しをしたのですが、結局は、-1,500円くらいで泣きながら帰りました。ピークで2000円くらいしか勝っていませんでしたので、元を取ったら帰ろうとしていたのですが、あまりの当たりの遠さに、自爆をしました。

甘デジの仮面ライダーが、780回転、同じく、甘デジのエヴァ8が740回転で、お客さんが絶賛ご遊戯中でしたので、その関連台などを狙って当てても1,200発とか、無理です。

やはり、自分が通うホールに応じた「平均値の正しい見極め」は大切ですし、その都度に修正をする必要があります。うんこ台に囲まれていて、「当たるならそれしかないでしょう？」というような台でも、そう簡単には当たりませんからね。

今日のケースでは、前述のうんこ台からの組み立てで、1台は読みが正しくて、4,000発くらいの引っ張りができたのですが、その台も、-3,000発くらいからの還元でしたので、別に玉が増えていないのです。そのシマで、他に2台を当てましたけど、当たるまでに必要になった玉を上回る還元はありませんでした。

いつもの感覚で、2~3台くらいですかね。甘デジやライトミドルで、700回転を超えているような台があれば、普通に、他の台が当たるだろうと考えるわけです。データロボで確認をしたときに、2~3日間で30,000~50,000発くらいの規模で回収をしているような台でよくあります。普通は、そこから組み立てることができるのですが、それでも、ビックリするくらいに当たりが遠いケースがあるわけです。

一昨日などは、昼と夜で別のホールに行ったのですが、昼に7台、夜に8台くらい当てて、結果的に、5,000発くらいのプラスです。かなり辛いです。大抵は、その台の寿命が読めますから、時短やSTでの即止めをするのですが、次に当たる予定の台に移動をしても、その台が当たるまでの投資がかかります。そして、単発や2連チャンくらいで平気で終わることが多いですから、他のお客さんが泣きかぶっているような状況で何台と当てても、私が虎視眈々ブログで書いていますように、1台あたり、100~500発くらいしか増えないことがあります。

たしかに、まだ無駄な投資があるのは事実です。後半になると気力が薄れてくるのですね。たぶん、インターバルをほとんど置かないで移動をしますので、もう少し、打たない時間を増やしたほうがよいとは思いますが。私の欠点かもしれません。それでも、的中率は8割をキープしていますからね。それで、玉が増えないというのは、本当に過酷だと思いますよ。

そうしたことで、“お釣りが少ない理由はわかるのですが、いくらなんでもねえ・・・”という発想で取り組んでいますと、結果的に自分が自爆をすることになりますので、本当に、迂闊な台の選択などできない、という状況です。

さて、この話もそうですけど・・・

『これまでのカオスブレイクの考え方もそうですし、このコラムでも書いてきましたように、「自分を知る」ということは大切です。しかし、そこで自分はこんなものだと、自分の限界はこんなものだと、そう限定をしてしまいますと、どうしても、次のステージに進めないことが増えてくると思うのです。』

パチンコのことでもそうで、「いくらなんでも、これだけ回せば当たるだろう。」「いいかげんに当たりなさいよ。」「これだけ、うんこ台に囲まれていたら当たらないとおかしい。」・・・という考え方も、他人や他の物事に対しての限定をしたような考え方になりますね。

現実には、いくらでもハマりますよ。それが、どの程度の日数での話になるのかはホールによりますが、150,000発くらいまで回収をしたところで新台入れ替えをして、それまでのデータがリセットをされることもありえます。その悪夢のような日々は、その台を打っていたお客さんたちの疑問や涙はどこに行くのかと思えるほどに、また黙々と回収を続けることもあります。

ですから、そうした現実を受け止めるということが大事です。

『「握一点、開無限」という言葉を、よく考えます。人間の可能性は、拳（こぶし）を握りしめてしまったら、それまでの展開でしかなく、その拳を開いたならば、無限の可能性がある、くらいの意味です。』

小さな小さな自分の殻に閉じこもるような方向に意識が向き続けるのか、その殻を打ち破って、まるで何かの冒険や、どこか旅行にでも行くような自由な気持ちで生きていこうとする方向に意識が向くのか、その選択は、それこそ、人間の自由なのだという話です。やる気のない生き方を望むのであれば、その人は、やる気のない人生になりますし、空元気でも、熱意を持って生きていこうとする人は、やがて、本当に元気になっていきます。

さて、ここが、このテーマのポイントになります。

そのキーワードは、「限定」をしまわせない、ということに尽きます。それは、自分に対してもそうだし、他人に対してもそうです。そう、「握一点、開無限」という話ですから、じゃんけんでもよいです。例えば、誰かとじゃんけんをするときに、自分はグーしか出せない、出したくない、という限定をしていますと、それを相手が察したときに、その相手が勝つためには、普通にパーを出してくると思います。

それで、じゃんけんくらいの話であれば、そこまで自分を限定することはないですよと、そう考えられるみなさんが多いかもしれません。

否々・・・人間は、生きている年数に比例をするかのように、環境や生活習慣によって、何らかの限定を自分の中に取り入れているものなのです。そう、誰も、なかなか気が付きにくいことなのです。たくさん、ありそうですよ。

例えば、みなさん、自分に対して限定をしまっている考え方と、他人に対して限定をしまっている考え方とでは、どちらの割合が多いと思いますか。そうですね・・・どのような話がよいでしょうか。

そう、「あいつはアホだよ。どうしようもない人だ。」・・・みなさんの知人などには、1人くらいはそう思われやすい人がいるかもしれません。過去に、そうした人がいたとか、ですね。学生の頃の同級生や友達でも、普通に、ありますでしょ。えっ？今の職場にもいますよって？

それで、ややこしい話をしますが、自分が他人に対してアホだと、そう思っていること、そのものが、自己限定なのですね。「そう思っている自分を認識している」ということです。いや、できれば、「認識をしたほうがよい」ということですね。ここがポイントです。

つまり、「あいつはアホだよ。」と他人の限定をしまっているような“思い”があることが、自分自身をも限定してしまっている考え方とイコールになるのです。例えば、AさんはBさんをアホだと考えています。そうなると、Bさんをアホだと思い込んでいるAさんがいるわけです。これが、AさんのAさんによる、Aさん自身への限定でもあるのです。

ややこしいでしょうが、そういうことなのです。

ですから、『自分に対して限定をしまっている考え方と、他人に対して限定をしまっている考え方とでは、どちらの割合が多いと思いますか。』・・・圧倒的に、自分に対して限定をしまっている考え方のほうが多いわけです。誰かをアホだと思った瞬間に、自分に対しても限定をしている、ということなのです。不思議な話ですけどね。

結局、物事には、裏と表がありますから、「表裏一体」と表現をしますように、なんだかんだと繋がりがあるといことです。そう、「握一点、開無限」も裏と表の関係になりますね。他人に対して限定をするような物の見方をする癖があるような人は、それと同時に、自分に対しても限定をしているということであり、なかなか、それに気が付けられないことが多いのです。

ここでようやく、私の本音を書きますけど・・・

ぶっちゃけ、他人に対して限定をしないことです。「あいつは、あんな人間だ。」「ダメな人間だ。」「どうしようもないやつだ。」「もう、あいつは無理だね。」「あいつに未来はない。」・・・

そうです。他人を限定した目で見ること、他人を否定すること、他人に対して排他的な感情を持つことは、結局、自分に対しても同じことをしてしまっているということなのです。「自己限定」をして、その人が成長をすることは少ないでしょう。その人が成功をすることも少ないでしょう。その人が幸福になることも少ないでしょう。

「他人への限定は、自分への限定と同一である。」・・・ これは、悟りの言葉なのです。

人間は、いつの間にかにでも、他人の存在に介入をしながら、他人との付き合いを通しながら、自分の気持ちや考え方についても檻の中に閉じ込めてしまうようなところがあります。

何度も繰り返しますが、知らず知らずのうちに、自分を限定してしまっているところがある、ということです。それは、自分で牢屋に入ろうとするような人を助けることが難しいように、自分で穴に落ちようとしている人を引き止めることが難しいように、自分で気が付かなければならないことも多いのです。

前述の話であれば、少なくとも、誰かに対して、アホだと思った瞬間は、その相手に対して、肯定的な考え方をすることはできません。肯定と否定の同居のようなものです。そして、「排他的な思考」と「親和性のある思考」でもそうです。近頃のパソコンのCPUは、性質の違うような複数のことを同時に処理ができるようですけどね。普通、私たちのような人間は、相手をバカにする気持ちと尊敬をするような気持ちは、なかなか同時には表現ができません。

ですから、誰に対しても、その人の努力しだいでは、きっと素晴らしい人になるのだと、そう信じていることです。励ますことです。理解をすることです。感謝をすることです。そう、愛することです。そうした人たちに囲まれた人は、間違いなく、成長をしていきます。進歩をしていきます。素晴らしい人間になっていきます。どのような猛獣のような人たちでも、必ず、変わっていきます。それを信じていることです。

それでは、次のテーマに入ります。ようやくの最終話です（汗）

## フォースを受け継いでいく者たち

さあ、さすがの私もくたびれてきました。もうね、いくらでもネタはあるのですよ。それをまとめたり、文章にしたりするのは拷問に近いのです。うん、後で書きますけど、これも約束なのですよ。・・・ 約束なのです。私の考え方に賛同をして頂けるみなさんがどのくらいいるのか知りませんが、私の人生で知りえた智慧は、すべて活字にして残したいと考えています。

そうした私ではありますが、今になって、ようやく自分の人生の疑問や謎が解けてきたようなところはあります。

やはり、人生の選択で、「安易な道」と「茨の道」とがあったときに、「安易な道」を選択したくなるのが普通の人間の心境でしょうが、それは、結果的に「不正解」になることが多いように思いますね。たぶん、そうです。

どうせ道を選ぶならば、あえて厳しい道を。あえて困難な道を。そうした気迫のある人生にこそ、他の人たちにも感動を与えることができると思うのです。ちなみに、パチンコでの「負け戦」は避けたほうがよいと思いますけどね。

そして、歳を取りますと智慧が付くのでしょうか、飽きてくるのでしょうか、「心の平静」とは申しませんが、人の世の出来事について、カミングアウトをしているような自分があります。様々な人間の営みがあると思うのですが、どうも、表面的なことではなくて、その本質のみを知りたいような感じでしょうか。単純に、めんどくさいのですね。

そう、その人たちのエネルギーが向く方向性のようなものです。

それが、一般的にも残念な人生、不幸な人生の方向に向いているのか、進歩や調和、発展の方向に向いているのか・・・ そうした捉え方です。或いは、独りよがりのわがままであるのか、誰かのためになるようなことであるのか、そうした本質の部分でしょうか。その人たちが発するところのエネルギーの方向性のようなものですね。人それぞれ、表面的には違って見えることも多いのですが、その本質的な方向性にのみ興味がある、そんな感覚です。

それが、パチンコの波グラフであれば、プラス方向に向いている台なのか、マイナスの方向に向いている台なのか、というようなものです。人生がプラス方向に向いているような人は、基本的にポジティブで・・・ 『誰に対しても、その人の努力しだいでは、きっと素晴らしい人になるのだと、そう信じることです。励ますことです。理解をすることです。感謝をすることです。そう、愛することです。』このような考え方の人が多いです。

逆に、人生がマイナスの方向に向いているような人は、基本的にネガティブで・・・ 愚痴や不平不満が多く、比較的奉仕的な感覚がある人よりも、自己中心的な人であると思います。自分がかわいそうだと思う人も要注意です。前回の月刊誌でも、「自己憐憫」についての話を取り上げてみましたけど、自分がシンデレラのように気の毒だと思いはじめたらキリがありません。

だって、私でも思いますもん。もう少し、親戚や家族に恵まれてもよかったのではないかと。いや、本当の話で、私、中学生の頃には、口癖のように環境が悪いと言っていましたし、相当な不満がありましたね。例えば、正月を過ぎて3学期がはじまる頃になりますと、仲のよい同級生のお年玉の話とかを聞くわけですよ。普通に、5万円、6万円、7万円とかでしたよ。

私、最高金額で、7,000円でした。その違いは何なのかと考えたときに、その当時の私にはわかりませんでした。ただの不満材料です。

はい、そうですね。自分で勝手に、「比較をする対象を限定していた」ということです。

今の私にはわかります。隅々まで世の中を見渡せば、お年玉をもらったこともないような人もあるわけです。お年玉をもらう前に、飢餓などで飢え死にしていってしまう子供たちもあるわけです。

そう、地球規模での平均値を考えて、それと比較をしたときに、自分は幸せなほうなのだと思うようになるのです。そもそも、両親がいて当然だと、自分の面倒をみて当然だと思っているアホな人たちもありますけど、世の中には、自分の親さえわからない人もあるのです。

ここでも、ひとつの限定話が浮き彫りになりました。

自分が当たり前だと思っていることも、本当は、当たり前ではないことかもしれない、という発想です。 そう考えたときに、自己限定の恐ろしさも伝わるような気がします。そこには、思い込みをしていた自分があったのではないか、勘違いをしていた自分があったのではないか、錯覚をしていた自分があったのではないか、ということです。

そして、悟性が優れておられるみなさんは、ここで、やっぱり、「感謝」をすることが必要なのかと気が付かれるのです。・・・ 気付いて下さい。

さて、「フォースを受け継いでいく者たち」という最終章ですが、私が一番乗りでよいです。

そうですね。私が受け継いでいるという話なのです。そして、私が受け継いでいると同時に、私の後を受け継いでくださるみなさんがあるならば、「マスターは奇妙な考え方をする人だった。」という痕跡を残す意味で、今回の独りよがりのコラムを書いてみました。まだまだ書き足りませんけれど、私の地上時間の限界まで、何とか頑張るつもりです。

しかし、私も難儀なことを承ったものです。

「コウちゃん、後のことは頼んだで。」

私もそのときに首を縦にふりましたので、しょうがないです。ただ、他の人たちことは知りませんが、私は、私の表現でそれを伝えていくのです。私には、彼のような熱意はありません。クールな人間ですからね。ただ、他人への、まあ、仲間という表現がよいですが、そうした仲間のみなさんたちに対して、「よい影響を伝えたい」・・・ この理念です。

その媒体が、パチンコの攻略技術というだけの話ですね。慣用句に、「毒をもって毒を制する」という言葉があります。「欲をもって欲を制する」・・・ こんなのはいかがでしょうか。

パチンコなんて欲まみれの世界ですよ。しかし、そうしたドラクエじゃないですが、毒の沼地のような世界、欲まみれの世界の中でこそ、掴み取れる物事もあるのです。

人間は、どのような環境でも、どのような条件でも、どのような苦境からでも、学ぶことができるように神や仏が設計をされているのです。 そこで、環境や他人に対して、ダラダラと文句を言いながら一生を終えるか、それでも自分にできることを探して、希望を持ちながらコツコツと努力をしていくのか、それだけの違いかもしれません。そう、前述の、「方向性」の話なのです。

今後も、この日本から、私のように変わった人たちが出てこられると思います。様々な個性で、様々な考え方で、様々な分野で・・・ その本質に、自分とは赤の他人へのそれも含み、「よい影響を伝えたい」・・・ そうした理念や信念がある人たちであることを望みます。

もがいてもよいではないですか。間違ってもよいではないですか。泣きかぶってもよいではないですか。アホにされてもよいではないですか。

「よい影響を伝えたい」という理念や信念があれば、その方向を見誤らなければ、それを貫き通せば、それを信じていけば、人は、成長や進歩をしていくのだと、私はそう思うのです。

そうしたことで、最後にパチンコの話を書き少し書いて締めます。

このカオスブレイクでもそうで、正直なところ、もがき続けてきました。何かの判断で間違ふこともありました。泣きかぶることもありました。アホにされることもありました。

そうですね・・・例えば、パチンコの攻略情報や技術があったとして、仮に、それが100%に近いぐらいの効果があるとしても、それを不特定多数のみなさんに伝達をすることが正しいのかと考えますと、極めて難しい話になると思います。

普通は、わかりませんね。わからんことは、わからんのです。

それでも、わからないままでも、世の中に伝えたい衝動がある。では、どうしたらよいのか。そう、わかるところだけを追求するしかないわけです。

それで、カオスブレイクがわかることは、パチンコを通して「自分を知ることの大切さ」についてご提案をしたいですし、それは、自分の「欲深さ」を知ることでもあり、自分の「弱点」を知ることでもあり、逆に、自分の「才能」や「可能性」を知ることでもあります。

そして、「自分」を知るということは、同時進行で、「他人」を知ることになります。

目指すべきは、総合的な「人間学」のようなものでしょうか。

『ある意味で、パチンコホールは、「人間の本質の縮図」のようなものですからね。幸福や不幸の見取り図のようなものです。人間の喜怒哀楽、諸行無常、貪り・怒り・愚かさ・・・ てんこ盛りな世界です。』

『巡り巡って、循環をして、二転三転とすることがあっても、「お客さんへ感謝をしたほうがよい」という考え方を貫けた人は、パチンコで成功ができます。』

これを、信じることです。そして、実践をしてみることです。

それができれば、続けることができれば、パチンコを通して、人間を知ることができるようになります。人間を理解できるようになります。人間が尊い存在であると悟ることができるようになります。その結果、パチンコでも納得ができることが増えて、みなさんの人生全般が、好転をすることも増えてくると思います。』

こういうことですね。

それで、話を戻しますが、その延長線上といたしますか、本質的なことなのか、ようわかりませんが、ある意味で、世の中には、不思議なことがたくさんあります。

内輪の話ですけどね・・・

そう、人間の精神エネルギーが有限であると考えられるみなさんもあるでしょうが、虎視眈々ブログでも書きましたように、我らが巫女さまを通して、「サザンの新しい形」という助言を頂いてから、まもなく、「制御フィルター理論」を発想された人もありますし、「コンビ枠」や「サザン枠」や「SSシリーズ」もそうですね。より深く実用的な技術論に進化ができてきました。

以前の、モグさんからの「3進や4進の反復理論」もそうでしたね。それから、サザンの概念が生まれたわけですが、今思えば、それも何かの導きであったと思うわけです。

たぶん、この月刊誌は、過去、カオスブレイクにご縁があったみなさんにも読んで頂けることがあると思います。そうしたみなさんが、独自にでもパチンコの研究を続けられることがあれば、「コンビ粹」や「サザン粹」を追求されたほうがよいです。

極めてホールシステムの核心に迫っています。大筋で、「小粹の制御」の解明もしています。36シマや44シマでの「小粹の理論」も、結果的に、「制御フィルター理論」の一部であり、特定の条件が選択をされたときに起こりえる現象なのです。

当たりの総数が多いようなホール環境では見えないことでも、すべてにおいて底辺に近い環境のホールでは、その真相が浮き彫りになることがあります。

やはり、他人に対してパチンコの技術を伝える志（こころざし）がある人であれば、あくなき追及や研究が必要だと思います。私などは、基本的に文系ですから、データの統計や分析など、まるで畑違いのようなことを泣きながらしていますよ。ですから、私よりも遥かに、理的な能力があるみなさんには、どうか、あきらめずに頑張ってくださいね。

そして、どんな分野でもよい、他人に対して、「よい影響を伝えたい」という理念や信念を持つ青年のみなさんが、今後も世に出てこられることを祈ります。

以上、「スペシャルマスターコラム」でございました。



今も尚、熱意の冷めぬ友人に捧げる。

っていうか、今、この写真を見て気が付きましたけど、わんこさん、かなりの美人でしたのねw

そして、いつも虐待・・・いえ、叱咤激励をして頂けるハーゴンさまと、

私の人生の師であり、よきライバルであって頂ける夏の簾氏に感謝を申し上げます。

あ、何の文句も言わずにデバッグをしてくれるこてさんにも、ありがとうございました。

もちろん、カオスの愉快的なみなさんにも感謝をしています。

超合掌

お世話になります。しかし、まあ、このクソ長いコラムを読んで頂きましてありがとうございます。デバッグも含めて自分でも読み直すことがあるのですが、正直、私の文章・・・というより、作文の作成レベルは、小学生の感覚に近いかもしれません。

最初に、テーマや話の内容を小分けしないのです。もう、頭からだらだらと書き流すような書き方なのですね。ですから、テーマの本線と複線があったときに、一度、話が飛んで行ってしまいますと、そこから戻すことに苦勞をするわけです。

それでも、昔、私が書いていたような文章と比較をしますと、ややまとまりも出てきているように感じます。いかがでしょうか。

・・・ ダメですね。

実際に、私が本当に書きたかったことの、50%くらいかなと、そうした感慨もあります。自己満足度もそうですね。お陰さまで、何かのテーマについての理念はポンポンと沸くのですが、それがまとまらずに文章になってしまって、自分の思考能力の限界を感じることもあります。

やはり、基本性能の部分かとも思いますけど、努力しだいなのでしょうか。次回は、最初にテーマや話の内容を小分けしてから作業に入ってみます。そうしたら、もう少しでも早めに脱稿ができるかもしれません。何事も勉強かもですね。

そうそう、今回は、テーマのひとつであった「嫉妬心」について、あまり触れることができませんでした。これも「貪りの欲」のひとつなのです。相手の何かを欲しがっているのに、手に入れることができないので不満を持つということですからね。

『「幸福になれない」症候群』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876883327/hsmail-22/>

『あなたが他人の成功を妬ましいと思う場合、実は、その成功はあなたの関心領域にあるものであり、その人はあなたの理想像でもあると言えるのです。妬ましいと思う気持ちは、ほんとうは、あなた自身がその人に成り代わりたかったということなのです。』

ガチの仏教の叡智については、本当にドキっとすることのオンパレードなのです。ちなみに、私でもわかることですが、難しいことを難しそうに表現することは、やや簡単なのです。しかし、奥深くて難しいことを易しく表現することは難題であって、実は、そうした表現であるがゆえに、「そんなことは誰でも知っている」というような錯覚を誘発しやすく、読んでいる人を素通りすることもあるわけです。

そう、結果的に、嫉妬深い人は、相手を「祝福する心」を持つことが、最大の治療法になるのですが、そのメカニズムはわかっている、その構図はわかっている、それは、何かの見取り図を見ているだけのようなもので、実際に、自分で実践をしてみないと、なかなか自分のものにならない、という現実があります。

自分に嫉妬の心がでてきたら、それを野放しにしないで、すぐに、その相手の正しく成功をしているところに対して、「祝福の心」を持てるように努力をする。また違う人に嫉妬をする心がでてきたら、同じように、その相手の正しく成功をしているところに対して、「祝福の心」を持てるように努力をする。この作業を繰り返すわけです。

こうしたことが、「心のコントロール」の鍛錬方法なのです。そして、その鍛錬を積み重ねて行ったときに、はじめて、「自分の心をコントロールできてきた」という技術になるのです。

普通の人（レベル1） ～ 仏陀（レベル1,000）

例えば、「心のコントロールの技術」について、こんな開きがあったとしたらですよ・・・ 私たちなんて、生まれたてのヒヨコのようなものなのです。

次の、「迷えるパチンカーへの処方箋集」でも、私の宗教観を書きますが、ほら、お経や題目などを代表とするような念仏宗教があるでしょう。そうした宗教は何かの修行をしているつもりになっているのかもしれませんが、本来の仏教の精神からしてみたら、前述の、普通の人（レベル1）と大差はないわけなのです。

そう、「心のコントロール」という意味では、何の修行にもなっていないようなものなのです。

人間はねえ・・・ 自分の心を鍛えないとダメなのです。お経や題目を唱えて喉を鍛えてもしょうがないですよ。 私は、そう思います。まあ、後で書きますので、お暇な皆さんは読まれて下さいませ。

それと、今回のコラムでもかなり追及をしましたけど、愚痴や不平不満、他人への悪口が大好きなみなさんへの処方箋についてです。結局、そうした“思い”があることじたい、人間としては未熟であると前提にしたときに、では、どのような努力をして、正常な人間や素晴らしい人間になるかという話です。

このケースでは、自分を励ますということです。それに尽きます。

そうですね。巫女さまのコラムでも関連をしたお話を頂いていますので、そちらを参考にさせて頂きたいです。

それで、愚痴や不平不満、他人への悪口が出やすい人の根本的な原因として、「自分のちからが足りないことによる反作用」ということが、その動機になることが多いのです。圧倒的にそうだと思いますね。本当に満ち足りているような人からは、愚痴や不平不満は出ないでしょう。そうした“思い”を出す必要もないからですね。

ですから、今、自分がいる環境の中でベストを尽くすというような考え方、取り組み方、生き方をしたほうが、その、まるで洗濯機のような悩みや苦しみの渦の中から抜け出すためには、最良の選択になると思うのです。そのために、自分を励ますことです。そのために、自分の周囲の人たちも励ますことです。

そう、前述の「嫉妬心」と同じですね。こうしたことも、「心のコントロール」の鍛錬方法なのです。そして、その鍛錬を積み重ねて行ったときに、はじめて、「自分の心をコントロールできてきた」という技術になるのです。

小言、愚痴、不平不満、怒り、恨み、妬み、呪い・・・

これらの毒素もそうですよ。すべて、仏教の考え方で解決をします。いや、そのための仏教の教えなのです。まあ、じわじわと、私も学びながら、みなさんにお伝えができるように努力をしています。では、ありがとうございました。

## 迷えるパチンカーへの処方箋集

さて、第10回目になりました。“迷パチ”でございます。

今現在の時点では決めていないのですが、月刊カオスブレイクの一周年記念ということで、今月号につきましては、ブログ読者のみなさんや、一般のみなさんにも無料配布型のスタイルでご提供をさせて頂きたいと考えています。

結局は、私が勝手に決めることになるのですが、別に問題はないように予想をしています。2014年12月からカオスブレイクへの敷居を引き上げますので、最後の晩餐でもないのですが、一応は努力をしましたよということで、何かの免罪符になるかもしれません。

もうね、これまでも散々とお伝えをしてきましたように、遊び感覚が強すぎるみなさんや、金銭感覚が崩壊をしているようなみなさんや、ホール環境が悪すぎるみなさんは、パチンコをお辞めになったほうがよいです。間違いありません。時間と金の無駄ですよ。

もちろん、技術革新という意味で、私たちも努力はしていますけどね。カオスの技術論を菓の分野で喩えるならば、そう、「漢方薬」のようなものです。長く飲み続けますと、じわじわと効果や効能が出てくることもあります。が、「西洋薬」のような即効性はないのです。

ですから、睡眠薬かモルヒネでも打って、パチンコ台のハンドルから手を放さないとならないような、重症のパチンコ依存症のみなさんの治療薬にはなりえないところがあります。私が通うホールにもおられますけどね。見ていてわかります。例えば、私がお客さんに直接的なアドバイスをして聞かないような感じですよ。

もう、勝ち負けが目的ではないところがありますね。前述しましたように、パチンコ台のハンドルを握りたい・・・それが、最大の目的であるお客さんがいます。ですから、そこで私がお客さんにお役に立てることがあるとしたら、「こっち、こっち、ハンドルの調子がよい台がございませよ。いかがでしょうか？」・・・ってな感じですよ。冗談みたいですけどね。

或いは、中古台のコーナーなどでは、プッシュボタンが故障をしている台があるのですが、お客さんによっては、それが気に入らない。例えば、今から当たりそうな台でプッシュボタンが故障をしている台と、いつまでも当たりそうにない台でプッシュボタンが正常な台があったときに、後者を選ぶようなお客さんが現実にあるということですね。

そうそう、現金サンドに1,000円札が上手に入らなくても、隣の台などに移動をしているお客さんもあります。

それでいてですよ・・・最後には、そう、パチンコから負けて帰るときですね。「こんなに出ないなんてクソホールがっ！」とか言いながらお帰りになるのですが、次の日になると、同じホールに、ちゃっかりと朝一から来ているような風景があるわけですね。そんなお客さんたちを長年と見ていますと、ここは何かの精神病院か収容所なのかって思うこともしばしばです。

そうしたことで、私がお伝えをしたいことはわかりますね。いつかの月刊誌でも説明をしましたが、パチンコは、勝てる資格が必要なのです。勝つための資格がないお客さんは負けるだけの話であり、それをそのお客さんの気力や体力、資金が底を尽くまで繰り返すのです。

それでは、Q&Aに入ります。今回も、私に対応します。

## Q. パチンコをするにあたって、一番、大事なことは何ですか？

A. はい。まずは、みなさんが、パチンコに通う目的について考えます。「そんなことは決まっているでしょう？ 勝つためですよ！」って回答がある人はまともな人です。しかし、十人十色で、必ずしもそうではない考え方をしてしまうみなさんもあるのです。

私でもあります。お陰さまでカオスには確認対象になる研究テーマのようなものが山のようにありますので、何らかの仮説をもとにした当たりの取り方は有効であるとかの検証を目的にしていることもあります。勝ち負けではなくてですね。

パチンコホールによっては、私のブログで書いているような凄惨な出来事がありますけど、波グラフの画像写真などでもそうで、普通の感性がある人であれば座らない、打たない、いじらないというような台でも、打ってみなければ回答を得られないケースもあるわけです。そうした目的があるときには、リスクを厭わずに取り組むこともあります。

現実には、それが悪い手本になってしまって、カオスは台数を当てることを目的にしたような魔法使いの集団のようなものだと思われていると、そんなご指摘を受けたこともあります。そして、カオスのみなさんも、私のコピーではないですが、似たような取り組み方になっている、という状況がなきにしもあらずではあります。

ただ、私がこのスタイルをよしとしているのには、大きくふたつの理由があります。他の日記や記事、これらの月刊誌でも書いていますように・・・

### (1) 他のインチキ攻略法との、差別化の意味

### (2) 特定のパチンコ台に対して、執着を断つ意味

今回は、一般公開の可能性を考えて説明はしませんが、「結局は、ねえ、わかるでしょ？」って感じですよ。例えば、プロの板前さんは、魚の鱗一枚を見ただけで、その魚の名前がわかるものなのです。長年とパチンコをしている人でなくても、一定の感性がある人であれば、私のブログ記事などを読まただけで、カオスがニセモノか本物に近いのか、そう、わかるのです。

今回、初めての話をしましょう。カオスのみなさんのことです。ちょうど2年くらい前に、私がカオスの方向転換をしまして、もちろん、私の独断と偏見では正しい方向に軌道を修正したつもりではあったのですが、どうしてもその違和感に馴染めなくて、無念にもカオスを離脱されたみなさんがありました。

### そこでも、私は学びました。「人間の平均値」です。

しかし、それから、2年が経過をして、今でも、私があのだ、守護霊だ、仏さまだ、宇宙人だと言っているのに、カオスを支持して頂けるみなさんが増えるのです。

こんな表現をしたら怒られるかもしれませんが、自分でも嫌ですよ。そもそも、私が宗教なんて大嫌いですからね。この月刊誌を読んで頂いているみなさんと同じくらいか、それ以上に、過去の妙な宗教に迷惑をしてきましたから。今でも、迷惑をしていますよ。

マルチ商法と同じくらいダルいですね。

もし、「最近、新しい宗教があるのを知りまして、ようわからんけれども、生まれて初めて入信してみました。」・・・ こんな話であれば、本当に危険ですよ。今、書いていて自分でも面白いんですけど、そんなことであれば、本当に怖いですよ。

そして、そんなレベルのものを、みなさんにオススメできるはずありません。

人は、ひとりひとり感性が違いますし、物事の真偽を見極められる感覚も違います。自分とまったく同じ感性や感覚を持つ人を探し出すことのほうが難しいと思いますね。しかるに、パチンコのことについては、カオスは発展途上段階であると表現をするしかないですけど、宗教の真偽については、絶大な自信を持っていますので、それだけでも覚えておいて頂きたいのです。

それで、今のカオスのみなさんにお伝えしたいことは・・・

「よう、信じることができましたね。こんな怠け者の私、中途半端なカオス・・・ それでも、磨けば光るかもしれない金剛石の可能性を、よう、見つけましたね。みなさんの眼力に、私は学びますし、尊敬をしたいと思います。そう、みなさんが私やカオスから学ぼうとしているのと同時に、私はみなさんから学んでいるのです。お互いに学びあうことができ初めて、人は進歩や成長をしていくものだと考えています。それでこそ、本物の感謝が生まれるのだと思うのです。」

うん。そんな気持ちですね。別に、私が好きな人でもないのですが、戦国武将の伊達政宗の言葉に、「疑って己の安全を保つより、信じて裏切られたほうがよい。」・・・ みたいな訓示がありますね。一般論として、騙されることは相手にとっても罪をつくらせることになりますので、できれば騙されないほうがよいとか、微妙なところもあるのですが、やはり、人を、その人の信念を信じない人が多くなりすぎますと、世の中、つまらなくなると思うのです。

そこで仏教の智慧を使えば、一撃で解決をしそうでもあるのですが、そう、釈尊の「中道思想」ですね。孔子さんも「中庸」と言っています。物事の「真ん中」を選択したら、はい、すっきり解決・・・ みたいな感じでしょうか。

ただ、仮に、何かの物事や問題が一撃で解決ができたとしても、何かこう、もう少し、人間ドラマがあってもよい気がするのですよ。例えば、今は、悪人であっても、周囲の人たちが、この人は、必ず善人になると信じて、信じ通して、そうした付き合い方をしていくと、その人が変わることもあるわけですね。

「信念、岩をも通す」・・・ って言葉もあります。

カオスブレイク7年間の歩みを振り返ったときに、私自身がそうした経験を積み重ねてきたようにも思います。本当は、パチンコホールのシステムが、コンピューターによる還元率での制御ではなくて、普通に完全確率であったものが、私たちの強い思い込みにより、前者に変わってしまった・・・ というのではないにしても、全国のパチンコホールの根幹のシステムの全貌解明に向けて、田舎育ちの馬の骨のような一人の男が言い出したことが、これだけの影響力を得てきたということであれば、誰しもの人間に眠るところの「信念の力」だと考えるわけです。

さて、余談を挟みましたが、「パチンコをするにあたって、一番、大事なことは何ですか？」というご質問でした。いつもは、「真剣さ」ということを前面に出すのですが、今回は、ちょっと視点を変えた話をしましょう。

「真剣さ」は、大事ですよ。かなり大事です。ただ、日本語のニュアンスの難しさといえますか、受け止められ方といえますか、ようは、同じ言葉だとしても、人によって、「真剣さ」の意味合いや内容が違うことがあるのですね。

例えば、「私は、真剣に、当たるまで打っています！」とか、「私も、負けた金を取り返すために何台も何台も当てることに真剣です！」とか、「私こそ、真剣ですから、出す気があろうがなかろうが、毎日のようにパチンコに行っていますよ！」とか・・・

カオスのみなさんでも、お心当たりがございませんか。

「真剣さ」の履き違えといえますか、ボタンの掛け違えといえますか、それを靴で喩えるならば、左足ではスニーカーを履いて、右足では下駄でも履いているような感じでしょうかね。歩けないことはないにしても、やはり、そんな人がいたら、自他ともに痛いとは思います。

そして、ここがポイントになるのですが、もし、左足ではスニーカーを履いて、右足では下駄でも履いているような人が歩いていたら、他の人がそれを見たときに違和感を覚えることや、親切な人がいたら、痛い人になるので止めましょうと言ってくれることもありそうですから、どこかの地点で修正が入りやすいということがあります。

しかし、そう、ボタンの掛け違えくらいの些細なことであれば、本当は間違っているのだけれども、自分も他人も気が付きにくいということがありますね。そして、その人は、ボタンを掛け違えたまま、一日を終えてしまうこともありえます。

パチンコでも同じですね。明らかに間違った考え方、間違った技術で取り組んでいる人はすぐわかることがあって、間髪を入れずに修正などのサポートのご提供ができることがあります。しかし、ご本人の意識下でなくても、自分の弱点や欠点を巧妙に隠しながら、アドバイスを得ようとしている人があったときに、なかなか、その人の弱点や欠点が見えてこないこともあるのです。

正直、私も不思議に思うことがあります。「ホール環境もよさそうなのに、何でこの人は成績がよくならないのだろう？」・・・ たまにありますね。それで気になりますと、追求をするために尋問をしていくわけですが、「どうやら、この人は、1回のパチンコの最中で勝っている時期はあるようだ。しかし、勝っているときに帰れない妙な癖が強すぎるので、結果的に負けて帰る割合が増えていたのか。」・・・ もちろん、ご本人からはそのことについての報告はないわけです。

「当たらないから勝てない」とか、「連チャンしないから勝てない」とか、散々と聞かされることがあって、よくよく何でそうなるのかと追求をしたときに、どうやら、勝っている瞬間はあるようだ、そして、ご本人の満足指数を玉個数で表現をしたときに、どうやら、毎日のように、50,000発くらい出さないと満足をされないような心境だと・・・

ここで初めて、その人の弱点や欠点が見えてくるのですね。そりゃ、2,000～3,000発の出玉や勝ちで満足ができるはずありません。そして、厄介なことにその人は真剣なのです。毎日のように、50,000発を出すことに対して。

・・・ 普通に考えて、無理です。

さて、カオスブレイクが存在をする目的や目標のひとつに、「断言ができることを増やす」というテーマがあります。世の中のパチンコの攻略法や何らかの技術論があったとしても、なかなか、自信を持って断言をしているような内容が少ないと思うのです。パチンコは、それだけ、不確定要素が強いものであり、みなさんが通われているホール環境も様々ですからね。

しかし、「断言ができることを増やす」以外に、普遍性の追求をすることはできません。そりゃ、そうですよね。例えば、ホールAでは通用をするが、ホールBでは通用をしないという状況であれば、普遍性もクソもありません。こうしたこともある、ああしたこともあると、そんな短絡的なことをいくら並べても、全体に通用をするものにはならないのです。

ですから、全体に通用をするような内容で、断言ができることを増やしていく努力、洞察、研究、これらの方向性がどうしても必要になってくるのですね。

そうしたことを前提として、今回のテーマでも断言ができることがあります。

「パチンコをするにあたって、一番、大事なことは何ですか？」・・・「冷静さ」です。

お陰さまで、私もカオスのみなさんのパチンコにおける栄枯盛衰を嫌というほどに受け止めたのですが、結果的に、成績がよいみなさん、結果的に、一定の満足をされているみなさんに共通をすることとして、「極めて冷静な洞察力や行動力」があると確信をしています。

もちろん、いつもいうところの「真剣さ」は必要ですし、当然のように真剣でなければなりませんよ。しかし、前述をしましたように、「真剣さ」の履き違えや、ボタンの掛け違えをされているケースもありますので、「真剣さ」の軌道修正ができなければ、その勘違いが深刻な病原菌やウイルスとなって、みなさんの体を蝕み続けることになります。ですから、そこにワクチンの意味で、「冷静さ」を注入したいと思うわけです。

そう、パチンコは、冷静さが弱くなるので妙な台の選択をしてしまいます。自信がない台でも打ってみたいくなります。まともなお釣りが返ってくるのかわかりもしないのに、同じ台に粘ってしまいます。勝っているのに帰ることができなくなります。被害が大きくなるリスクを考えられなくなります。自分の実力を超えた、分不相応の結果を求めたくなります。

これが、パチンコで負ける原因でしょう。

いくら「真剣さ」があっても、「冷静さ」がなければ、結果的に、パチンコで負けることが増えていくのであれば、やはり、「冷静な精神の状態」が必要な要素になりますね。カオスのみなさんのパチンコ日記などを読ませて頂いても、「冷静さ」がなかったり、弱かったりしたことが、多くの敗因の共通理由であると考えました。

ぶっちゃけ、カオスのみなさんにしても、かなりご真剣だと思いますよ。しかし、似たような「真剣さ」があったとしても、どうしても、結果が違います。それは、ホール環境や個人レベルでの技術の差の問題だけではないと思うのですね。

私は、金髪の巫女さまのように遠隔透視でカオスのみなさんのことを知りませんが、私なりにでも、よ〜く想像をしていますと、やはり、「冷静さの欠如」が、みなさんにとっての弱点や欠点になっているという結論です。

そして、「冷静さの欠如」とは、「感情の起伏が激しい」ということでもあります。

みなさん、単純に考えてみて下さい。今日のパチンコで、1回も怒ったり、ムカムカしたり、イラっとしなければ、それだけで10,000円もらえますってイベントがあったときに、みなさんは、それに対して努力をしようと思いませんか。

そう、本当は、10,000円どころではないこともありますね。例えば、つい先日に聞いた話ですけど、前半に調子がよくて、ピークで30,000円くらい勝っていましたと。それから、自分の予想では粘ればもっと出ると、やや確信をしていたのだが、結局は、当たりながら玉が減っていくような台であって、出玉の半分を金額にしたときに、15,000円くらい打ち込んだとことで目が覚めて、他の台を打とうと計画の変更をしましたと。

それでも、どうも調子がよくなくて、粘った台は出ないのに、1,000円くらいで見切って止めた台はカマをされて爆発をしているし、だんだんとイラついてきましたと。そして、命懸けか、渾身の一撃で当てたガロの魔界ラッシュが、あろうことか単発でスルーをしましたと。

もう、人によっては怒り心頭、許せない気持ちで一杯ですね。

結果的に、勝っていたはずの30,000円分の出玉をすべて返済してしまい、閉店間際になって帰る頃には、追い銭で40,000円も使っていた自分に気が付いた・・・という話です。ピークでは、30,000円もプラスであったのが、それをすべて打ち込んで、さらに追い銭で40,000円も使ったということであれば、その落差は、70,000円になります。

それでは、金額を変えて、先ほどの質問を繰り返します。

みなさん、単純に考えてみて下さい。今日のパチンコで、1回も怒ったり、ムカムカしたり、イラっとしなければ、それだけで70,000円もらえますってイベントがあったときに、みなさんは、それに対して努力をしようと思いませんか。

わかるでしょう？

怒ったり、ムカムカしたり、イラっとしなければ、人によっては、どれだけパチンコで金が残るのかってことですよ。

そうです！ 怒ったり、ムカムカしたり、イラっとするたびに、みなさんは、パチンコから持って帰れる金額を減らしているのです。たぶん、断言をしてもよい話だと思いますよ。パチンコで怒りっぽい人は、間違いなく「損」をしています。それも、人によっては、「怒りっぽい」という癖や傾向性があるでしょうから、1回や2回のことではないですね。そう、毎回のように、「損」をされている人もあるでしょう。

しつこいようですけど、少なく見積もっても、1回のパチンコで、10,000円の損をしている人があったときに、一ヶ月間、その人がパチンコに通ったら、300,000円の損害ですね。そんな人がいたら、気の毒さを通り越して、虚しくなります。怒ったり、ムカムカしたり、イラっとしなければ、毎月、300,000円のご褒美が出る人もあるわけです。

「いや、コウさん・・・ 私、それ以上に損をしている気がします。」

そう思える人は幸いです。そこから仕切り直しができる可能性があります。パチンコにおいて、怒ったり、ムカムカしたり、イラっとすることが、どれだけ「損」をすることなのかと悟った人から、パチンコで金が増えるようになります。残るようになります。

そうしたことで、今回は、「冷静さ」という視点から、パチンコの厳しさを考えてみました。厳しさというより、どれだけ「損」をしているのか、という表現のほうがよいかもしれませんね。

パチンコは、熱くなれば熱くなるほどに、地獄行きの特急列車の乗車券を買い込んでいるようなものです。何度も繰り返しますけど、怒ったり、ムカムカしたり、イラっとすることに比例をして、パチンコで損をしたり、勝てなくなったりします。間違いないです。実際に、他のお客さんの分まで怒り狂っているような人もいますよ。自分では、それが普通のことだと考えていることがあって、なかなか気が付きにくいケースも多いのです。

そこで大事なことは、自分を点検する、ということです。

「今、自分は、怒っていないか？」

「今、自分は、ムカムカしていないか？」

「今、自分は、イラっとしていないか？」

自分を客観的に見なければなりません。一步でも二歩でも下がったところで、自分を見つめるのです。他人のことなら、「どん引きした」などのような表現ができる人でも、自分のことになると、そんなに簡単にはできませんね。

自分自身に対して、「どん引き」して下さい。

そこにも、いろいろな方法論がありますね。例えば、自分が熱くなっていそうな気配を感じたら、とりあえず、打つのを止めて、パチンコホールの外へ出てみる。そして、外の風に吹かれながら、深呼吸でもしてみる。3分間でよいです。

その3分間で、その日、パチンコホールから持って帰れる金の金額が変わりますよ。

或いは、そのパチンコホールでよいので、とりあえず、打つのを止めて、すべての通路を3周くらい歩いてみて下さい。別に何かを確認するためではなくて、お散歩の気分でのよいのです。何も考えなくてもよいので、のんびりとお散歩をしてみてください。

その3周のお散歩で、その日、パチンコホールから持って帰れる金の金額が変わりますよ。

そして、私をご提案をすることを信じて、実践をされることです。騙されたと思って、実践してみましようよ。簡単なことですから。誰にでもできることです。そんな簡単なことで、その日、パチンコホールから持って帰れる金の金額がよい方向に変わるのであれば、実践をされる価値は大いにあると思いますし、逆に、みなさんのパチンコライフに取り入れなければ、そう、「損」をすることになると思うのですよ。

パチンコが、熱くなることに比例をして、負ける割合が跳ね上がるのであれば、そう、それとは逆のことを試したらよいのです。

ここが、智慧の部分です。例えば、仏教にはお馴染みの言葉がありまして、「文殊の利剣」というものがあります。文殊菩薩の智慧をお借りして、魔を調伏するような意味合いです。ようは、人間の悩みや苦しみや不幸の原因となる物事に対して、智慧を持って切り開きましょう、解決をしましよ・う・・・ みたいな意味だと思います。

そう、「文殊の怒り」とは表現をしませんね。智慧なのです。そういうことです。

そして、その智慧を構成する要素の中には、どうしても「冷静な考え方」が必要になると、私は思うのです。たぶん、それは他の違う分野の話でもそうでしょう。

例えば、何かの発明家のみなさんでも、「この前代未聞の発明は、極限の怒りによって生み出されたものです。」とか、或いは、芸術家のみなさんでもそうでしょうが、「この絵画は、想像を絶する怒りから完成をしました。」とか、他の分野で、音楽家のみなさんであれば、「このミュージックは、もう、人間に対する怒りですよ。それが頂点に達したときに完成をしたのです。」とか・・・あまり聞かないでしょう。

もちろん、そうした極端な感情が必要なときはあるかと思えますよ。非凡な感情の表現があるからこそ、人間が生み出す芸術作品などの価値を引き上げることもあります。ですから、「怒り」によって生み出された発明品や芸術や音楽もあるでしょうし、その他の分野でも、そんな物事があるやもしれません。

しかし、そこに「正しさ」や「正しい方向性」というモノサシをあてはめたときに、怒りによって生み出されたものは、やはり、「本物」になることが難しいように、私は思うのです。少なくとも、普遍的な真理や道標のようなものにはなりにくいと思うのです。

難しい話ですけどね。ただ、同じ表現での「怒り」についても、「私憤」と「公憤」とに分離をする考え方もありますので、そこに、本当の意味での「正義」があるのであれば、それも多数決などの範囲で、支持を得られる「怒り」になることはありえると思えますね。

ここが、今の私、今のカオスのみなさんにとっても、乗り越えるべき課題、学ぶべき課題ではないかと考えるところなのです。例えば、私たちは、パチンコホールのシステムが完全確率での制御をしていないと考えているわけですので、パチンコで勝っても負けても不満が消えることがないことがあるのです。勝っていても、還元率が低いことで損をしている、騙されているような気分になり、負けていれば、尚更、不満が募ります。

ようは、表向きは「完全確率での制御」と言い張っていますので、納得ができないわけです。

そこには、自分が勝てなかったことに対する「私憤」としての「怒り」と、全国のパチンコユーザーのみなさんを騙している可能性に対する「公憤」としての「怒り」があるかもしれません。個人的なもの、全体的なもの、違いがそこにあります。

それをわかりやすく、私の経験で説明しますと、例えば、パチンコに行って、1回も当てることができなくて負けたケースと、やや連続に近いスパンで10台くらい当てたのだが、結果的には負けてしまったというようなケースの違いです。

普通に考えたときに、前者の1回も当てることができなくて負けたケースでは、自分のパチンコの実力や才能の問題であるかもしれないと考えたほうがよいかと思えますが、後者の10台くらい当てたのだが、結果的には負けてしまったというようなケースでは、「それだけ当てて勝てないなら、どうやって勝ったらよいのか？」という話になりますね。

もちろん、何らかの平均値などのモノサシが必要になる話ではありますが、普通、10台も当てて勝てないようなパチンコホールは、何かがおかしいわけであって、そのときのホールの状態やシマの状態が、完全確率説で考えたときに、まともな状態ではないと考えるわけです。

そして、このような状況が続くときに、そうしたパチンコホールのシステムについて、公憤的な怒りを覚えてもよいのだと思うのです。

『ここが、今の私、今のカオスのみなさんにとっても、乗り越えるべき課題、学ぶべき課題ではないかと考えるところなのです。』

『自分が勝てなかったことに対する「私憤」としての「怒り」と、全国のパチンコユーザーのみなさんを騙している可能性に対する「公憤」としての「怒り」があるかもしれません。』

ここがポイントですね。パチンコホールにおいて、「怒りの感情」が湧き出すのには、このような理由があると思うと同時に、それらを大きくふたつに分けたときに、「私憤」と「公憤」とが存在をし、ホルコン制御を信じられるみなさんは、この2種類の怒りの交差によって翻弄をされていることもあるかもしれない・・・ という話です。

その翻弄とは、「私憤」なのか「公憤」なのかわからない状態で、怒るということです。つまり、チャンポン状態ということですね。それは、単純に、自分の怒りなのか、公共のような怒りなのか、という分別について、混同をしてしまっていることがあるということです。

難しいところだと思います。私も常に考えます。

ただ、理想とするべきは、「私憤」ではなく、「公憤」であって、「公憤」という感覚は持っていたほうがよいとも思いますし、パチンコが詐欺を前提とした巨大産業であるならば、本当は、持たなければならない感覚かもしれません。

そう、今回のテーマであるところの「冷静さ」の対極にあるような感情のひとつである「怒りの心」・・・ 大抵は、「私憤」であることが多いですよ。自分の都合での怒り、自分の不愉快さに対する怒り、自分が打っていて止めた台をカマされたことに対する怒り、自分が負けたことへの怒りです。

パチンコにおいて、その私憤的な「怒りの心」は、間違いなく「毒素」になります。そうした「毒素」は排除をするべきです。

このように、「私憤」はできるだけ排除をする方向で努力をし、「公憤」は必要な感覚である可能性があるので、分けて考える・・・ 自分の感情としては、似たような怒りのバロメーターかもしれませんが、その内容や質が違うことがある、ということを考えるのです。

そして、自分の心の中の怒りについて、チェックをするのです。

余談で関係のなさそうな話ですが、例えば、みなさんが勤務をされるところの会社の上司の小言や愚痴、怒られたり叱られたりなどの経験されたみなさんが多いかと思います。普通に聞いていわかりますよね。その人、個人の都合や、小さな部署、小さな会社の都合を理由としたような私憤など、志（こころざし）が高い人にしてみたら、ゴミのようなものです。

犬が尻尾でも踏まれて、ギャンギャンと吠えているようにしか聞こえないこともあります。

あれだけ怒り狂って新人や部下に説教をしていた上司が滅私奉公をしていたような会社が、翌年には倒産をしましたとか、よくあることです。世の中に歓迎をされるような職業であれば生き残るし、歓迎をされないような職業であれば廃れるだけのことです。

そんな会社で、私憤をブチ撒けていたような人は、偉くはないのです。ぜんぜん、偉くはありません。そう、ただの愚か者かもしれません。

他の人のためにならない小言は不要なのです。他の人のためにならない愚痴は不要なのです。他の人のためにならない怒りは不要なのです。

普通、そんな人を大好きだと言ったり、尊敬をしたりする人は少ないのです。

そう、パチンコも同じですよ。

小言、愚痴、不平不満、怒り、恨み、妬み、呪い・・・

この中に、みなさんがパチンコで実力を上げるために必要なものは、何ひとつございません。できれば、ないほうがよいです。まったくないほうがよいです。

正直なところ、私の原点は、パチンコホールへの「恨み」ですから、あまり偉そうなことはいえないのですけどね。それが、いつしか、北斗のケンちゃんのような「執念」に変わって、今では、「平和」や「安泰」という心境ではないのですが、そこまで感情が動きません。

そう、感情の起伏が少なくなってきた時期から、いろいろと技術論の進歩ができてきたようにも思いますね。

今まで気が付かなかったことに気が付いたり、見えなかったことが見えたりと、「冷静さ」の度合いが増えるのに比例をするように、進歩をしてきたと断言ができます。

そうしたことで、今回は、「パチンコをするにあたって、一番、大事なことは何ですか？」・・・というご質問に対して、「冷静さ」ですと、答えてみました。その「冷静さ」の対極にある感情が、「怒り」であることが多いと思いましたので、その件についてメスを入れてみました。

もちろん、人間の感情は多彩ですから、他の感情が邪魔をしているケースもあります。そう、前回の月刊誌で巫女さまと対談をさせて頂いた内容である「自己憐憫」も、その代表的な意識障害のひとつです。自分を気の毒だと思いはじめても、やはり、パチンコで成功をすることは難しくなります。折を見て、また考えてみたいと思います。

Q. カオスがホルコン攻略にこだわる理由を教えてください。

A. はい。単純に、こうした時代にあって、その空気を読みたいということです。今回の「スペシャルマスターコラム」でも書きましたように・・・

『パチンコホールが完全確率のシステムで成り立っているわけではなく、コンピューター制御を前提とした、ある意味で、詐欺商法のようなものであり、パチンコ依存症やパチンコで苦しむみなさんがあったときに、その根っ子を知って頂いて、「一定の納得」の後に、パチンコを続けるか止めるかの材料にして頂きたい。』

正直なところ、パチンコホールが「完全確率」で制御をされていなくて、コンピューターによる「還元率」で制御をされているということを納得して頂ければ、第一段階目でのカオスブレイクの役割は完結をするのです。

このような理由です。そこで、パチンコに興味を持たれるみなさんがあったときに、そんなことには別に興味がなくて、「自分が勝てればよいでしょう！」・・・という考え方もありますので、第二段階目としては、やや寛容な考え方といえますか、できるだけ、ご縁を頂きましたみなさんが勝てる方法をオススメしたいという気持ちがあります。

ですから、第二段階目においては、何でもよいのです。勝てるのなら。

そう、ボーダー理論でも、データ攻略でも、出目攻略でも、狭義での波グラフ攻略でも、靈感攻略でも、みなさんが勝てる割合が多い方法があれば、それらのご紹介をしたいと考えていますし、別に、ホルコン攻略が最強であるとも考えていません。

現実には、アナーキーのみなさんを代表とする、「新機軸のボーダー理論」のご紹介もして来ましたし、カオスのみなさんが試されることや、実践をされることについて、私は賛成ですし、それで勝てる割合が増えるならば、それもひとつの正解であると感じてほしいくらいです。

たぶん、アナーキーの総帥も、その点において私と同じ考え方をされていますし、パチンコが勝つことを目的にするのであれば、その手段については柔軟性があってしかるべきだと思います。いや、思いますよ。「熱い人が道を切り開く」というイメージでしょうか。私なんぞは、冷え切ったホッカイロのようなものですから、歳を取るたびに頑固になっていきます。

うん、アナーキーの総帥のような熱さが欲しいですね。

ただ、カオスブレイクの空気といいますか、今まで積み上げてきたものが、ホルコン攻略になりますから、実際に、そうした内容やレクチャーの割合が多いですし、その延長線上で、よりよい進歩をするために努力をしている状況です。

例えば、ありえにくい話ですけど、ほら、昔の時代、一過性にでも通用をした「セット打法」などで、今後、実際に効果が高い情報が出回ったら、普通に、カオスのみなさんにお知らせをしたいと思いますよ。「ホルコンは一時休業で、セット打法で稼ぎましょう！」・・・ みたいな。

まあ、ないでしょうけどね。そうした柔軟さはございます。

そもそも、「ホルコン攻略の定義」のようなものが、ハッキリとしていない気もしますわね。私が考えるホルコン攻略とは、例えば、ネズミのようにチョロチョロと動き回って、せこい当たりの取り方をすることが主軸であるようなイメージがあるかもしれませんが、実際にはそうでもないからですね。

普通に、強い台があったら、それを打ち続けることも多いのです。シマで1番目か2番目に強そうな台があって、その台を割り出せたときには、その台の限界（出玉のピーク）まで粘ることもあるわけです。ですから、そうしたときに、ボーダー感覚のみなさんとまったく違う台を選んでいるかといえばそうでもなくて、似たような台の選択になっていることもあると思います。

ようは、ホルコン理論で見立ててもこの台、ボーダー理論（一般的なボーダー理論ではない）で見立ててもこの台、というシンクロがあったときに、たぶん、その台は、高確率で勝てる台になれるでしょう。その見た目は、「水」と「油」のような性質の違いがあるかもしれませんがね。

それでも、フライパンに「油」が入ろうと、「水」が入ろうと、最終的には料理がつかれることができるわけですから、その理屈と同じだと考えています。

そうしたことで、カオスブレイクの第一段階目の目的としては、ホルコン制御についての核心の追求や、“対ホルコン技術論”の進化からの普及を目指していますが、第二段階目では、そこまでこだわりはない、という回答になります。

ただ、余計な話かもしれませんが、個人的には、同じカオスならカオスの中で、派閥のようなものが生まれてもよいと考えています。2次系派とか、ニコニコ派とかですね。うん、ニコニコ派になると穏やかそうでつまりませんから、もっと過激そうな・・・ハーゴン派、イサゴン党、みたいな。強そうでしょ。

もうねえ・・・昔から言いますが、みんなで喧嘩をするくらいの活気があったほうがよいですよ。カオスは、ホルコン幼稚園でよいのです。「ロマンシング・カオス2013」が炎上をしたとしても、何の心配もしません。カオスのみなさん、良識がある人ばかりですからね。人が風邪でもひいたら、熱を出して勝手にウイルスを撃退するように、自動的に消火をします。

そして、考え方の違う人たちと何らかのコミュニケーションができるからこそ、そこから刺激を受けて学ぶことも増えるのです。もし、結果的にでも、自分が間違っていたとしても、“ごめんなさい”でよいではないですか。パチンコの現場で間違えますと、何万円と損をすることがありますが、カオスで間違ったことをしても、別に代金の請求をされることもなければ、そのことが逆に、その人の成長に役立つことがありますからね。

そこで大切なことは、ときに、何が正しいのか、誰が正しいのか、という議論も必要なのかもしれませんが、本当に大切なことは、「考え方の多様性を知ること」だと思うのです。カオスにはこれだけ強烈な個性のあるみなさんが集結をされているわけですから、いじくらないことには、もったいないと思いますよ。どんどん、いじってください。

あ、もうひとつ。私もしみじみと思いますけどね。若いときには、何だかんだと友達ができやすかったりしていましたが、歳を取りますと、なかなか新しい友達ができにくくなります。最近、ネットで知り合って友達になる割合が多くなっているのかもしれませんが、リアルでは、けっこう難しくなりますよね。

友達が少ないと寂しいですよ。しかも、みなさんの周囲には、同じパチンコの趣味がある人はおられたとしても、ホルコンチックな感性を持たれるみなさんは少ないでしょう。そうしたことも含めて、カオスの有効利用をさせて頂きたいですね。私も私で、みなさんの交流環境の改善や、伸び伸びとした空間の開発に努力をしていきます。

Q. コウさんは、怠け者なのか、マジメな人なのかよくわかりませんが。

A. はい。両方なのです。

っていうか、今回のコラムを読んで頂ければわかるでしょう（笑）

ライオンは、必要なときにしか狩をしないのです。そして、狩をすることもめんどろになって、やせこけたジジネコのようになってしまいました。それでも、何かの文章さえ書ければよいかと考えています。私の関心事は、自分がお伝えする考え方や生き方で、誰かを感懐・・・いや、みなさんのご人生や、パチンコでの何らかのヒントになることがあればと、そこに、とても興味があるだけで、自分のこととか、別にどうでもよいところがあります。この月刊誌を書いているときも、かなり体調が悪かったのですが、何とかなると嬉しく思います。

Q. コウさんが、特定の宗教団体などに肩入れをする理由は何ですか。

A. はい。まあ、肩入れということでもないでしょうが、以前はよく聞かれていました。

そうですね・・・一言で、「普通に考えたらわかるでしょ？」と申し上げたいところですが、何の分野でも、自分で実体験をしてみないとわからない、掴めないところがあると思いますし、それが宗教にでもなれば、それこそ、目には見えない要素がありますので、最後は信じるしかない、という取り組み方になることもあるかと思います。

そうしたことを前提として、私の宗教観を書いてみます。

うちの家系は仏教の真言宗（空海）なのです。それで、私が幼少時より、朝晩のように祖母が仏壇にわけのわからないお経を唱えている風景を見て育ちましたが、宗教や仏教というより、線香臭いイメージしかありませんでした。ただ、たまに祖母のマネをして小さな仏壇の前で正座でもしてみると、何だか、気持ちが落ち着くような感覚はありましたけどね。

そうそう、実家の近所にお寺さんがありまして、法事や葬式のときに祖母が手伝いに行くこともあって、私もよく出入りをしていました。そこには偉そうな形相の仏像などがありましたけど、あまり興味がなかったですね。それに、そのお寺さんには和尚さんもおられましたので、時折にでも挨拶をすることがあったのですが、正直、仏教やお寺さんとは、葬式のときに仕事をしている職業だと思っていました。

それと、保育園ですか。田舎などでは、よくお寺さんが保育園を運営されているところがありますので、「仏教＝葬式や法事、保育園の仕事をする職業」というイメージが強くて、結局、本来の仏教とは何なのかさっぱり理解ができずに育ちましたね。

そもそも、そのお寺さんであっても、意味不明で難解なお経を聞くことがありましたが、「仏教とは何か？」ということすら聞いたこともなかったのです。たぶん、私の祖母も理解をしていなかったと思います。そういう意味では、「仏教＝普通の人にはわからないもの」という考え方もしていたかもしれません。

ただ、本当は、何か大事なこと、尊いこと、どちらかと言えば、粗末にしてはならないもの、こんな感覚は持っていました。それが、私の中学生くらいまでの宗教観です。

あ、キリストの教会にも通っていた時期があります。クリスマスの日とかですね。友達とお菓子をもらいに行くことがありました。そんなに大きなモニュメントではなかったのですが、磔にされたイエス様を見たときに、いつも具合の悪そうな顔をされていますし、そんな格好が好きな人なのかと思っていましたね。

結局、そこでも、シスターもどきのおばちゃんの下手くそなオルガンの演奏にあわせて、みんな歌を唄ったり、お菓子を食べたりするだけで、「キリストの教えとは何か？」とか・・・聞いたこともありませんでした。

そうそう、小学生の頃と同級生に、教会の息子さんがいたのですよ。牧師さんの息子さんになるのでしょうか。それで、写生の授業があって、そう、神社の写生の授業でした。しかし、その息子さん、なぜか神社の絵を描かないのですね。それで、その息子さんに聞いてみたら、半分は泣きかぶって、「神社の絵は書けない。」って言うのです。それで、私が「何で？」って聞きましたら、教会の息子なのでそれは絶対にダメだと父親に言われていたらしいのです。

私、小学生でしたけどね。「こいつら、アホだな・・・」と思いましたよ。

だって、日本にキリスト教を輸出しておいて、神社がダメとか言うなら来るなですよ。そんな考え方の狭い宗教はつまらんとおもいましたね。すべてのキリスト教がそうではないにしても、「普通に考えたらわかるよね？」っていうことをクリアができない宗派があれば嫌ですね。

宗派といえば、ほら、輸血を禁止しているキリスト教もありますね。余談ですけど、それについては、個人的に賛否の両方の視点で見えています。輸血禁止の部分だけですが。

実は、私の実家の近所に住んでいた親子さんが、その宗教に入っていて、近所の人からも疎遠になっていた話があるのですが、あるとき、息子さんが交通事故で重態になられまして・・・ そうなのです、早い話が、輸血をすれば助かったということです。そんな出来事があってから、近所での付き合いも少なくなったように聞いていました。

このような話があったときに、輸血の禁止をする宗派とはどうなのかと考えることもあります。

ただ、一方で、世界を範囲として、エイズなどが流行っていますでしょう。その感染原因の中には、一部に輸血によるものもあるでしょうし、前述の交通事故での重態などではなくて、別に生死に関わらないところで輸血が不幸の種を蒔くこともあるかと思うのです。

皮肉なことに、病院に行ったことで何かの病気に感染をした、ということもあるくらいですから、どうしても人間がすることなので間違いがあるわけです。そう、「院内感染」とか聞きますと、何のために病院に行ったのかわからんと考えることもあります。

このようなことが、賛否の両面として私が思うことなのですが、ただ、仮に、明日から、全世界で輸血が禁止でもされたら、とんでもない数の人々が亡くなっていくと思います。

そう考えたときに、やはり、「オール・オア・ナッシング」ではなくて、そのときの状況しだい考え方を考えるべきだと思います。時代背景に適合をした、より多くの人々の幸福に貢献ができるような柔軟性のある考え方です。そして、そこに一定の境界線を引くとするならば、それは、智慧の部分だと思いますね。

今、輸血が必要な人や、輸血をしなければ死んでしまう人があれば、その輸血によって、何かの病気に感染をしないような、しっかりと管理をされた輸血のシステムによって、事故や不祥事が起きないように再三の注意をしながら、輸血の提案をしていく・・・ そうした医療関係機関による研究や努力をすることが大事なように思います。実際に、そうなっているとは思いますが。

ですから、何の聖書に書いてあるのか知りませんし、何の誤解なのかも知りませんし、仮に、2,000年前にイエス様がおっしゃったことであっても、今の時代背景を考えたら、これだけ輸血が必要な人が多いわけで、輸血の禁止については、人間が根源的に守るべき教えであると、ちょっと考えにくいところがあるだろうと、私は思っています。

そして、どうせ守るなら、もっと他の大事なことを守ったほうがよいとも思いますね。

ああ、それと、物事には裏と表がありますので、輸血があれば献血もあります。その献血に着目をしたときに、献血をしたいという精神や行為は、仏教で表現をするところの「布施行」に相当をすると思いますので、他人に対してそうした気持ちを誘発させるという意味でも、献血の考え方は是とされるように考えています。

さて、話を戻しまして、仏教、キリスト教と来ましたので、神社もありますね。日本神道（にほんしんとう）です。昔から、正月であっても、私はあまり神社に出入りをする事はなかったのですが、やっぱり、ようわからんという感想を持っていました。まあ、おみくじを引けるところ・・・くらいの感想でしたかねえ。それと、お寺さんもそうで、観光をするところ、くらいな感覚で見ていたのを思い出します。

結局、何にしても、中身がわからん、という感覚でしょうか。そりゃ、姿形の見た目はわかりますけどね。お寺のお坊さんも、教会の神父さんも、神社の神主さんも、見れば何の職業かがわかります。誰でもわかりますわね。

しかし、中身がわからなかったのです。何を言わんとしているのか、何を大事にしているのか、何を伝えようとしているのか・・・

例えば、仏教でも、日本では、仏壇などで「線香」を焚く習慣があります。これなども、本当は、釈尊がお元気であった当時のインドでは、「蚊」などの羽虫が多くて、その撃退の意味で、線香を焚いていたという話があります。つまり、虫除け、蚊取り線香のようなものでしょう。

ですから、そうした虫が少ないような環境では、「線香」を焚く必要もないという意見もあるくらいで、私も、本当は、「線香」などいらんと思っています。あったらあったで気分的に違うのでしょうけどね。ただ、そうした習慣や儀式が仏教の本質ではないと、そういう意味なのです。

他にも・・・ 木魚などもそうかもです。私は、いらんと思いますね。そりゃ、太鼓の達人じゃないですが、リズムカルになってお経の効果上がるのであればよいのかもしれませんが、実際には、あんまり仏教の本質に関係がないような気がしています。どうせやるなら、ベースやギターも揃えて派手にしたほうが見ているほうも楽しめそうですけどね。

もう少し書いたら、そうですね・・・ 偉そうなお坊さんがまとっているところの、まるで十二単のような高級袈裟衣シリーズですよ。それを集めるのに、「檀家さんのお布施がいくらかかるのですか？」って感じですね。はい、普通に・・・ いらんでしょ。

そもそも、仏教の本家本元の釈尊が活躍をされていた時代でさえ、あんな聖闘士星矢に登場をする教皇のような格好をしたお坊さんなど、1人もいなかったと思いますよ。ときには、紅白歌合戦で見ていた小林幸子さんのようなパフォーマンスもありなのでしょうけど、見た目や格好を規律のように重視し過ぎるのもいかなものかと思っています。

そういう意味で、すべてがそうではないにしても、仏教もキリスト教も日本神道も、普通の人が受け入れ難い余計な習慣のようなものや、別に必要のなさそうな衣装や小道具や、お布施と称して集金をするところの一般常識を逸脱したような〇〇代金など、それらを、すべて取っ払ったときに、そこには一体、何が残るのかと考えていきますと、そう、「教え」しかないわけです。

そうです。時代とともに、その「教え」が弱くなっているのです。「教え」の対応年数が限界に来ているので、後の子孫のみなさんが、見た目とか、雰囲気とか、習慣とか、パフォーマンスの方向へ、比重をかけることが多くなっている、ということだと思ふのです。それを、宗教の「形骸化」と呼びます。へビの抜け殻のようなものです。

ただ、さすがは歴史のある宗教だけのことはあって、いくら形骸化をしても、その名残はありますし、どこかに、人を惹きつける魅力があるのも事実ですし、この世の中の役に立っていることも多いかと思ふのです。

そうしたことはありませんが、私が幼少時から物心をつくまで見ていたものは、宗教の「形骸化」という名のへびの抜け殻であったということであり、それが理由で違和感があったのだと考えたときに、けっこうな数の謎が解けていきましたね。

そうなりますと、もう、その本質を探る旅に出たくなるわけです。

見た目でもない、雰囲気でもない、習慣でもない、パフォーマンスでもない、すべての余計なものを取っ払ったときに残る「ガチの教えとは何か？」・・・ということですよ。

それから、23年が経って、当時、最も人間離れをした智慧を打ち出せた宗教、最も自分が感動を覚えた宗教、最も神近き仏近き輝きを放つ宗教、それを私は信じ、今でも続けておられるということは、やはり、当時の私の感覚に間違いはなかったのだと思うこともあります。

いや、自分の感覚というより、当時からアンビリーバボーな体験をしていましたので、結局は、何かのご縁で導かれていたのだと考えたほうが正しいかもしれません。私はもっと感謝をするべきなのでしょう。たぶん、そうです。

ただ、何を間違ったのか、途中でひねくれてパチンコの世界に入りましたので、そこから私の地獄への道がはじまったのです。あのまま、その宗教にでも出家をしておれば、それなりの人生を歩めた気もするのです。これも因果か運命かと、半分は諦めながらも今の自分にできることを精一杯するしかないと考えています。

それでも、運命の扉は便利なところがあるようで、私がこんな生き方をしてきたことで、カオスのみなさんと知り合うこともできましたし、パチンコのことでも偉そうに講釈を垂れる経験もさせて頂けるわけです。そして、ようやく、本来の自分に近付いてきたような気がします。

「点」と「点」とが繋がって、「線」になるような感覚はあります。

その「線」がどこへ続くものなのか、未だ見え隠れをするところもありますが、できるだけ柔軟な考え方を保ちながら、自分なりに努力をしていくつもりです。以上、これらの話が、私の宗教観の一側面でした。

そうですね。せっかくだから、「ガチの教え」のひとつをご紹介します。

仏陀（ブッダ）の言葉にあるのですよ。

「愚痴や不平不満を言い続けて、幸せになった人間など、いまだかつて一人もいない。」

人間、死ぬときでもよいのですが、「あなたの人生はどんな人生だったのですか？」と聞かれたときに、「はい、私は、人や世の中の悪口を言い続けた人生でした。」ってなったらですよ、そんな寂しい人生は嫌だと思いませんか。

それを遡って考えたときに、「自分は、人や世の中の悪口を言い続けるために生まれてきたようなものです。」ということになれば、何かアホらしいですよ。自分が惨めになりますし、生きている価値さえ感じなくもなりそうです。

もし、みなさんがそうした人生であるならば、やはり、考え方や生き方を変えるべきです。

それは、簡単なことなのですよ。今月号の特集でも書きましたように、不幸な人の考え方や生き方の観察をして、その逆のことを試せばよいのです。

例えば、他人の悪口が大好きな人がいたときに、その人が、それを続ける限り、いつか必ず不幸になります。ほぼ間違いがないことです。断言ができるでしょう。そうであれば、人の悪口を言わないようにしたらよいのです。

そして、できれば、他人を誉めることができるようになったほうがよいですね。悪口が大好きだった人が、それを止めたところで「±0」なので、普通の状態に戻るだけです。ですから、パチンコの波グラフのように、「+領域」を目指すために、他人を誉めることです。

この習慣を付けるだけで、自分の人生や生活、人間関係までもが好転をしていきます。

他人の悪口を言う人生、足を引っ張る人生、陥れる人生、呪う人生から・・・

他人を誉める人生、励ます人生、助ける人生、祝福をする人生に逆転をさせることです。難しくありません。誰にでもできることです。

何度でも書きましょう。仏陀（ブッダ）の言葉にあるのですよ。

「愚痴や不平不満を言い続けて、幸せになった人間など、いまだかつて一人もいない。」

んじゃ、逆のことをしたらよいだけの話でしょう。他人に対して、感謝をして、励まして、足ることを知る、そんな人生を送れたら、自動的に、人間は幸福になるのです。

そりゃ、そうですよね。自分は不幸だ、不幸だと言い続けて、幸せになった人がいたようには思えません。不幸だと思えば思うほどに、その人は不幸になるだけでしょう。

そう！ パチンコも同じなのですよ。

「自分は、パチンコで負けるために生まれてきたようなものです。」とか、「パチンコホールの生贄になるために生きたようなものです。」ということになれば、それこそ、アホらしいでしょう。

或いは、「パチンコの攻略会社に騙されるために生きたようなものです。」ということでも、辛いものがあります。ハゲワシかハイエナの餌のような人生ですよ。私なら耐えられません。

そうしたときには、「騙されることはあった。残念な思いをしたことはあった。しかし、そこからでも、何かを学べるかもしれない。いや、必ず、何かを学んでみせる。そして、絶対に同じ轍は二度と踏まない。」・・・このように考え方を変えたほうが、たぶん、その人にとって利益になると思いますし、その人の家族や周囲の人たちのためにもなります。

単純なことなのです。そして、その単純なことをより深く追求し、発展をさせ、自分でコントロールができるようにするのです。人は、けっこう、似たようなことで失敗をするものなのです。似たような性質のことで何度も失敗をするものなのです。だからこそ、本当の自分の弱点を知って、そこに、ATフィールドを張るわけです。絆創膏でもよいですが。

そう、「同じ失敗を二度としなければ、人は失敗の数だけ、強くなります。」・・・この話だけでも確実に自分のものにできれば、マジックのように人生は変わります。

そうしたことで、たった一行の仏教の初級編のような話でしたが、本来の仏教とは、極めて論理的なものなのです。極めて論理的な人間学であり、幸福論であるのです。人間が幸福になるための考え方を追及し、研究し、そこに最大の普遍性と再現性を持たせた仏陀の叡智である、ということなのです。

私が幼少時から聞いていた、祖母のお経、お寺のお坊さんのお経・・・ たぶん、何千回も聞いて育ちましたけど、それでもまったく理解ができなかったような仏教が、「ガチの仏陀の声」を聞いたときに、私は当然のように目が覚めるわけです。そりゃ、そうです。ヘビの抜け殻しか眺めていなかった子供が、見たこともないような大蛇に出くわしたようなものです。

現代でも・・・ 意味不明のお経や題目でしょうか。毎日、何時間もそれらを唱えて修行をしているつもりになっている何かの信者や、そうした信者を増やそうとする宗教があるようですが、私が見ていても気の毒でなりません。

そう、うちの親戚の人たちでもそうです。毎日、命懸けでお経のようなものを唱えています。それが過激すぎたのか、喉や耳が悪くなって入院をして、さすがに入院をしているときにはお経を唱えないので、やがて回復をして、それから退院をしたら、また同じことを繰り返して・・・ それが自己完結で誰にも迷惑をかけないことであればよいのですが、大抵の場合は、そうした宗教に反対をする家族などが迷惑をします。

お経や題目を唱えれば唱えるほどに幸せになるとか言われましたらですよ・・・ 人によっては、もう、命懸けで、5時間も、6時間もそれを頑張ろうとするわけですよ。家庭のことも放り投げて、それに集中をすることもあるわけです。

そうすると、家庭不和が起こります。いや、普通に起こっていますよ。もう、別居をするとかの騒動になっている親戚もあります。信仰をする人はする人で、こんなにありがたいものを理解ができない人間は、家族であっても悪魔に取り憑かれていると思うのか、理解をしない家族や周囲の人に不満を募らせます。最後には、調伏や折伏とか言って裁くようになりますね。

一方で、普通に考えたときに、インチキの宗教であると気が付いている家族のほうも、あまりに真っ黒になってしまっている相手に対して、だんだんと愚痴を言いはじめたり、ついには業を煮やして、厳しい批判をするようになっていたりします。

「愚痴や不平不満を言い続けて、幸せになった人間など、いまだかつて一人もいない。」

こういうことです。

何千回、何万回、何十万回、何百万回とお経や題目を唱えたところで、このたった一行の真理を理解していない人たちがいるわけです。このたった一行ですら、教えることができない宗教があるわけです。そんな宗教が山のようにあるのが現代日本だと考えますが、そうしたものが宗教を名乗る時点で、仏陀やイエス・キリストや天照大神様に対して失礼だと思っています。

仏陀の教えには、八万四千の法門があると、つまり、それだけの数の真理がある、悟りがある、バリエーションがあると言われていています。前述の話など、その中のたったひとつの仏教の初級編か入門編のような話なのです。

いつまでも家庭内で憎しみあったり、排他的な感情で悶々としていたりするようでは、何の宗教的な功德やご利益かもわかりませんし、まったく悟りを得ていない、ということです。

それだけ、現代日本を牛耳っているところの、観光仏教や葬式仏教や宗教学問を含み、伝統宗教界、新興宗教界の「救済力の平均値」が低すぎる、という感想を、私は持っています。正直なところ、もう、メチャクチャだと思いますよ。とくに、新興宗教です。みなさんのご記憶にもあるかと思いますが、宗教団体で警察に捕まって死刑宣告をされた教祖もあります。そうした宗教法人を隠れ蓑にした犯罪集団が、日本宗教界の平均値を大幅に下げて来たのです。

蓋を開けてみたら、宗教でも何でもなく、ただの強盗団や殺人集団でした、ということもありますし、まだ、世間が認知をしていないところでも、その“邪悪なる芽”は、じわじわと勢力の拡大をしていることもあるかと思えます。

それで、また長くなりますのであれなのですが、「救済力の平均値」という言葉にも、過剰に反応をしてしまう自分があります。そう、「救済力の平均値」が低すぎるということだけであるならまだしも、逆のことをしている宗教が多いからですね。逆のことと言えば、「人々を不幸にしている」ということです。もう、宗教によっては、本当に最悪ですよ。

一般的な風潮として、宗教への世間的な評価や、マスメディアからの評価が低すぎるのにも頷けるところはあります。日本には、妙な宗教が多すぎるからです。20年くらい前でも、約20万団体の宗教があるとか聞いたこともあります。そんなにたくさんの神様はいらね、ですよ。

ま、あってもよいとは思いますが、もし、そこで許されるとしたら、ガチの神様であって、マジメな神様たちを希望したいですね。だって、大抵の宗教なんて、その目的は何かと考えたときに、その行き着くところは、何かの名誉か、お布施を集めることでしょう。

本来、「布施の精神」とは極めて尊いものであり、神仏や他人に対して、施しをする気持ちを持っていないような人たちを相手に、擬似的にでも、形式的にでも、習慣的にでも、神仏や他人へ対しての「布施という名の善行」を教えることで、自分が功德を積めるという、世の中の仕組みや法則性を教えたような仏陀の叡智だと思うわけです。

それが、妙な宗教で展開をしたら、もう、お布施泥棒、お布施地獄ですよ。

前述の、死刑宣告をされた教祖がいた宗教団体などは、信者へのお布施の提案をするのみではなく、ときに、誘拐をし、ときに、拉致をし、ときに、殺人までして、信者のみなさんの全財産を巻き上げるようなことを平気でしていたわけです。そう、宗教も悪用をされれば恐ろしいものになりますし、最近の、勘違い集団であるイスラム国ではありませんが、最後には、無差別な殺人までも肯定をするようになります。

ちなみに、私が思う、日本三大闇産業は、「日本宗教界」「暴力団」「パチンコ業界」だと考えています。そう、「シェアの要素」ですね。ただ、「暴力団」については、「裏の警察」という意見もありますし、完全にその存在の否定をする気持ちはないのですが、どちらにしても、時代が変わって来ていますので、もう少し、方向転換をしたほうがよいという感想を持っています。

世の中には、善人のふりをして、周囲の人たちを苦しめるアホな人たちもありますので、調子に乗っているそうした人たちに対して、「おしおきをする人たち」という立場であれば、よい仕事ができるような気がしますね。「反省の促進をさせる人たち」でもよいでしょう。

俗に、整理屋とか、交渉人とか、ありますでしょ。そうした分野で活躍をされるには、経験も豊富でしょうし、信頼ができると思うわけです。そうした膳なる意味での方向転換、これからの時代は、そうした業種にも、ニーズが多くなると思います。

さて、話を戻しますけど、ぶっちゃけ、人間なんてねえ・・・ どの時代に生きようとも、他人に恨まれたり、呪われたりする人生よりも、感謝をされる人生が楽しいし、嬉しいし、生き甲斐を感じるの間違いがないのです。子供でもわかることですよ。本当に。

他人から感謝をされて、怒り狂う人は少ないでしょ。

「感謝」という言葉は、「感じて謝る」という漢字で構成をされています。何を感じて謝ることなのでしょう。どうでしょう・・・ 難しいでしょうか。

それは、自分では気が付かなかったところの、与えられている物事について、ようやく気が付いて、「たった今、気が付きました。申し訳ございませんでした。」というニュアンスなのだと思うのです。すでに頂いていた物事に対して、「今、ようやく気が付きました。」ということですね。

すでに、与えられていた、すでに、助けられていた、すでに、愛されていたことに、今、気が付いたのです。そりゃ、謝りたくもなりますよね。

ですから、感謝という概念は、人間の本質、そのものである、ということなのです。

生まれてから、これまで、何ひとつ、与えられなかった人は、誰一人としてありません。本人が、それに気が付いていたかどうかの話ですね。そうです。それに気が付いた人は感謝の人生を送りますし、いつまでも気が付けない人は、感謝なき人生を送るだけです。

ですから、この世の中には、感謝ができる人と、感謝ができない人がいるわけではなくて、与えられていることに気が付いている人と、気が付いていない人がいるだけなのです。本当の意味で、与えられていることを知ったときに、人間は、感謝をせずにはおれないのです。

今回のコラムでも、不幸になる人の参考事例を書いてみました。「欲まみれの人生」ということでした。言葉を変えれば、「感謝のない人生」ということでもあり、「与えられていることに気が付いていない人生」とも言えます。自分が与えられていないと思うからこそ、他人から奪おうとするわけですよ。たぶん、すべての犯罪心理の奥底にあるものは、「他人からの略奪」です。詐欺や窃盗、強盗などは典型的にそうでしょう。他人から奪おうとする欲望ですね。

そう、殺人もそうです。他人の幸せを奪う行為です。大抵の場合、殺された人の周囲の人たちの幸福を奪うことになります。そして、小さなことのように思われるかもしれませんが、愚痴や不平不満もそうなのです。ほぼ、それを聞かされた相手は気分を害します。それまでは楽しかったとしても、普通は気分が悪くなります。家族でもそうで、愚痴や小言を言われ続けて幸せになった人などいないでしょう。

・・・ ついでですから、答えを書きましょう。

人間、幸せになりたかったら、「感謝」をすればよいのです。別に、妙な宗教に入らなくても、妙な考え方をしなくても、妙な人たちと付き合いなくても、「感謝をする習慣」を付けるだけでよいのです。もちろん、そこには「智慧」が必要です。

例えば、ガチの悪人と呼ばれるような人たちに感謝をしますと、その相手がのぼせ上がることがありますので、それは、正しい感謝になっていません。それでも、反面教師の意味で、自分の人生に登場をしてくれたような人たちであれば、十分に感謝をする対象になりますので、その相手に気が付かれないところで感謝をすればよいのです。

普通の人であれば、面と向かって感謝をすることで、もし、相手の心の中に“悪の因子”や“芽”があったとしても、それを中和することもできるようになると思います。基本的には、誰に対しても感謝ができる人間を目指すべきであり、相手によっては、智慧を使って迂回をする、ということです。ここが、人生という名のマイカーを運転するときの技術の部分になると思います。

そうです。誰にでも感謝ができます。

そして、感謝の回数が多い人、重みがある人から順番で幸福になっていくのです。本当の意味で、幸せな人たちを見てごらんください。必ず、誰かに、感謝をしています。感謝の気持ちなく、幸福になっている人など、誰一人としていないのです。

そう、このような考え方が、本来の仏教の考え方であると、私は思うのです。本来のキリスト教や日本神道もそうだと思いますよ。孔子の儒教もそうでしょう。本来の宗教で、神仏や他人へ対しての感謝を教えないものなど何ひとつないと思います。

ですから、新興宗教の中に多いような、表現は悪いですが、バカのひとつ覚えですよ。意味不明なお経や題目を、何千回、何万回、何十万回、何百万回と唱えたところで、他人との正しいコミュニケーションができないようでは、そんなものは宗教でも何でもなく、ただのマニアックな趣味でしかない一蹴をしたい気持ちがあるわけです。

すでに、宗教選択の時代が展開をしていますし、正しいものと、未熟なものが二極化をはじめていると思うのです。私の感覚では、「普通に考えたらわかるでしょ？」という発想があるのですけどね。人それぞれ、感覚が違いますでしょうから、私は、私なりの言葉や表現で、それらを分別するためのご提案をさせて頂きたいと考えています。

「ガチの仏陀の声」・・・ みなさんは、受け止められる自信がございますか。

以上、これらの話が、私の宗教観の一側面でした。

あ、ついでに、もうひとつ。

「人生に、乗り越えられない試練は与えられない。」

これも金言だと思いますよ。そして、深い言葉なのです。だって、この文章を読んでいるみなさんは、まだ生きていますからね。生きていくということは、その試練を乗り越えて来られたか、その最中であると取れるからです。

人生の最終失敗地点が、「自殺」であるとするならば、我らがこてさんがおっしゃるように、まだ希望があります。彼も稀に、私でさえドキッとすることを言われますからね。前世物語ではないですけど、お坊さんの経験は伊達ではありません。智慧のある人です。

まあ、内輪のことはあれですけどね。カオスのみなさん、本当に、個性が豊かなのもそうですけど、潜在能力ですよ。凄まじいものがあります。私が、このカオスを通して得ることができた財産があるとしたら、それは、人間の可能性であり、尊さです。素晴らしいみなさんとコミュニケーションができれば、自分も素晴らしい人間になれる気になってきますわね。

今後も、いろいろと教えて頂きたいです。はい、本心でございます。

Q. カオスブレイクが目指すものを教えてください。

A. はい。結局は、「物事の本質」の部分になります。

例えば、これから先、100年間も続くような会社や企業は少ないと思いますし、世の中の物事には、必ず、栄枯盛衰がありますので、いつかは朽ち果てていくような物事に対して、必要以上に「執着」をしないほうがよいという考え方があります。それらの対象が、表面的な物事や、一過性の事象になると、私は思っています。

もちろん、与えられた環境に対して、ベストを尽くすという姿勢があったほうがよいと思いますから、私も、それなりの努力をしている最中ではあります。その努力の中に、「物事の本質」を掴み取りたいという意味でしょうか・・・それが、パチンコの分野であれば、「ホールシステムの正体を暴く」という方向で追求をしたくなりますし、前回のQ&Aでの宗教の分野であれば、「正しい宗教を見つける」という方向に興味を持ちます。

過去、私に対して、「オカルトもここまで来れば、ひとつの文化だな（笑）」と揶揄をしてくる人たちもありましたけどね。

正直なところ、容易に見抜けるような物事については、あまり興味や関心がないのです。底が浅そうな物事については、別に私でなくても、他の誰かが取り組んでいるわけであって、どちらかと言えば、「難しい選択」や、「茨の道」を選びたくなるのです。それは、ゲーム感覚に近いかもしれませんね。難易度イージーをクリアできるようになったら、どうにも物足りなくなると、難易度ノーマルやハードに挑戦を試みたくもなります。

そうした意味で、現代のパチンコ産業や、日本宗教界というものは、私にとって食指が動く分野であるわけです。そして、そこには、「極めて共通をする本質」がありますからね。

表面的な物事や、一過性の事象を、一生、追いかけたとしても、それは、表面的な物事や、一過性の事象でしかありません。場合によっては、それは騙されている人生のように感じることもあるだろうと考えます。私もね、いろんな人たちの生き死にを見てきましたけど、やはり、この世に生まれて、「物事の本質」に接触をすることなく、この世を去った人たちの無念と言いますか、不満足感と言いますか、それらを感じたときに、もう少しでも、自分がお役に立てることはないかと、そうした思いしか出てきません。

例えば、パチンコの「ホールコンピューター」でもそうです。普通に見ていたら、パチンコ業界が自信満々で公表をしているような、「完全確率=100%」で制御をされているとは思えない現象が多発をするわけですよ。

しかし、それをホール現場で見ている、わからん人はわからんのです。

同じ人間なのですけどね。人によってはわかるが、人によってはわからない・・・ということがあります。当地の私の知人の知人でもあります。面識はありませんけどね。私のことはネットで見て知っているらしいですが、何かの掲示板で私の悪口を書いているのを読んで、私のことを信用していません。それが半分くらいでしょうか。残りの半分は、その人もパチンコをするらしいのですが、「ホールコンピューター制御」をまったく信じていないようです。

かれこれ、私の知人と同じく、これまでのパチンコで、軽く2,000万円くらいは負けていると思います。気の毒だとは思いますが、それも人間の自由意志だと思ってしまうのです。

そもそも、何十年とパチンコをしてきたような人たちでも、「ホールコンピューター制御」ということについて、頭ごなしに否定をする人もあれば、それを理解する気持ちがあったとしても、自分では確認をしようとはしない人もあり、確認をしたところでわからない人もあるわけです。

そうかと思えば、最近になってパチンコをはじめたような大学生のみなさんや、一般のみなさんでも、「パチンコもスロットも、普通に、何かの制御やコントロールをしているよね。」って気が付くこともあります。パチンコをはじめて一ヶ月目で、システムの全貌を解明したわけではないにしろ、「コンピューター制御」であると気が付かれた人もあるくらいです。その違いは何かと考えたときに、私は、「探究心」であると思います。

そして、その探究心の発端になるものは、「疑問」です。

そうです。それを逆に考えたときに、これだけパチンコ産業が莫大な市場になったのも、一言で、騙されてくれるお客さんがウジャウジャといたからだと思います。前述の「探究心」に繋がるような「疑問」を持つこともなく、パチンコに明け暮れてくれたお客さんがいたからこそ、パチンコが、これだけの産業になったのだと思うわけです。

そして、似たようなことが宗教の分野でも言えると思います。

「普通に考えて、騙されているでしょ？」というような宗教に金を貢いでいる人たちが、パチンコと同じように、ウジャウジャとありそうです。ここにも、前述の「探究心」に繋がるような「疑問」を持つこともなく、そうした宗教を信じている人たちがいるからこそ、いつまでも邪教のようなものが暗躍をしている、ということですね。

かなり前の話ではありますが、創○学会の信者の人に、入信の勧誘を受けたことがあります。それで、何気なく私が聞いたわけです。「○○さん、何で創○学会を信じているのですか？」って。そうしたら、「大学の時代が楽しかったから。」とお答えになりました。それで、間髪を入れずに、「他の理由はないのですか？」と聞いたのですが、それ以上のお答えはありませんでした。

その人は、「自分が大学時代に楽しかったから」という理由だけで、私の人生に大きく影響を与える可能性のある思想や信条、宗教観を押し付けようとしているわけです。もちろん、新規の信者を獲得することで、その人に何らかの利益があるのでしょうか、それを濁すわけですよ。普通に考えたときに、門前払いのような話です。

そうかと思えば、他の信者さんは、会社の給料が上がったとか、恋人ができたとか、宝くじが当たったとか・・・ みなさん、私より年上の人たちばかりでしたけど、もう、本当に、子供がダダをこねているようにしか見えませんでした。

ああ、日曜日のあれもありますね。子供を連れて来るところの・・・ 何やら最終戦争があるので、みんなで祈りましょう、みたいなキリスト系の宗教でしょうか。私も物好きなので話は聞くのですけどね。いや、思うのですよ。もし、そうした思想や考え方が、毒にも薬にもならないものであれば、時間の無駄を気にしない人たちが、趣味の範囲で取り組むこともありかなと。

ただ、そうした品行方正で趣味的な宗教であればよいのかもしれませんが、大抵の場合、他の宗教のことを聞くと、自分の宗教以外は、すべて邪教であって、そんなものを信じると地獄に墮ちるとか当たり前のように言うわけです。何の根拠や証拠をもとに、そうしたことをおっしゃるのは知りませんが、これも「天秤の原理」を狙っての話法なのかと考えもします。そう、大抵はそうですよね。他の宗教を誉めたがる宗教のほうが少ないでしょう。

そして、ここがややこしいところでもあるのですが、例えば、正教と邪教とがあったときに、邪教は邪教で、喜んで他の宗教の批判をしますし、正教は正教で、間違っただけの人々が信じないようになるために、その邪教なりが反省をするために、やはり、ときには批判をしなければならないこともあるのだと思うわけです。

前述の、死刑判決が下された教祖がしていた宗教もそうで、その教団のある書籍の中に、「幸福の科学の信者は地獄に墮ちる！」と、そう明確に書いてありました。買うのもアホらしかったので、図書館で借りた本でしたけどね。それから、そんなに月日は経っていないでしょうが、実際に地獄に墮ちたのは、その教祖やその教団の信者であった、という落ちです。

その当時、マスコミ関係者の中や、宗教学者の中には、その殺人教祖や殺人教団の擁護をするような意見を持つ人たちもありましたけどね。ちょうど、その教団が地下鉄で猛毒ガスを撒いた頃くらいからでしょうか、邪教の擁護をしていたような人たちがテレビに出なくなりました。さすがに、まともじゃないよねって、それで目が覚めたのかもしれない。

今でも、その邪教の残党といいますか、公安にマークをされているあれですね。何やら活動をしているみたいですけど、ぶっちゃけ、ニセモノの仏教教団であろうと、殺人教団であろうと、それを信じる人たちがいるということです。私たちの感覚で、普通に考えておかしいだろうと思うことでも、それがわからない人たちがいる、ということですよ。

『その探究心の発端になるものは、「疑問」です。』

そうです。それを逆に考えたときに、これだけパチンコ産業が莫大な市場になったのも、一言で、騙されてくれるお客さんがウジャウジャといたからだと思います。前述の「探究心」に繋がるような「疑問」を持つこともなく、パチンコに明け暮れてくれたお客さんがいたからこそ、パチンコが、これだけの産業になって来たのだと思うわけです。』

そう、何やら似ていませんか。

この世の中には、自分の魂が食い潰されているということを知らず、邪教のようなものに人生を貢いでいる人たちがウジャウジャとありますよ。前述をしましたように、完全調和型で協調性の高い宗教であれば、たぶん、多少は古臭くても、未熟でも、何とか許されるところがあるのかもしれませんが、普通は、他の宗教に対して寛容性の欠片もありませんね。

そうなりますと、そこにも「天秤の原理」が働きますので、どちらかの選択をすれば、どちらかとの縁が薄くなるが多くなります。そう、せつかく宗教心がある人たちでも、先に間違っただけのものを信じてしまいますと、なかなか、そこから抜け出すことが難しくなる、ということです。これが大量に人心を惑わせるどころの邪教の恐ろしさであり、罪深さであると、私は思うのです。

ぶっちゃけ、いくら信教の自由が保障をされている国だとしても、日本の宗教法人法の基準が狂っていると思いますね。もう、余程に立派な宗教でない限り、宗教法人の資格を与えるべきではないと考えるところもあります。宗教法人が非課税であるのは当然のことだと思うのですが、結局、それを狙った悪質な犯罪集団などが宗教の真似事をしたがるわけで、そこは智慧を使ってでも線引きをするべきだと思います。

そう、国家を挙げての宗教の格付けですよ。基準値を引き上げて、どうしようもないような宗教は登録を抹消するべきだと思います。個人的には、天理教や成長の家、幸福の科学くらいを残せばよいと思います。他は、別にいらね、ですよ。私はそう思います。

そうそう、念のために書いておきます。「念仏信仰」の限界という話です。創○学会に代表をされるような一般人には意味不明のお経や題目があると思いますが、それを唱えたところで幸福になるという論理的な証明などできていないのです。

### 『会社の給料が上がったとか、恋人ができたとか、宝くじが当たったとか・・・』

会社での給料を上げるためには、それなりの仕事をするのが本筋なのです。例えば、幸福の科学では、「給料の10倍くらい働きなさい」という考え方があります。もちろん、時間的に無理なところはあるかと思いますが、仕事の「質」を上げることは可能です。そう、智慧を使うのです。

そして、それだけ会社に貢献ができた人は、自動的に給料が上がるでしょう。もし、それでも給料が上がらないようなヘタレ社長が経営をする会社であれば、勤める価値はありませんし、将来性も厳しいでしょう。そうなれば、一定期間、その会社で努力をしてみて、それでもダメそうなら、転職をするという方向で考えればよいだけです。世の中に会社なんていくらでもあります。

### 念仏や題目で給料が上がるなど、ただの幻想であり、怠け者の発想ですよ。

次、恋人ですか。普通に考えて、恋人ができるためには、それなりに自分を磨く必要があるでしょう。基本は、自分の理想の相手を探すことではなくて、相手の理想の人物になることです。100%、自分の理想を叶えてくれる相手など、たぶん、一生かかっても探せません。稀にはあるかもしれませんが、世の中、そんなに自分に都合がよくは動いてはいないのです。芸能人などの夫婦を見たらわかりますね。日本人の平均離婚率については知りませんが、欧米人並みに加速をしているように思います。自己中心的な発想の「反作用」・・・ということです。

### 念仏や題目で恋人が見つかるなど、ただの妄想であり、痛い人の発想ですよ。

そして、宝くじですか。もう、無理でしょう。念仏や題目で宝くじが当たったなど、証明ができません。証明すらできないことを妙な宗教の宣伝に使っていることじたい、人様を騙しにかかっている証拠になりますし、まともな宗教であれば、そんなことは口が裂けても言いません。ましてや、ギャンブルを推奨するようなことはしません。

よう考えてみて下さい。

### 仏陀や空海さんが、一般の衆生に対して、宝くじをススめるでしょうか？

たぶん、できればギャンブルはしないほうがよいと言われるでしょう。パチンコや競馬もそうですね。たぶん、辞めたほうがよいと言われるはずです。ここが、「普通に考える」という発想なのです。一般常識でフラットに考えてみて、おかしいものは、たぶん、おかしいのです。

### 念仏や題目で宝くじが当たったなど、ただの戯言であり、詐欺師の発想ですよ。

そうしたことで、「念仏信仰の限界」ということを考えてみました。もちろん、世の中には、摩訶不思議な大宇宙のエネルギーのようなものも存在をする可能性がありますので、それらについて全否定をすることは無いのですが、普通に考えて、疑問が浮き出るような物事については、やはり、普遍性を欠きますでしょうから、宗教の本質として、普遍性を欠くものは未熟であると判断をしたときに、念仏だけの中身のなさそうな宗教には興味がない、という私の感想でした。

気持ちはわかるのですがね。世の中、そんなに甘くはない、ということです。

さて、長々と書いてきましたが、結局、普通の人がパチンコで騙されることも、妙な宗教に洗脳をされることも、善悪の判断の“モノサシ”が弱いからだと思うわけです。何が正しくて、何か間違っていることなのかの判断が鈍いということです。つまり、「普通に考えてみる」という感覚の平均値が低いということだと思います。それも、「人間の平均値」であると思うのです。

師走の選挙でもそうでしたけど、やはり、衆愚制から生まれた逸品のような結果になったのではないのでしょうか。毎度のように思いますけどね。この日本には、最も正論で正直に生きている人たちを排除したがる考え方や風潮があります。正しい考え方や行動をする人たちを認めなくては、世の中がよくなることはありません。

それと、「長いものには巻かれない心理」といいますか、“欲”の刺激をされて言いなりになっている、飼いならされているという側面もあるかもしれません。前述の選挙の話でもそうで、「なぜ、その政党を支持したのですか？」という問いがあったときに、例えば、会社の社長や上司からの指示や、暗黙の指示であるのでしょがない、であるとか、いつもお歳暮を送ってもらえるから、であるとか、地域的に昔からの習慣のようなものだから、であるとか、その人から借金をしているから、であるとか、その人から面倒をみてもらっているから、であるとか・・・

場合によっては、「主体性＝0%」のような話でありますし、その割合は知りませんが、けっこう、あると思いますね。そう考えて、選挙は選挙で、国民のみなさんの主体性に着眼をしたときに、現行の選挙のシステムが正常に機能をしていないところがあるかと思います。もちろん、それはそれで、民意の一側面であるわけですから、その結果については重く受け止めながら、正しいことをしたい人たちは、より粘り強い努力が必要になるのでしょう。

そもそもですよ。今回の選挙の演説などで、国民の何たら・・・ 国民の・・・

国民、国民と呼び捨てにしたような話をよく聞いていましたけど、「国民のみなさま」か「国民のみなさん」じゃないのかと不満に思っていました。普通で感覚で聞いていて、失礼だと思いましたがね。「政治家とは、どんだけ偉いのですか？」って思いましたよ。公務員は、国民のみなさんの公僕であるべきであり、謙虚さのない人物など、即、退場だと私は思うのです。

まあ、余談でしたけど、こうした話も、「人間性の本質」を読むための何かのきっかけになるかもしれません。

そうしたことで、「カオスブレイクが目指すもの」というご質問でしたが、これまでの参考話のように、「物事の本質」の部分になります。とくに、パチンコの分野や、宗教の分野は、その根が深いですからね。人間を学ぶ材料としては極めて価値があるようにも考えています。

ただ、そこには、「酒は呑んでも呑まれるな」という言葉がありますように、パチンコも宗教も主体性が弱くなりますと、いつ間にかにでも翻弄をされてしまうことがあると思うのです。それを防ぐためには、そうした難しい分野に関わりを持たないことが手っ取り早くもあるのですが、それでも挑戦をしたいと思う人たちがあったときには、そう、「疑問」を持つことです。

以前、私の友人が、「信じるために疑うことが大事だ！」と、そのときには、私にはではなくて、他の人に言われたのですが、正直、生まれて初めて、そうした考え方を知りましたので、本人には言っていないませんが、密かに感動をしていたのです。「そうか！ 疑うことは、疑問を持つことは相手に対して失礼になることだ」という先入観が強かったので、できればそうした態度は取らないほうがよいと思っていた自分があったが、その相手や対象が本物であれば、その疑問に対して臆することなく堂々としているはずだ。」という考え方が生まれたのです。

## 「私はあなたを信じたい。だからこそ、疑ってみる。」・・・ありでしょ？

表現を変えたら、「裏を取る」ということですね。信用情報のようなものです。疑問があることは早めに納得をしておいたほうがお互いのためになることもあります。もちろん、すべての物事や対象について、一々、疑っていても疲れますので、その必要があるときだけです。

例えば、私などはよい事例になります。たぶん、パチンコの攻略技術の分野で、特定の宗教を紹介しているのは、私くらいなものでしょう。いや、一般のみなさんの目に付くところのパチンコ産業全体を範囲としても、そうした分野で、「あの世がある！」とか、「守護霊ですよ！」とか、「神仏の加護がありますよ！」とか、「仏教、素晴らしい〜」とか、そんなことを当然のように言っているのは、私くらいなものかもしれません。

・・・ 私がアホだから？

いえいえ、そうした行為が、この世的にはタブーであることくらいは知っています。この月刊誌でも書いてきましたように、私は、自分が思っていた「人間の平均値」が、より低いものであると知ったときに、もう、うんざりとしたのです。この話については長くなりますのであれですけど、それが、カオスブレイクの方向転換の理由のひとつでした。

それで、話を戻したときに、すでにカオスブレイクは次の時代に入っていて、別に入信などを勧めることは少ないのですが、特定の宗教を紹介しているのは、それを知ったみなさんに、「疑問」を持って頂く目的もあるのです。

## 「何で？」って。

あはは。普通に考えておかしいでしょ。ほら、何かの宗教家のみなさんが、宗教の宣伝をすることは普通のことだと思いますけど、私なんぞはパチンコの研究者・・・ というより、最近、カウンセラーのような話や記事を書くことが増えてきたのですが、それでも、「場違い指数=100%」に近いですよ。

それがよいのですよ。刺激として。

そもそも、「世間の常識は非常識」という言葉もあるくらいですから、ま、人間はねえ・・・ 相当な認識力を持たねば、世の中で何が正しくて、何が間違っていることなのかの判断などできないと思うのです。以前、虎視眈々ブログでも書きましたように、この3次元宇宙空間の歴史ですら、何百億年あるのかわかりもしないのです。

これも、人間が認識をできそうにない話で、例えば、宇宙空間に“はじまりの刻”があってもよいとは思いますが、そう、ビッグバンのようなものでしょうか。通説で、それがあったと考えてもよいのですけどね。では、その前は・・・ ???

わからないのですよ。何にもない空間から、いきなり爆発が起こって宇宙空間ができたと考えるのも不自然ですしね。別に、爆発をしてもよいのですが、爆発をするなら、それなりの理由が必要なのです。エネルギーの法則があるでしょうから、何の理由もなく爆発をしてももらっても困りますわね。そもそも、何にもない空間が爆発をすることはないでしょう。

そういうことです。神や仏の存在を無視して、過去にしても未来にしても、無限遠点のような宇宙空間の認識をすることは不可能に近いと思うのです。

そうそう、余談ですけどね。「鶏が先か、卵が先か？」という議論があります。人間も同じように考えてみたときに、この地上に、赤ちゃんが先に出現をしたのか、大人が先に出現をしたのか、とも考えることができますね。

百歩譲って、人間はサルから進化をしたと想定をしてもよいのですが、それでも、赤ちゃんのサルが先なのか、大人のサルが先なのか、と考えてみたくもなります。普通、赤ちゃんのサルは、お父さんとお母さんのサルがラブラブ交尾をしないと生まれませんし、その両親のサルも、子供時代がないことには大人になりません。

### どちらが先に、この地上に生まれたのでしょうか。

もちろん、今度は千歩譲って、人間やサルのみなさんは、アメーバから進化をしたと想定をしてもよいのですが、自然界に突然として生まれた微生物が、環境の変化もあって、数億年くらい経ったら、本を読んでみたり、哲学を考えたり、宇宙の神秘に耽ってみたり、ニュースキャスターのように饒舌に喋ってみたり、善悪の議論をしてみたり、飛行機やロケットを空に飛ばしてみたり、みなさんのようにパチンコをするようになったのだろうかと考えたときに、途方もないくらいの違和感を、私は感じますね。

### それこそ、唯物論や無神論への信仰だと思います。

一般的な学校の教科書においては、ダーウィンの進化論が通説のように書いてあるかもしれませんが、先般の、朝日新聞の従軍慰安婦の誤報問題でも騒動をしていましたように、たかが数十年前のことですら、人間は間違った認識をして、それを学校教育に刷り込んでいるようなこともあるわけです。

この地球だけを範囲としたときにでも、生物や人類の起源など、数億年、数十億年以前のことだと思いますよ。普通に考えて、いくら私たちが現代人であったとしても、簡単に答えを出せるものではないように考えるのです。そういう意味で、「唯物論」や「無神論」が根本的な起源であるというような、まるで何か妙なものへ信仰をするような考え方は未熟だと思うのです。

「有神論」か「無神論」か・・・ また長くなりますのであれなのですが、私が大事だと考えるところですので書いておきます。簡単にまとめます。

(1) 神や仏が存在をするのなら、存在をするか、しないかのどちらかしかない。

(2) 人間の都合で、神や仏が誕生をしたり消滅をしたりとすることはしない。

私がポイントだと思うことは、この2点になります。それで、(1)については、単純に、「いるならいるでしょ。」「いないならいないでしょ。」ということです。

いくらなんでも、その中間ということはないですね。例えば、曜日の話ですけど、月・水・金には神さまがいて私たちを見守ってくれていると。そして、火・木・土は神さまのお休みの日なので、その存在もなくなる・・・ とか。それで、日曜日は、まあ、神さまのスケジュールの都合でどちらでもよい、みたいな。

或いは、神や仏は、半分だけ存在をしている、とか。意味がわかりませんね。普通に考えて、いるならいて、いないならいないでもらわないと困りますよ。別に、突然のように出現をしたり消滅をしたりしていてもよいのですが、それも何か不自然に感じるわけです。

そうしたことを深く考えていきますと、やはり、部屋の照明などではないですが、ちょうど、スイッチの「オン」や「オフ」のようにはっきりとしているものだと思いますね。神や仏が存在をするのならば、存在をしているでしょうし、存在をしていないのなら存在をしていない、それだけの話であると思います。そういう意味で、神や仏の「存在」や「不在」については、どちらかしかない、ということです。

次に、(1)の発想を前提にしたときに、(2)については、本当に、人間の愚かさということを感じ知ってきました。

昔、私の同級生にもいましたけどね。別にその人とは親しくもなかったのですが、何かのきっかけに、「神や仏を信じるのか？」と、私に聞いてきましたので、「ああ、いると思うよ。」と答えたのです。当時、私には信仰心があったわけでもなかったのですが、普通に考えて・・・そう、その頃にも流行っていたような幽霊話なども含めたときに、一般的には認知をされにくい存在や、怪奇現象のようなものですかね。

それらも含めて、私は、「過去に神や仏が存在をしないと証明ができた人もいなければ、そんな事例もない。」と知っていたわけです。

これは、逆説的な話になるのですが、過去、神や仏の存在を信じて、その存在を知らしめるために、その教えを伝えるために、その証明をするために命を懸けて生きた人たちは山のようにあるわけです。世界史を紐解いてもわかりますように、いつの時代にも、神や仏を求める人たちはありましたし、その“声”を伝えようとする人たちがいました。

しかし、逆に、神や仏が存在をしないと・・・それは、その時代折々の科学的な根拠でも何かの実験や統計でもよいのですが、神や仏の「不在」について、100%の証明ができた人は、人類史上、ただの一人もいないという事実があるわけです。「○○が○○であるから、神や仏は存在をしていないし、今後も存在をすることは無い。」と、そう立証をできた人などいないのです。

もちろん、本当は、それを何らかの方法で証明をすることに成功をした人がいたのだが、昔の時代にもよくあったような、何かの権力や圧力などのようなものからの影響で、「神＝不在」の研究論文や文献などを残せずに抹殺をされた人もあるかもしれない、という発想はします。

ただ、それでも普通にわかりますよね。神や仏が存在をしないという証明など、どうやったらできるのだろうかと考えてみたときに、何かの方法や糸口があるのかもしれませんが、たぶん、最終的には、自分が死んでみないと無理でしょうし、もし、死んでしまったら、自分の魂や死後の世界はなく、神や仏もいなかったという体験談があったとしても伝えることができません。

そうです。ですから、「死人に口なし」ではないですが、人は死んだら生き返らないし、何にもなくなるので、あの世もなければ、神や仏も存在をしない、という出口を選んでしまうことがあるのが、人間の愚かさであると、私は思うのです。

この世の中も甘くなければ、あの世も甘くはないのです。

専門的な唯物論者のみなさんや、無神論者のみなさんも大変だと思います。そう、先ほどの話に関係があるところの「臨死体験」です。あの世も神も仏も信じたくない人たちにしてみたら、「臨死体験」は、かなりの強敵だと思いますよ。これ、本当の話で、私の親戚のおじさんも、火葬場へ行く途中の霊柩車の中で息を吹き返したという話があります。下手をしたら生きたまま焼かれるところだったと語っていました。

インターネットで、「臨死体験」「実話」などと検索をしましたら、たぶん、山のようにヒットをすと思います。もちろん、すべての話が真実であるのかは微妙でしょうが、自分が経験や体験をしていないことでも、他の人であれば、「ねえ、普通にあるでしょ？」ってことです。

それで、私の同級生の話に戻りますが、私も聞いてみたのですよ。「あんたは？」って。

そうしたら、「俺は自分に正直に生きている。だから、神や仏は存在をしない。」と、自信満々で言っていました。

## (2) 人間の都合で、神や仏が誕生をしたり消滅をしたりとすることはしない。

この部分でしょうね。人間の考え方になるのでしょうか、思考レベルというものがあるような気がします。私もアホの自覚があつて苦勞をしているのですが、例えば、そのときの自分の気持ちとか、自分の気分とか、自分の感覚で、世の中の本質が覆されるというような錯覚をしている人がいるのだと思います。

何度も書く必要もないことですし、書きたくもないのですが、「俺は自分に正直に生きている。だから、神や仏は存在をしない。」・・・ そんなことをご機嫌でおっしゃったときに、私は普通に思ったのです。たぶん、この人より、サルのみなさんのほうが利口ではないかと。

今、その同級生に再会をすることがあつたとしたら、同じことを聞いてみたいですし、それでも同じ返答であれば、私はこのように語りかけるでしょう。

「あなたが目には見えないものを信じたくない気持ちは尊重をしますし、そのお陰で、妙な宗教などに騙されることを防いでいる側面もあるでしょうから、その考え方について全否定をすることは無いのですが、基本的に、あなたがどのような気持ちでも、どのような気分でも、どのような感覚であつたとしても、神や仏が存在をするかしないかということについては、まったく無関係な話であり、そうした自分を中心に世の中や大宇宙が存在をしているというような未熟な考え方をしていますと、いつかは自爆をされる可能性がありますので、どうぞ、お大事に。」

私、思いますよ。神や仏の存在を信じたくないみなさんがあつたときに、その大抵の理由は、「自分の経験や体験でそう思っている」ということです。或いは、周囲の人たちや他人の考え方をコピーしているようなものかもしれません。これまでの人生で、自分もそんなことを考えることは少なかったし、家族や友人、知人の人たちでも、神や仏を信じる人がいなかったのも、自分もそうしていたほうがよい、そう考えていたほうがよい、という感覚の人が多いでしょ。

## しかし、そんなことは、神や仏の「存在」や「不在」について、何の関係もないことなのです。

例えば、気象予報士でもよいです。たぶん、普通の人よりも、今後の天気の話については敏感でしょうし、天気予報の的中率も高そうですね。それで、気象予報士Aさんと、気象予報士Bさんがいたとします。

Aさん 「間違いはない！ 明日は雨が降る。90%は固いよ！」

Bさん 「いやいや、私の経験からしたら、明日は晴れるに違いない！」

こんな会話があつたときにですよ・・・ どのように明日の天気を予想するのかは、その人たちの勝手といえますか、何らかの経験やデータに基づいた予想をするのだと思います。

それで、実際には、AさんやBさんといった複数の人たちの総合的な判断を、私たちがテレビや新聞で見ている天気予報に反映をしているのかは知りませんが、毎日のように天気の予測をする仕事があって、それでも普通に、その予想がハズレることもあるわけですね。

そうなのです。いくら天気予報の達人のような人がいたとしても、明日の天気がどのようなようになるのかは、その人たちではどうにもならないものなのです。その人たちが、どのように頭を捻って明日の天気を予想しようと、どのようなデータに基づいた予測結論を出そうと、明日の天気そのものについては何の関係もなく、何かの影響を与えることもできないのです。

明日が晴れるなら晴れるでしょうし、雨なら雨が降るでしょうし、ときには、空から雹が降ることもあれば、本当の話で、空から魚が降ってくることもあります。

つまり、一般的な気象予報士の仕事は、今後の天気の予測をしたり、伝達をしたりとすることでしょうが、映画X-MANのストームのように、フォースのようなもので天候を自在に操るようなことはしないのです。自分たちの都合で晴れにしたり、曇りにしたり、雨にしたり、嵐にしたり、台風にしたりすることはしないのです。

・・・ いや、できないのです。

そういうことです。気象予報士が今後の天気について一定の予測を立てることはできるが、天候そのものについては影響を与えることができないように、それと同じく、神や仏の「存在」や「不在」についても、私たち人間がどのような気持ちで、どのような気分で、どのような感覚でその推測や議論をしたとしても、「ある」ものは「ある」し、「ない」ものは「ない」のです。

「それでも、自分は神や仏を認めないね！」ってご意見があるのは予測をしています。ただ、そこで私が思うことは、もし、神や仏が存在をしているとしたら、その考え方には、人間としての最大級の傲慢さがあるように考えるのです。傲慢レベルMAXかもしれません。

神や仏が、この地球を含めた3次元宇宙空間や、多次元宇宙空間の創造をされた根源の存在であると定義をするならば、自分たちはそこに住ませて頂いていて、その主（あるじ）を認めないということは、例えば、借家を借りているのに、それを自分の家だと言い張って、家賃の支払いをしないようなものなのです。普通、そんな話を借家の大家さんが聞いたらビックリします。

「いやいや、賃貸契約をしたでしょ？」って話です。

そうです。人間、誰しも、本当は、神さまや仏さまと何らかの約束や契約をして、この世の中に生まれてきたのかもしれないよ。それを思い出せた人は、本当の意味で、立派な人間として生きるでしょうし、それを思い出せなかった人は、痛い人生になるのかもです。

まあ、長くなりますのでまとめますけど・・・ これだけ世の中に、唯物論や無神論が蔓延していると神さまが知ったときに、たぶん、ビックリされると思います。正直なところ、この世が完全な唯物空間であって、あの世も神も仏も存在をしないのであれば、人間なんて動物のように好き勝手に生きたらよいと思うのです。その好き勝手が、犯罪と呼ばれるくらいに他人との調和を乱しますと、警察のお世話になって何かの罰を受けたり、刑務所に入ったりするだけのことです。

悪人と呼ばれるような人たちが、あの世や神や仏を否定したがるのは、何となくでも自分の良心の刺激をされるからだと思います。正しいという前置きが必要ですが、神や仏を信じる人は、自動的に善人としての生き方を選ばざるをえなくなるのだと、私は思いますね。

さて、書きはじめるといつまでも終わりませんので、そろそろ仕切ります。

「カオスブレイクが目指すものを教えてください。」というご質問でした。それについてまとめますと、下記のようなこととなります。

「ホールシステムの正体を暴く」という方向で追求をしたくなりますし、前回のQ&Aでの宗教の分野であれば、「正しい宗教を見つける」という方向に興味を持ちます。

そして、その探究心の発端になるものは、「疑問」です。

そうです。それを逆に考えたときに、これだけパチンコ産業が莫大な市場になったのも、一言で、騙されてくれるお客さんがウジャウジャといたからだと思います。前述の「探究心」に繋がるような「疑問」を持つこともなく、パチンコに明け暮れてくれたお客さんがいたからこそ、パチンコが、これだけの産業になって来たのだと思うわけです。

そして、似たようなことが宗教の分野でも言えると思います。

「普通に考えて、騙されているでしょ？」というような宗教に金を貢いでいる人たちが、パチンコと同じように、ウジャウジャとありそうです。ここにも、前述の「探究心」に繋がるような「疑問」を持つこともなく、そうした宗教を信じている人たちがいるからこそ、いつまでも邪教のようなものが暗躍をしている、ということですね。

世の中の“膿”のような物事について、綺麗に掃除をできる手伝いができればと考えているわけです。パチンコも間違った宗教も、あまりに生贄になる人たちがいる分野ですから、「少なくとも、その正体を知りましょう！」・・・みたいなアプローチをしたい、ということです。

関連した話として、間違った宗教、邪教と言いますが、そこにも、「普通に考えてみておかしいものはおかしいよね」という発想です。その感覚が必要だということでした。

よう考えてみて下さい。

仏陀や空海さんが、一般の衆生に対して、宝くじをススめるでしょうか？

たぶん、できればギャンブルはしないほうがよいと言われるでしょう。パチンコや競馬もそうです。たぶん、辞めたほうがよいと言われるはず。ここが、「普通に考える」という発想なのですよ。一般常識でフラットに考えてみて、おかしいものは、たぶん、おかしいのです。

そうしたことで、「カオスブレイクが目指すもの」というご質問でしたが、これまでの参考話のように、「物事の本質」の部分になります。とくに、パチンコの分野や、宗教の分野は、その根が深いですからね。人間を学ぶ材料としては極めて価値があるようにも考えています。

そういうことです。

そして、そのために、「疑問」を持つことの大切さを考えてみました。物理学でもないのですが、習慣的なことについては、どうしても慣性の法則が働きますので、間違ったものを信じていた期間に比例をするように、そこから抜け出すことが大変になりますからね。

「私はあなたを信じたい。だからこそ、疑ってみる。」・・・ ありでしょ？

表現を変えたら、「裏を取る」ということですね。信用情報のようなものです。疑問があることは早めに納得をしておいたほうがお互いのためになることもあります。もちろん、すべての物事や対象について、一々、疑っていても疲れますので、その必要があるときだけです。

パチンコの攻略屋と同じで、大抵の宗教も疑ってみたほうがよいでしょう。取り急ぎのようにお布施などを要求したがる場所は、やはり、怪しいことが多いと思います。それと、似たようなことで、何かの仏壇や偶像のようなものを購入したら幸福になるとか、意味不明のお経や呪文を唱えることで幸福になるとか、そうしたメニューは、基本的に、邪教の専売特許のようなシステムですから、もし、それでも何かの宗教に興味を持たれることがあれば、みなさんが納得をされる説明を求めたほうがよいと思うのです。

次に、神や仏の存在についての私の意見を書いてみました。まあ、この月刊誌の95%くらいは私の個人的な意見ではあるのですが、そこまで不思議な話でもない・・・ 思いませんか。たぶん、そこまで非常識な話ではないと思いますよ。

そういうことです。神や仏の存在を無視して、過去にしても未来にしても、無限遠点のような宇宙空間の認識をすることは不可能に近いと思うのです。

この地球だけを範囲としたときにでも、生物や人類の起源など、数億年、数十億年以前のことでと思いますよ。普通に考えて、いくら私たちが現代人であったとしても、簡単に答えを出せるものではないように考えるのです。そういう意味で、「唯物論」や「無神論」が根本的な起源であるというような、まるで何か妙なものへ信仰をするような考え方は未熟だと思うのです。

これは、逆説的な話になるのですが、過去、神や仏の存在を信じて、その存在を知らしめるために、その教えを伝えるために、その証明をするために命を懸けて生きた人たちは山のようにあるわけです。世界史を紐解いてもわかりますように、いつの時代にも、神や仏を求める人たちはありましたし、その“声”を伝えようとする人たちがいました。

しかし、逆に、神や仏が存在をしないと・・・ それは、その時代折々の科学的な根拠でも何かの実験や統計でもよいのですが、神や仏の「不在」について、100%の証明ができた人は、人類史上、ただの一人もいないという事実があるわけですね。「〇〇が〇〇であるから、神や仏は存在をしていないし、今後も存在をすることは無い。」と、そう立証をできた人などいないのです。

私、思いますよ。神や仏の存在を信じたくないみなさんがあったときに、その大抵の理由は、「自分の経験や体験でそう思っている」ということです。或いは、周囲の人たちや他人の考え方をコピーしているようなものなのでしょう。これまでの人生で、自分もそんなことを考えることは少なかったし、家族や友人、知人の人たちでも、神や仏を信じる人がいなかったもので、自分もそうしていたほうがよい、そう考えていたほうがよい、という感覚の人が多いでしょう。

しかし、そんなことは、神や仏の「存在」や「不在」について、何の関係もないことなのです。

そういうことです。気象予報士が今後の天気について一定の予測を立てることはできるが、天候そのものについては影響を与えることができないように、それと同じく、神や仏の「存在」や「不在」についても、私たち人間がどのような気持ちで、どのような気分で、どのような感覚でその推測や議論をしたとしても、「ある」ものは「ある」し、「ない」ものは「ない」のです。

・・・ 長いですね。そりゃ、私も一行くらいで済ませたい気持ちはあるのですが、一行くらいでは、どうしても説明不足になりますので、しょうがなく追記をしているところもごさいます。

それだけ、「普通に考える」ことを極めたいという信念があるのです。

「それでも、自分は神や仏を認めないね！」ってご意見があるのは予測をしています。ただ、そこで私が思うことは、もし、神や仏が存在をしているとしたら、その考え方には、人間としての最大級の傲慢さがあるように考えるのです。傲慢レベルMAXかもしれません。

これで、最後です。ぶっちゃけ、この通りだと思いますよ。みなさんの周囲にも、強烈な唯物思想で生きておられる人たちや、無神論の人たちがあるかと思います。どうですか？・・・最終的にでも、謙虚さが弱いような気がしませんか。ちょうど、中国の国家主席のような人ですね。

もちろん、妙な宗教に洗脳をされているような人たちよりも安全かもしれませんが、それでも、山猿のボスのようなタイプの人には嫌われるのです。そして、人に嫌われて幸せになることは難しいでしょうから、できれば、謙虚な人を目指したほうがよいと思うのです。

そして、間違っただけでなければ、神や仏を信じて生きているような人たちのほうが、やはり、友達にするにも、付き合うにも、そう、安全ですよ。

人それぞれ、立場や環境は違いますが、神や仏を信じられる人たちは、それなりに、善人として生きていこうとする志（こころざし）があると思います。そうした努力をする方向性がある、ということですね。善悪の判断について敏感である、ということです。

さて、今回の月刊誌は、サムローくんにも読んでもらえる可能性がありますので、ひとつ、彼にも唯物論者や無神論者からのテイクオフを希望したいです。神や仏を否定することが現代人のセンスだというような時代は、すでに過ぎ去っていますし、自分の生き様について、神や仏がすべて認知をしていると思えばこそ、悪事を働こうとするときの抑止力になります。

ほら、彼のときにもそうでしたけど、悪事はバレなければやってもよいというような考え方の未熟な人たちがあつたとしても、その悪事がバレたときには、しばらくでも悪いことをしなくなることもあるわけです。ですから、最初からお見通しですと、自分を見ている存在を認識できるようになれば、人は、普通に悪いことをしにくくなるものだと思うのです。万引きや空き巣でも同じでしょう。人が見ているところでそれを実行するバカは少ないですね。

そもそも、私が不満に思うことは、宗教に正教と邪教とがあつたときに、この世的には、どうしても人々の欲を刺激することが上手な邪教のほうが浸透をしやすい、民意に迎合をされやすい、という印象を受けることがあるということです。

日本人でも、これだけ妙な新興宗教などを信仰している人があるわけですが、もう、宗教の善悪とかの話ではなくて、欲や願望を刺激されたり、煽られたりしているような人たちが多くて、最終的には、自分たちが不幸になるために、高額のお布施をしたり、献金をしたりしているようなものだと思うのです。

一方で、正しい宗教、正教とは、他人に対して役に立つような生き方をしなさい、他人をよい存在であると信じなさい、助けなさい、愛しなさい、そして、正しい知識や智慧を学びなさい、自分の至らないところを反省しなさい、より正しく発展をしなさい、神や仏の御心にそった繁栄をしなさい、ということをおっしゃいますし、しかも、その選択は人間の自由ですから、どうしても、私の感覚で、“ずるい人”や“せこい人”は、受け入れ難いところがあるように考えてしまいます。

今の時代は、もう少しマシになって来てはいると思いますけどね。

それでも、宗教の善悪については、「大勘違い民族、日本人」という印象が強くあります。

もう、宇宙時代の到来ですし、この3次元空間をすっぽりと包み込む、天上界の時代の到来なのです。天上界の理念をあまねく地上に降ろす時代なのです。そう、愛と悟りとユートピアの時代の到来なのです。

みなさんにも、本当の意味で、流行に敏感な人になって頂きたいと思うわけです。

以上、今月号の「迷えるパチンカーへの処方箋」でした。



スペシャル・巫女ビタンA・メッセージw



日本国内でも超上級霊能力者の巫女さまに、素朴な質問をするコーナーです。

現在、国内には2万名を越える霊視能力者の存在が確認をされていますが、あくまでもそれは「霊が見える」程度の能力であり、前世通力（前世を見通せる能力）を持つ霊能者は、その中でも数パーセントにすぎません。

当月刊誌の著者である私も、HSグループ（幸福の科学）以外ではじめて出会うことができた稀有な霊能者であります。

また、「若い・きれい・すごい」の3点セットを兼ね揃えておられます、今が、“旬”の巫女さまと、みなさんもお友達になりましょうw

テーマ 『雑草さんよりも強く生きるためには』



皆さま、お久しぶりです。そして、はじめましての皆さまも、こちらを見てくださり、本当にありがとうございます！

あっ！ 月刊カオスブレイク、一周年記念、おめでとうございます。「明日のために、巫女ラッシュ♡」の連載4回目ということでお世話になります。本当は、もっと体当たりのコラムや記事を書きたいですし、皆さまのお役に立てるように頑張りますので、どうか、今後ともよろしくお願ひします。

それで、今回のテーマは、『雑草さんよりも強く生きるためには』ということで・・・ 『人生で辛くなったときに、いかに強く生きるか』という内容を、私なりの感覚でお伝えしてみたいと思います。よろしければ、何かの参考にして頂きたいです。

・・・ そうですねえ。人は誰しも、生きていますと、本当に様々な苦しみや挫折、または、思いも寄らないところで壁に激突をすることがあると思います。

仕事、対人関係、恋愛と・・・ 人によって、その事柄も辛い気持ちも違いますが、本当は、誰にも同じような『何かの思い』があると思うのです。そうです。『何かの思い』です。苦しんでいるときにも、挫折をしているときにも、何かの壁にぶつかって立ち往生をしているときにも、人はみな、『何かの思い』を抱いていると、私は思います。

もしかしたら、それは、『幸せになりたい。』という、本能的な欲求だったり、自分の理想だったり、心からの願いだったりするのではないのでしょうか。そして、それは、『本当の自分はこんなじゃない！』というような『心の叫び』でもあるような気がするのですね。

私が思いますに、もし、幸せになりたいと思っていなかったら、そんなに苦しんではいないはずなのです。その思いがあるからこそ、その叶えられない願いがあるからこそ、その理想と現実と隙間があるからこそ、人は、本当に辛さを感じてしまう・・・ そうではないでしょうか。

今の自分が、『本当の自分はこんなじゃない！』と知っているからこそ、人は、苦しんでいたり、悩んでいたり、悲しんでいたりするのでしょうか。

ということは・・・ 辛くなればなるほどに、自分を励ませばいいのです！

今回は、『雑草さんよりも強く生きるためには』というテーマで、その『雑草さんのような強さのある人』の秘密についての内容ですが、実は、そうした『人の強さ』と、『幸せへの思いや願い』とが比例をしているのです。

『人の強さ』は、『心の強さ』なのです。

それが自分や周囲の人にとって正しいことであるなら、幸せになりたいと思えば思うほどに、その人は幸せへの階段を昇ることになります。幸せになりたいと願えば願うほどに、その人の心が幸せになるための準備をはじめます。

自分の心の中のキャンバスに、幸せ一杯の自分を描いてみて下さい。自分が幸せなことで、周りの人たちも幸せになっている絵を描いてみて下さい。みんな、あなたに感謝をしています。みんな、あなたに拍手をしています。みんな、あなたを愛しています。

ほら、何だか、楽しくなってきたでしょ？

そうです。自分を励ますことです。自分にもできるんだと。自分にも幸せになれるんだと。自分にも愛してくれる人がいるんだと。そして、それは、本当のことなのです。

ここで残念な話をします。不幸な人です。不幸な人は、自分の心の中のキャンバスに、不幸な自分を描いているのです。どうせ、自分はダメなんだ。どうせ、自分は頭が悪い。どうせ、自分は人に好かれない・・・ ありませんか？

もし、それで不幸になっている人がいるとしたら、誰のせいでしょうか。

家族のせい？ 友達のせい？ 恋人のせい？ 知らない人のせい？ 神さまのせい？

神さまは、平等な存在です。そうですね。自分の心の中にどんな絵を描くことも許されているのですから。人は誰でも、心の中に、幸せな自分を描くことも許されていますし、不幸な自分を描くことも許されています。では、誰のせい？

そうですね。

それは、誰のせいでもなくて、自分がそうしているだけかもしれません。不幸な人は、自分で不幸になっていることが多いかもしれませんよ。

そうであれば、自分が不幸だと思っている人が、幸せへの階段を昇りたいと思ったら、そこからできる努力がありそうです。誰にでもできる努力がありそうです。

それは、どんなことがあっても、見つけるということです。ここで問題です。何を見つけたらいいのでしょうか。自分が不幸だと思っている人は、まず、何かを見つけたほうがいいのですが、それは一体、何なのでしょう。皆さま、何を見つめますか。

私が思う正解は・・・

『自分が本心から願っていることに気が付く』ということが大切だと思います。それは、『本当の自分の理想像』ということです。『本当は自分になりたかった自分』ですね。

例えば、カオスのマスター様のケースですと・・・

「まだまだパチンコをしたい」  
「ホルコン攻略をもっと伝えたい」  
「酒をガブガブ飲みたい」  
「できればギャルと〇〇したい？」

などになるかもしれません(笑) 勝手な空想で本当に申し訳ありませんが、このように、誰も潜在的な欲求や願いがあるのが普通であって、その中に、自分の本当の『理想』や『願望』のようなものがあるのだと思うのです。その人が、興味や関心があることの中に、『才能』のようなものが眠っていることもありますからね。

そうした、自分の『理想』や『願い』について思い出すように、何度も、何度も自分に問いかけてみるということですね。例えば、『本当は、自分は何がしたいのか?』『本当は、自分はどんな自分になりたかったのか?』『本当の自分はどんな存在なのか?』・・・ そうしたことを自分自身に聞くのです。

このような習慣によって、まだまだ諦められない、または、自分には諦めたくないことがあると、そうした『強い衝動』に気が付くことがあります。そして、本当の自分を知るための努力をしますと、自分自身と会話をするように自分の心を見つめていますと、不思議に、今の苦しみや逆境などを乗り越えたいくなるのです。どこからか、元気が溢れ出るように思えてきます。これを、スピリチュアルの世界では、『守護霊との対話』と呼びます。

心を澄まして、心の奥の奥からの声に、耳を傾けてみて下さい。

人は、誰も、本当は、自分自身との対話ができるものなのです。自分の守護霊は、自分が考えていることがわかります。いつも心配をしています。いつも協力をしたいと思っています。いつも自分を守ってくれているのです。それを認めるということです。それを信じるということです。それについて感謝をしながら受け止めるということなのです。

こうした『心の姿勢』が、自分を強くするための、ひとつの方法なのです。

そして、その苦しみや逆境を乗り越えるために、皆さまが強く生きていくために必要な気付くべきことが、もうひとつあります。

それは、『愛すること』と、『愛されていることを感じる』ことです。

愛することは、誰しもが無意識にできていることもあるかもしれませんが、残念なことに、愛されていることに気付けない人はたくさんいらっしゃいます。

そうなのです。寂しいことに、誰からか愛されていることがあっても、自分の気持ちで、相手からの思いを勝手に遮断してしまっている・・・ という皆さまが多いのではないのでしょうか。それは、家族からの愛情でもそうでしょうし、友人からの信頼でもそうでしょうし、恋人からの優しさもあるかもしれません。

本当は、無視をしてはいけない、相手の気持ち・・・

もし、そうした皆さまがいらっしゃいましたら、どうか、『愛されていることを受け入れる勇気』を持って下さい！

自分の殻に閉じこもらずに、辛いときや心が折れそうなときほど、そうした周囲のみなさんからの気持ちを受け入れてみるのです。余計なお世話もあるでしょう。わかっていることをしつこく言われることもあるでしょう。相手の顔を見るのも嫌になることもあるでしょう。

しかし、この『愛されていることを受け入れる』ということができれば、絶対に、皆さまの生きる原動力になって行くのです。それは、絶対にそうです。

それは、なぜかというと、『愛によって心が満たされる』からです。相手の『愛情』や『よい思い』が純粹であれば、それがどんなかたちであれ、どんな言葉であれ、どんなタイミングであれ、自分の心を潤します。自分の心を癒します。自分の心を包み込みます。

なんとなく嬉しくなったり、ワクワクしたり、楽しかったり・・・ 一番は幸せだと思えるからです。そう。その幸せを実感できれば、雑草さんよりも強く生きることができますよ！

雑草さんでも、あんなに強く生きています。そこに通りかかった人が、一言、『あなた偉いねっ！』と言ってくれたら、その雑草さんも喜んでと思いますよ。そうしたら、『私のように、あなたも強く生きてね！』って返事をしているかもしれません。

今の自分の『本当の願い』、そして『愛』を実感したときに、『生きる希望』が生まれます。

それを忘れずに、思い出すことを続けながら受け入れる。

それこそが、『折れることのない強い心』を持つための方法なのです。

人は、『思いの力』によって、必ず、『強い心』になれることを、忘れないで下さいね！

『幸せになることを、絶対に諦めてはいけません！』

では、この機会を頂きましたマスター様、心より感謝しております。ここまでお読み頂きました皆さまにも、本当にありがとうございました。

はい、欲深きマスターでございます。

さて、巫女さまには、いつもコラムなどの寄稿を頂きまして感謝をしているのですが、もう、私がどうのこうのとアドバイスを差し上げるような立場でなくなったと申しますか。

以前はねえ・・・ 老婆心ならぬジジナメコのようなアドバイスをさせて頂いていたのを懐かしく思うくらいに、そうです、ご立派に成長をされまして、いや、ずるいですよね。だって、靈感で大抵のことはわかるのですから、そりゃ、早いですわ。

パチンコ台じゃないですけど、基本性能が違いすぎますよ。

まるで、軽トラックとスポーツカーでサーキットをしているようなものです。勝てるわけないですね。私もけっこうな論陣を張って応戦をすることがあるのですが・・・ 無理です。最終的に、巫女さまには勝てません。圧倒的な正しさがそこにあります。

ただ、表現の部分ですね。まだお若いので、パズルのピースはあっても、上手に噛み合わないようなもどかしさがあるのは気が付いていまして、そこが唯一、私がちょっかいを出せるところかもしれませぬし、嬉しいところなのです。

ただ、それも今のうちなのでしょう。勉強の速度もフルスロットルですもんね。

さあ、今回のポイントはここです。

しかし、この『愛されていることを受け入れる』ということができれば、絶対に、皆さまの生きる原動力になって行くのです。それは、絶対にそうです。

いや、私にもわかりますよ。最近になってですが。

これは、仏光物理学（HS定義）の話だと推測をするのですが、他人からの「善念」とは、ひとつのエネルギーになるという発想なのです。それは、余計なお世話でもそうですし、すでにわかっているようなくどい話でもそうですし、自分にとってどうでもよさそうな話でもそうなのですが、それらもひとつのエネルギーとして考えたときに、それらを集めることによって、善のエネルギーの総量が増えるという捉え方なのです。

小銭でも集めたら大金になる、というような意味合いですよ。

まあ、失礼な表現かも知れませんが、わかりやすいでしょ。そう！「小銭なんていらねーよ！」って態度であれば、それを集めることもできなくなる、ということなのです。周囲のみなさんからの小さな小さな善念であっても、それらを受け入れることによって集めることができたときに、いつかは、大きな善のエネルギーになる、という発想です。たぶん、正しい観点です。

だって、大きな成功は、小さな成功の集大成であるという表現もできますからね。ですから、仏教の教えにも、小さな幸せを大きくする方法論があるくらいで、受け止め方しだいでは、どんなに小さなことでも、大きくなるように育てることができる、ということだと思っております。

えっ？ まだ聞きますか？

そうですねえ・・・ そこまでみなさんの熱意があるなら書きましょう。最近、森先生にお借りしたところのDVD（HS関連の講師さんの法話）の話です。タイトルは忘れましたが、「富」の話でした。たぶん、今回のテーマにも関係があります。

それで、結論は、人は何かをもらうときには感謝をすることがあるが、逆に、支払いをするときには感謝をしている人が少ない、という話でした。

給料でもボーナスでもお年玉でも、人はもらうときには感謝をすることがありますし、本当は、それが当然の姿勢ではあると思うのですね。もちろん、それでも感謝をすることがないような人は問題外といいますか、そこからはじめましょうという話なのですが、今回の話は、「支払いをするときに感謝をできるのか？」というテーマなのです。

私もねえ、この話は、はじめてのことで、かなりのショックを受けましたね。

まあ、長くなりますので結論だけを書きますけど、やはり、「入金」と「出金」の扱い方が違うのも変な話であって、本当は、「出金」にも感謝をしたほうがよいということです。大きなハンマーで頭を叩かれるような刺激がありましたよ。本当に。

結局、「出す金」に対して渋ったり、執着を持ったり、場合によっては、恨みを持ったりすることは、本来、価値中立的な存在の「金銭」というものを、排他的な方向性に着色をしているということです。自分から他人への金の流れが悪くなるということで、それは裏を返せば、他人から自分への金の流れも悪くなる、ということですよ。

例えば、何かの会社で考えてもよいですね。社員のみなさんは、給料をもらうことも目的で、一生懸命に働いておられるわけです。そこで、その会社の社長さんが、とんでもない守銭奴で、もう、1円でも支払いや給料を少なくしたいと思ってせこいことをしていたらですよ・・・ 普通、そうした社長さんの人間性を見抜いた社員のみなさんがやる気を無くしますよね。

その社長さんのために命懸けで働きたいとは思いません。

その結果、その会社の全体的な士気が下がって業績も落ちて、社長さんが苦しむという方向性になりやすいような気がします。

そう、「出す金」に感謝をしていないと、その「金が生きない」ということなのです。

そもそも、「入金」には歓迎をするが、「出金」には歓迎をしないという態度では、貨幣経済の根本原理に反します。貨幣は、循環をしてはじめて、その役割を果たすわけですからね。

HSの書籍に、「一万円札の仕事」という喩え話がありました。書くのがめんどくさいので割愛しますが、その話を今になって思い出したときに、これこそ、貨幣経済の原点であると思いますし、それこそが、「富の悟り」そのものであると痛感をしているところです。

そうしたことで、私も凡夫の一人ではありますが、巫女さまに負けないように、悟りを積み重ねて行きたいと考えています。お互いに頑張りましょう。そして、このコラムを読んで頂けましたみなさんも、ともに精進して参りましょう。ありがとうございました。

月刊カオスブレイク「アンダー・ザ・リアル・カオス10月号」でした。

はい、一周年記念ということで、  
ちよいと張り切って書いてみましたが、  
とんでもなく原稿が遅れてしまいまして、自爆・・・した気分でございます。



しかも、今回の内容で、またマスターが暴走をしたと、  
そう言われる予感もありますしねえ。

まあ、マスターはそんな生き物ですから、  
どうか、シーマンのように可愛がって下さい。

### 人生がうまくいかない痴話シリーズ

ゾンビを退治する夢をたまに見ます。

いつも、ギャルを助けながら逃げているのですけどね。

ほら、相手がゾンビなので、素手ではさわりたくないでしょ。

んだもんで、波動拳のようなものが出ないかと。

試しましたよ。50回くらい。

して、ようやく出たのが、オナラのような湯気って。

自分の夢くらい、好き勝手にさせてくれ～

『人生の王道を語る』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876881901/hsmail-22/>

成功者といえども、完全な人格ではないでしょう。自分のほうが勝っているところもあるかもしれません。しかし、現に成功した人がいたなら、成功者は成功者として認めて、そのなかから参考になるところを学んでいく——これが自分も成功していくための方法なのです。

『不滅の法』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4863951612/hsmail-22/>

霊的な真実に目覚め、「自分は霊的な存在である。心の波動が、悪しき方向に傾けば悪霊を呼びやすく、善い方向に傾けば善い霊を引き付けやすい。そして、あの世とこの世は、まったく別の世界ではなく、実は表裏一体であり、相互に連絡し合い、交流し合っているものである」ということを知ったならば、それは、ある意味で、「最初期の悟り」と言ってよいと思います。

『勇気の法』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876883807/hsmail-22/>

人の評価というのは、ずっとあとからついてくるものです。したがって、「今すぐに人の評価が得られるのでなければ動けない」というような、卑怯な人間になってはいけません。

『不動心』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/487688319X/hsmail-22/>

大事なことは、「自分の自己実現の目標や理想から見て、自分はいま回り道をしている。直接には関係のないことをしている」と思っても、そのとき自分に与えられた教材をフルに生かして生きることです。

『忍耐の法』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4863954123/hsmail-22/>

単なる、この世的な看板や地位、お金などで徳が生じると思ったら、間違いです。やはり、裸一貫、精進の力で、自分が自分をセルフメイド・マンとしてつくっていかなくてはなりません。そういう精進の力を持って、天命を信じつつ努力していき、道を拓いていく人に、多くの人たちがついてくるのだと私は思います。

『ティータム』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876885699/hsmail-22/>

家庭争議が起きたときに、まず考えるべきことは、「言葉の調律から始める」ということです。人を傷つける言葉、相手を裁く言葉、相手をほんとうにこっぴどみに砕き、失意の底に落とすような言葉、そういう言葉を出さないことです。

『成功の法』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876885249/hsmail-22/>

あなたが、ほんとうの意味において、自分自身がかわいいのならば、自分を大切にしたいと思うのならば、自分をいとおしいと思うのならば、その自分を、悲観的な言葉、否定的な言葉によって汚さないようにすることです。むしろ、つらいとき、悲しいときにこそ、積極的な、力強い言葉を出していくことが大切です。その言葉によって、暗い感情を一気に断ち切ってしまうことです。

## 『成功の法』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876885249/hsmail-22/>

つらいとき、苦しいときに、愚痴をあまり言わないようにすること、言ってもしかたのないことは言わないようにすることです。そのようなときにこそ、むしろ、「何か幸福なことはないか。ラッキーなことはないか」と探すことです。そして、もし、それがあったなら、それをこそ口に出して言うべきです。

## 『されど光はここにある』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4863953151/hsmail-22/>

うまくいかなかったことを、ほかの人のせい、環境のせい、周りのせいにしがちな人は、残念ながら、「地獄に招かれている」と考えなければなりません。

## 『繁栄の法則』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4906282121/hsmail-22/>

みずからの間違いは、いったん徹底的に反省する必要がありますが、「反省が大事だ」ということは、「毎日、くよくよしる」ということとは違うのです。いったん徹底的に自分の過ちを分析し、反省したならば、そのことについての記憶は忘却の河に流し去り、もう振り返らないことです。あなたが他人を許してきたように、自分をも許すことです。自分に罪人の烙印を押してしまわずに、刑務所から解放することです。これが「持ち越しなし」の原則なのです。

## 『幸福の法』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876885214/hsmail-22/>

自分のできるところから愛を与えていきましょう。人のためになることをしましょう。自分が幸福になりたいと言う前に、人を幸福にしようとしてごらんください。そういう人が増えたら、悩みは自動的に解決していくのです。

## 『神秘の法』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876885273/hsmail-22/>

悩みや苦しみは人間には付きものですが、宗教は、大昔から、この悩みや苦しみを解決する道を教えています。悩みや苦しみを長く持っている、いわゆる「執着」になり、逃げられなくなってきました。それを長く持っている、危ないのです。やはり、執着を取って、解放しなければいけません。その解放する方法が、仏神への祈願や祈りであったり、反省行であったりするのです。

## 『「幸福になれない」症候群』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876883327/hsmail-22/>

あなたが他人の成功を妬ましいと思う場合、実は、その成功はあなたの関心領域にあるものであり、その人はあなたの理想像でもあると言えるのです。妬ましいと思う気持ちは、ほんとうは、あなた自身がその人に成り代わりたかったということなのです。

## 『奇跡の法』 <http://amazon.co.jp/o/ASIN/4876883459/hsmail-22/>

幸福への道は、一つの扉が閉じれば別の扉が開くようになっています。道は無限にあるのですから、あきらめずに次の道を探すことです。

©Ryuho Okawa, Happy Science, IRH Press

はい、秋の夜長にでも読んで頂ければと作成をはじめたコラムでしたが、  
同時多発の体調不良もありまして難航をしてしまいました。

っていうか、文字数が、約16万文字を超えてしまいました。

・・・ アホですね。

あ、そんな私でも、今年になって嬉しかったことがひとつありますよ。

あれは、8月7日（木）でしたか。夏さんが私に大学に行けって言うてくれたことです。

実に、23年ぶりのことでした。

私に大学に行けと言うてくれたのは、私の人生で、たったふたりなのです。

みなさんのことは知りませんが、私としては、なかなか言ってもらえないことだったのです。

私もみなさんに対して、そんなことが言えるような人間になりたいです。

さあ、人生に勝利をするために、お互いに精進をして参りましょう。

コウ

カオスブレイク officialweb

<http://chaosbreak-premium.info/>

ホルコンマスターコウの虎視眈々（アメーバブログ）

<http://ameblo.jp/chaosbreak/>

コウのブログでは書けないヒソヒソ話w（アメーバグルっぽ）

<http://group.ameba.jp/group/gW1FDDTTZb21/>

サザンルーム By ChaosBreak（アメーバグルっぽ）

<http://group.ameba.jp/group/3i1YqZe98cJV/>

カオス48（スカイプコミュニティ） Skype ID chaosbraek-kou

C.T.U（ラインコミュニティ） Line ID chaos2012

ロマンシング・カオス2013（SNSコミュニティ）

